

# 千代田区第8期障害福祉計画、第4期障害児 福祉計画策定のためのアンケート調査報告書

## 《概 要 版》

令和7(2025)年9月

千 代 田 区

## I 調査実施の概要

1	調査の目的.....	1
2	調査の設計と回収結果.....	1
3	この報告書のみかた.....	1
4	回答者の属性.....	2

## II 調査結果の分析

1	日常生活上の手助けの状況について	
(1)	日常生活に必要な手助け.....	8
(2)	主な介助者.....	10
(3)	主な介助者の健康状態.....	12
(4)	主な介助者の相談できる場の有無と介助者に必要な支援.....	12
2	障害や疾病の状況について	
(1)	身体障害者手帳の級.....	14
(2)	身体障害者手帳の主な障害.....	14
(3)	愛の手帳の度数.....	14
(4)	精神障害者保健福祉手帳の級.....	14
(5)	自立支援医療（精神通院医療）の受給の有無.....	14
(6)	難病認定の有無.....	14
(7)	発達障害の診断の有無.....	15
(8)	高次脳機能障害の診断の有無.....	15
(9)	手帳を持たない理由と医療的ケアの必要の有無.....	15
(10)	現在受けている医療的ケア.....	16
3	住まいや暮らしについて	
(1)	地域で生活するために必要な支援.....	17
4	日中の活動、スポーツやレクリエーションについて	
(1)	平日の日中の過ごし方と1週間の外出の頻度.....	18
(2)	外出時に困ること.....	20
(3)	外出に必要な支援.....	21
(4)	障害児施設について困っていること.....	22
5	就園、就学について	
(1)	子どもに役立っている特別な支援・配慮等.....	22

<b>6</b>	<b>就労について</b>	
(1)	就労の状況.....	23
(2)	就労している場合の働き方.....	23
(3)	必要な就労支援.....	24
<b>7</b>	<b>障害福祉サービス等の利用について</b>	
(1)	障害支援区分の有無.....	26
(2)	要介護認定.....	26
(3)	障害福祉サービスの利用状況及び利用希望.....	27
<b>8</b>	<b>相談相手について</b>	
(1)	悩みや困り事の相談先.....	31
(2)	障害や障害福祉サービスの情報の入手先.....	32
<b>9</b>	<b>災害時の避難について</b>	
(1)	災害時の一人での避難の可否.....	34
(2)	近隣の援助者の有無.....	35
(3)	災害時に困ること.....	36
<b>10</b>	<b>障害者差別解消法について</b>	
(1)	障害者差別解消法の認知度.....	38
(2)	障害特性にあった特別な配慮が得られているか.....	39
(3)	特別な配慮が得られた場所.....	40
(4)	特別な配慮を得られていない場所.....	41
(5)	ヘルプマークやヘルプカードの認知度.....	42
<b>11</b>	<b>福祉施策等について</b>	
(1)	現在利用中の施設.....	43
(2)	将来利用したい施設と利用したい時期.....	44
(3)	障害児について特に力を入れて欲しい施策.....	46
(4)	住まいについて特に力を入れてほしい施策.....	47
(5)	就労について特に力を入れてほしい施策.....	48
(6)	生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策.....	49
(7)	余暇活動等について特に力を入れてほしい施策.....	50
(8)	その他の特に力を入れてほしい施策.....	51
<b>12</b>	<b>特別設問（令和7年新設）</b>	
(1)	福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態.....	52
(2)	紙の福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）を支持する理由.....	53
(3)	OriHime の認知度.....	54
(4)	OriHime 活用希望の有無.....	55
(5)	「良かったこと調査」の参加の有無.....	56

# I 調査実施の概要

## 1 調査の目的

この調査は、千代田区に居住する障害者手帳所持者等の障害福祉サービス利用実態及び利用意向を把握し、第8期障害福祉計画、第4期障害児福祉計画を策定するための基礎資料とする目的で実施した。

## 2 調査の設計と回収結果

- (1) 調査地域 千代田区全域
- (2) 調査対象
- ① 身体障害者手帳所持者（以下、「身体」と示す）
  - ② 愛の手帳所持者（以下、「知的」と示す）
  - ③ 精神障害者手帳所持者及び精神通院医療助成受給者（以下、「精神」と示す）
  - ④ 難病医療費助成受給者（以下、「難病」と示す）
  - ⑤ 18歳未満の手帳所持者及び障害児福祉サービス利用者（障害児）（以下、「障害児」と示す）
- (3) 調査方法 郵送・WEB（郵送配布—郵送・WEB回収）
- (4) 調査時期 令和7年7月26日～8月14日

	標 本 数	有効回収数	有効回答率
① 身 体	1,135	471	41.4%
② 知 的	125	57	45.6%
③ 精 神	773	171	22.1%
④ 難 病	390	112	28.7%
⑤ 障害児	296	102	34.5%
合 計	2,719	913	33.5%

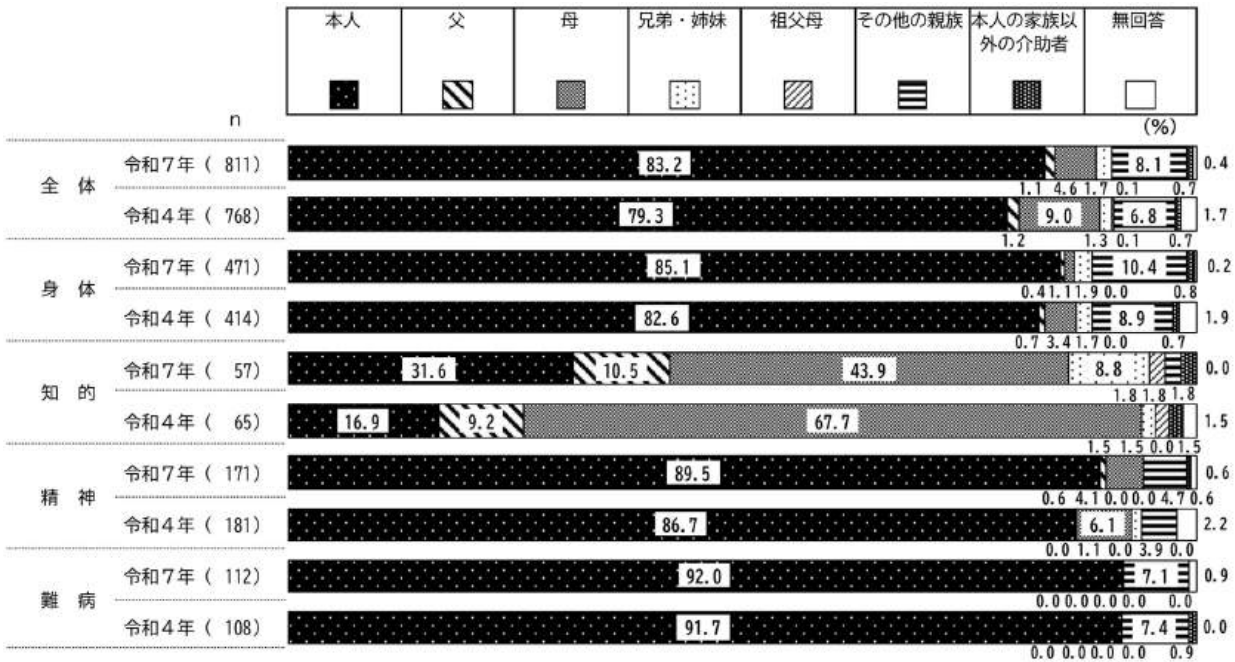
## 3 この報告書のみかた

- (1) 図表中の「n」は、各質問の回答者数を示す。
- (2) 調査結果の比率は、nを基数として比率を算出し、小数点以下第2位を四捨五入して第1位まで示した。したがって、すべての選択肢の比率を合計しても100%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の設問においても、nを基数として比率を算出しているため、すべての選択肢の比率の合計は、通常100%を超える。
- (4) 調査票上、①身体、②知的、③精神、④難病の各調査では、障害者手帳所持者、難病患者及び障害福祉サービス利用者等本人を「あなた」と呼んで質問したのに対し、⑤障害児調査では、障害福祉サービス利用中の障害児本人を「お子さん」と呼んで質問した。  
この報告書に示した質問文のうち、⑤障害児調査の質問文は、①身体、②知的、③精神、④難病の各調査にない単独の質問でない限りすべて割愛し、①身体、②知的、③精神、④難病の各調査の質問文のみ掲載した。
- (5) 選択肢の文言が長い場合は、本文や図表中では、選択肢中のかっこ内の文言を省略した表現を用いた場合がある。

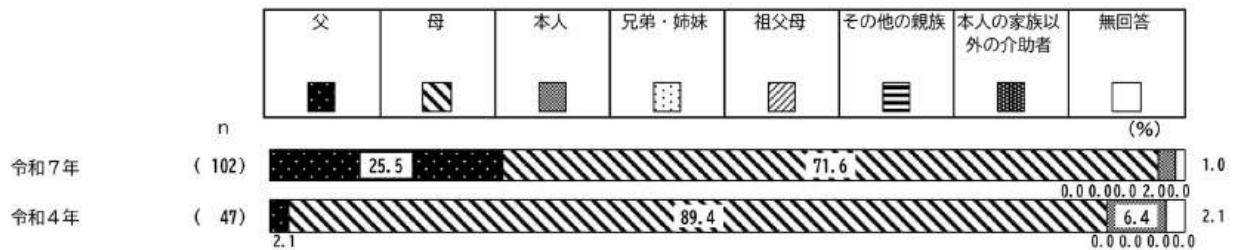
## 4 回答者の属性

### (1) アンケートの記入者

<全体（身体、知的、精神、難病）>

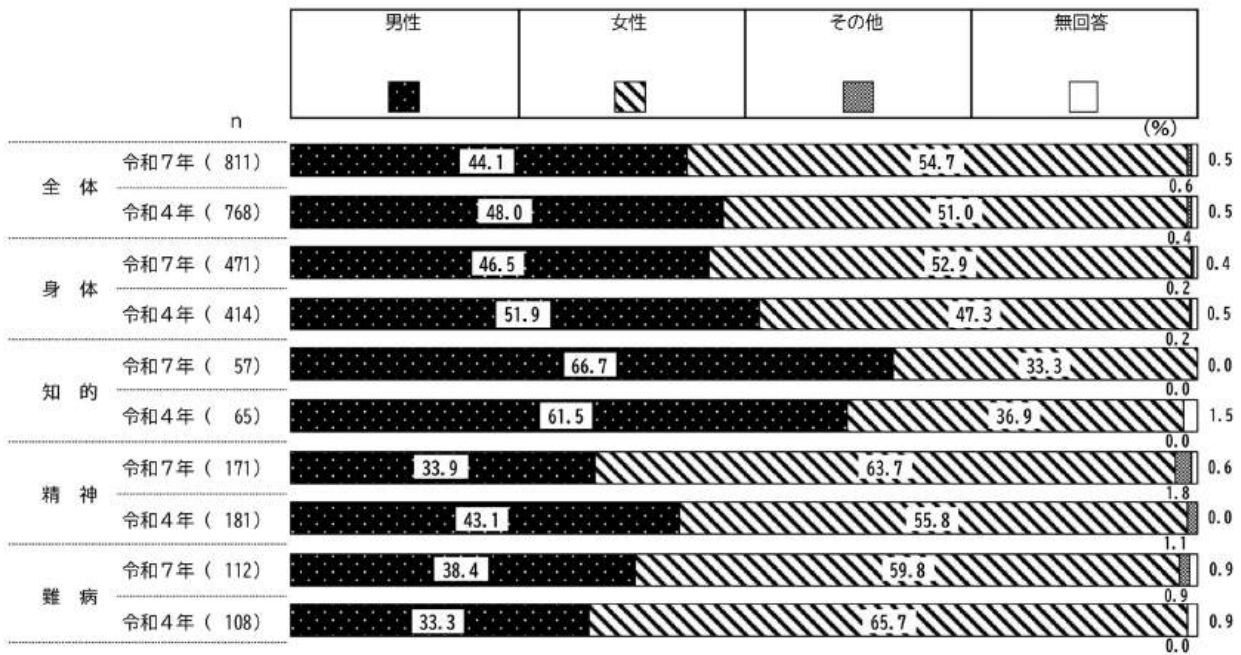


<障害児>

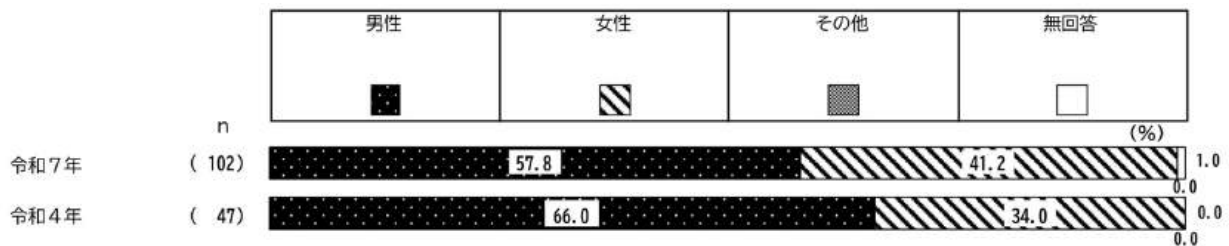


## (2) 性別

<全体（身体、知的、精神、難病）>

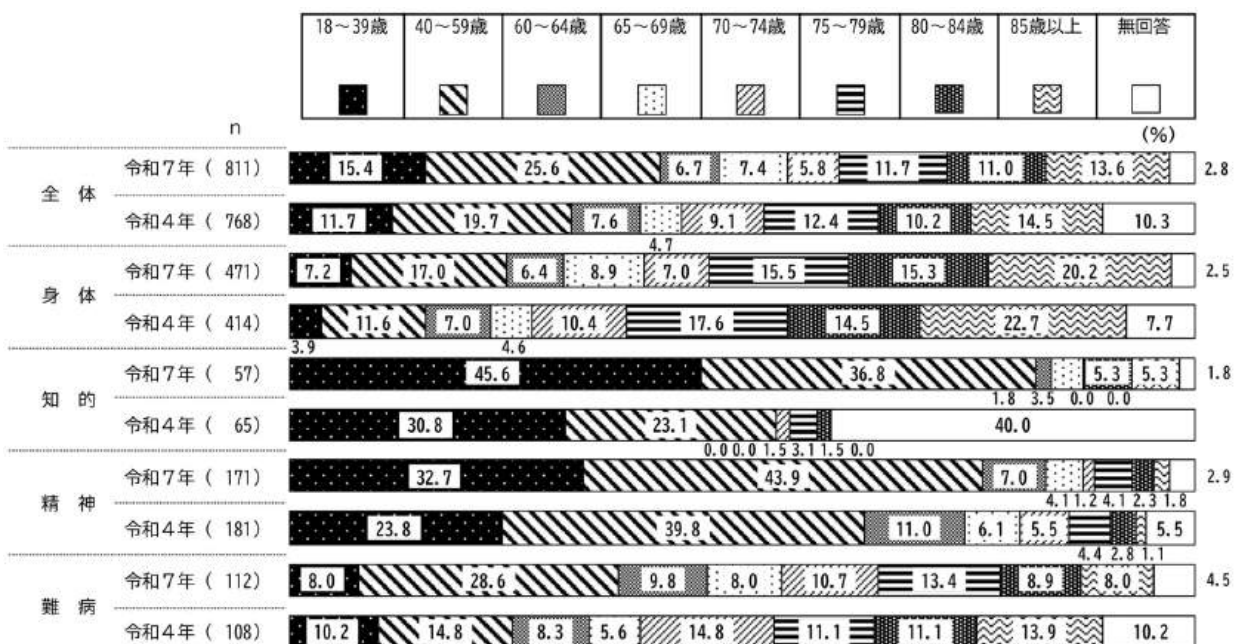


<障害児>

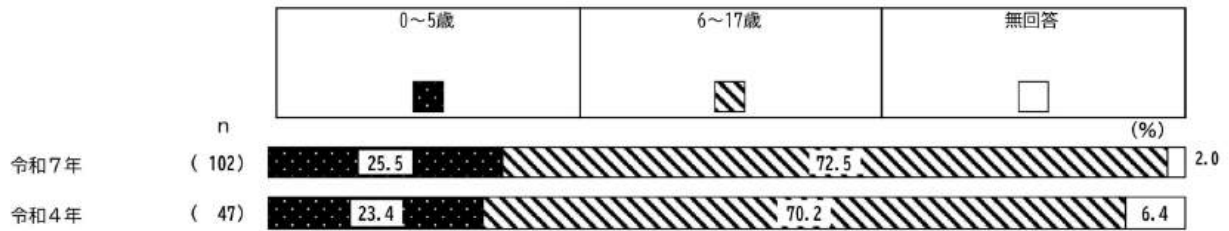


## (3) 年齢

<全体（身体、知的、精神、難病）>

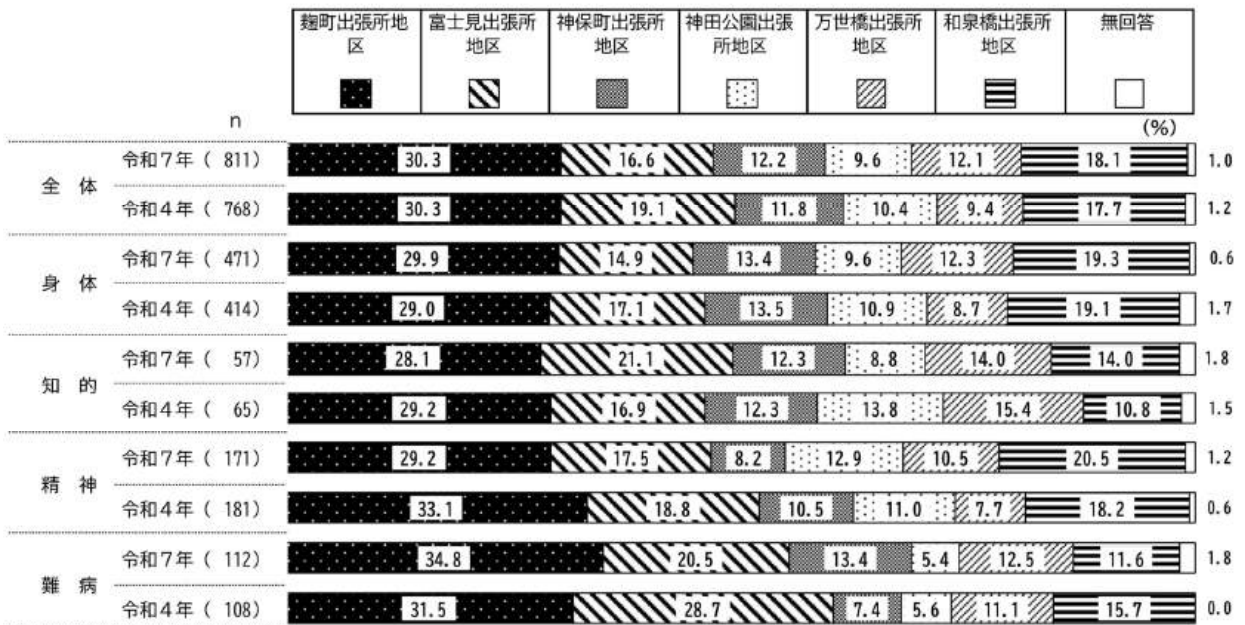


<障害児>

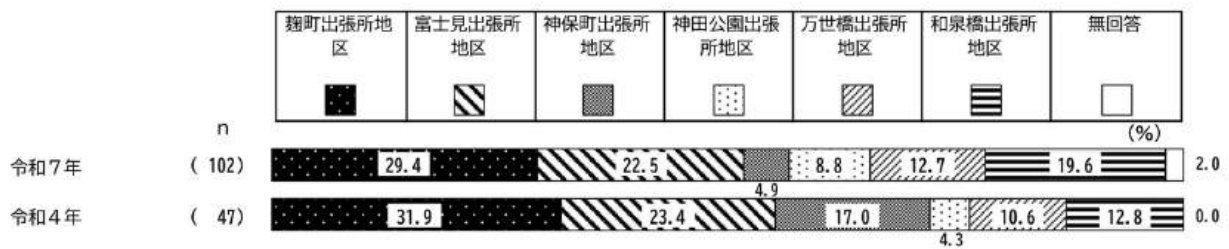


(4) 居住地区

<全体（身体、知的、精神、難病）>

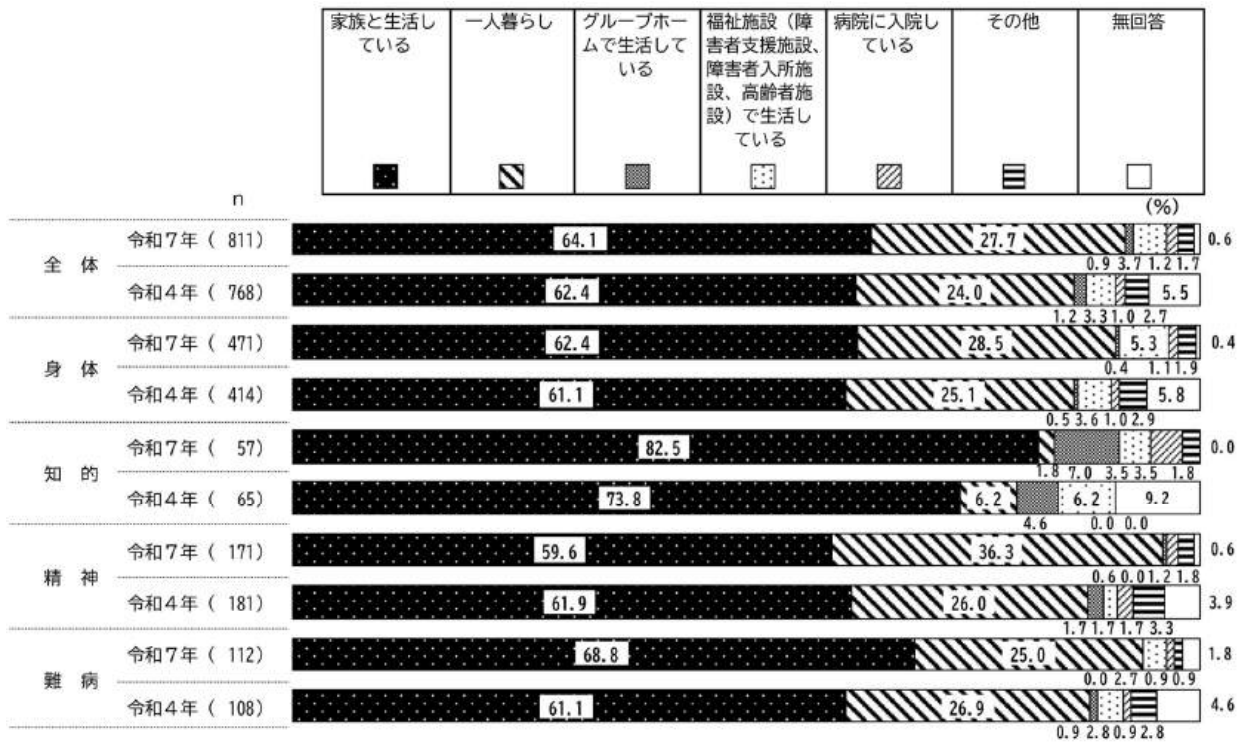


<障害児>

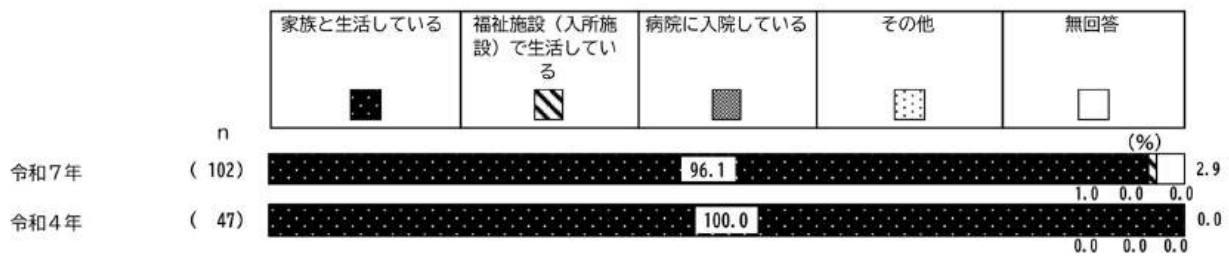


(5) 生活の状況

<全体（身体、知的、精神、難病）>

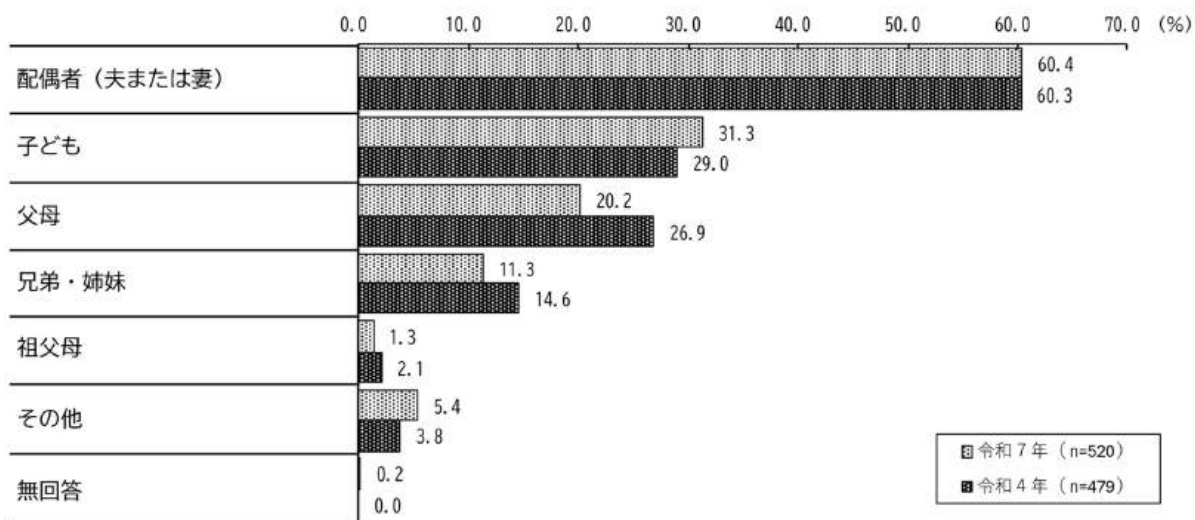


<障害児>

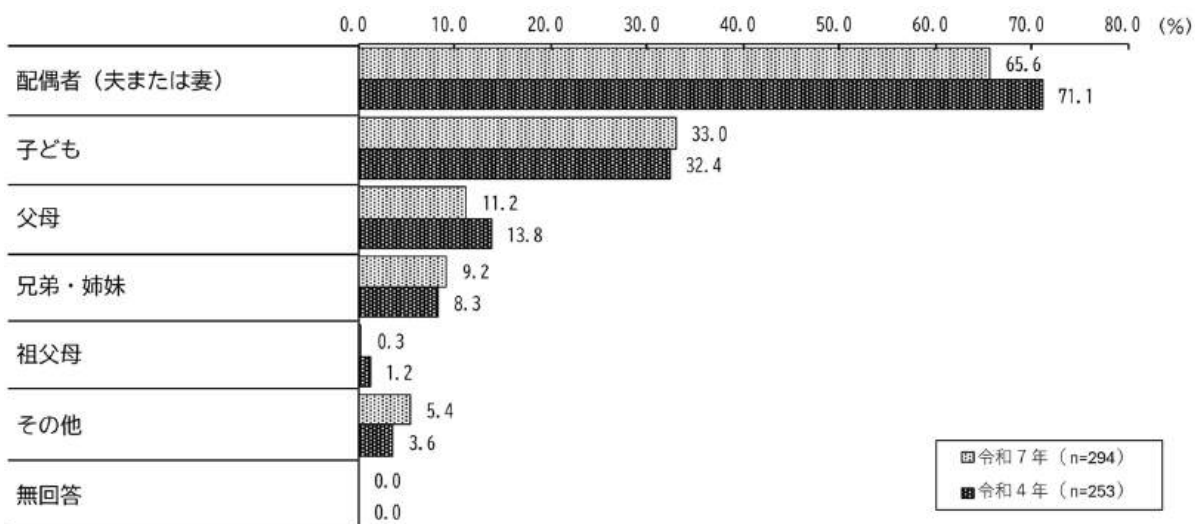


## (6) 同居家族

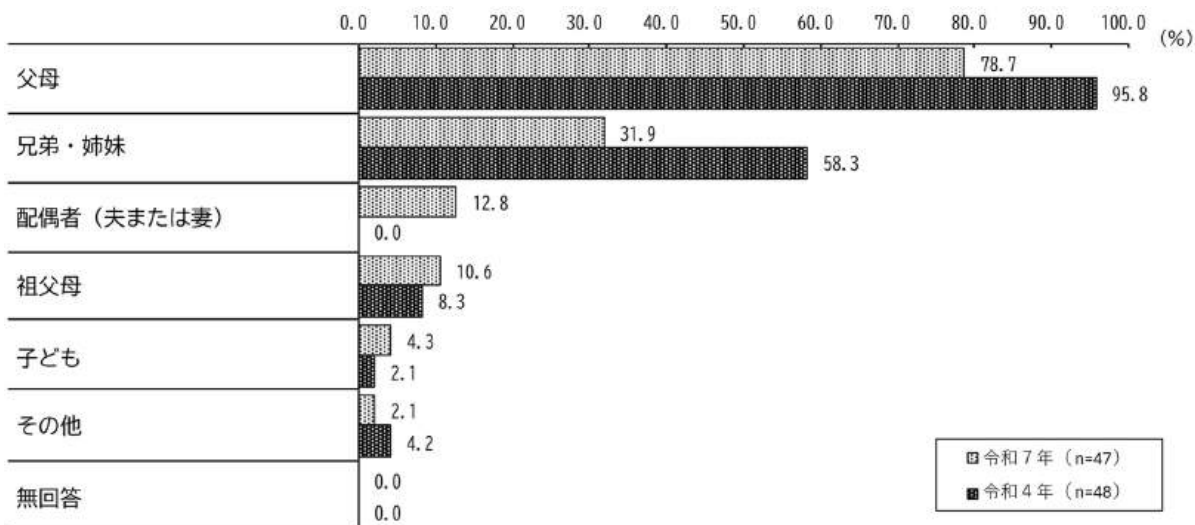
<全体（身体、知的、精神、難病）>



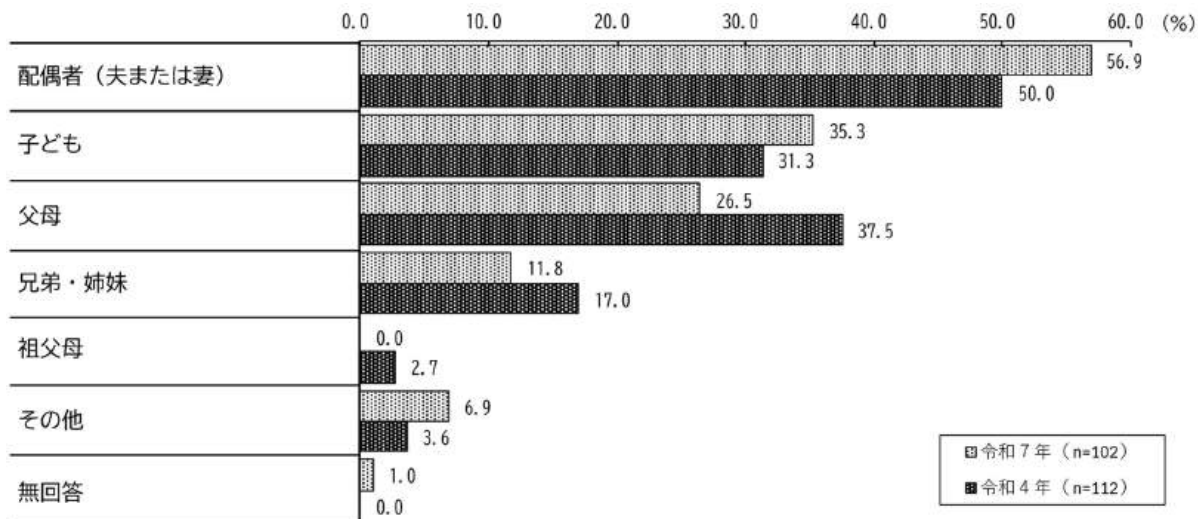
<身体>



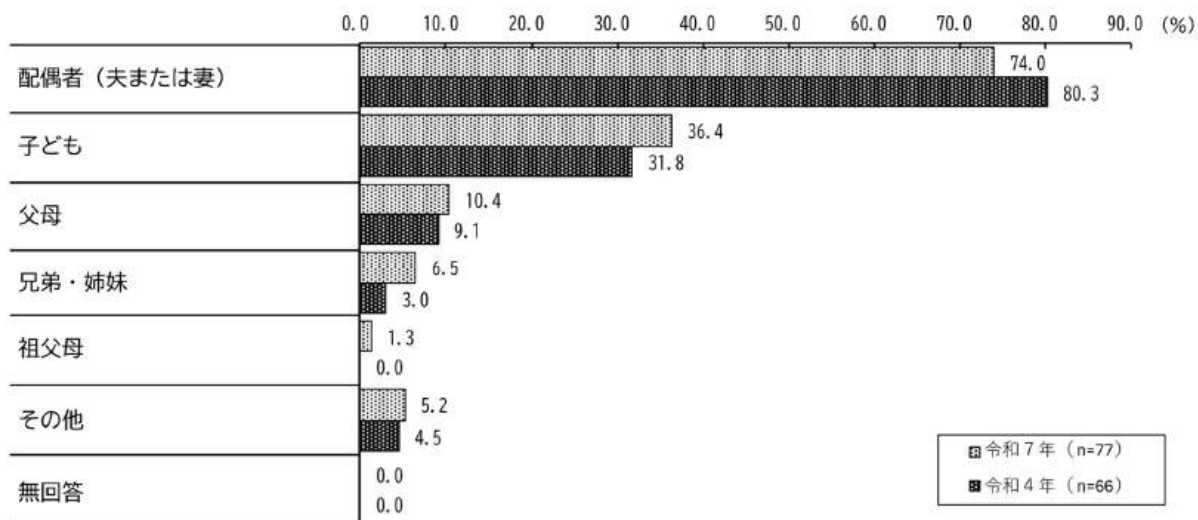
<知的>



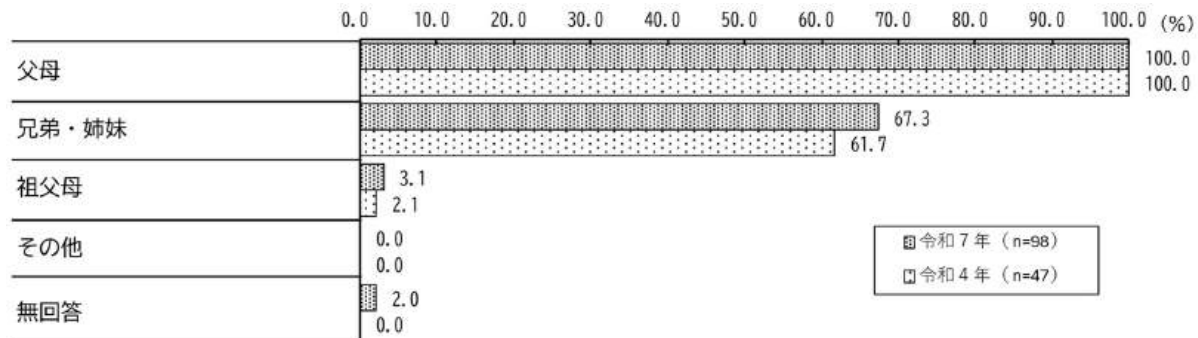
<精神>



<難病>



<障害児>



## II 調査結果の分析

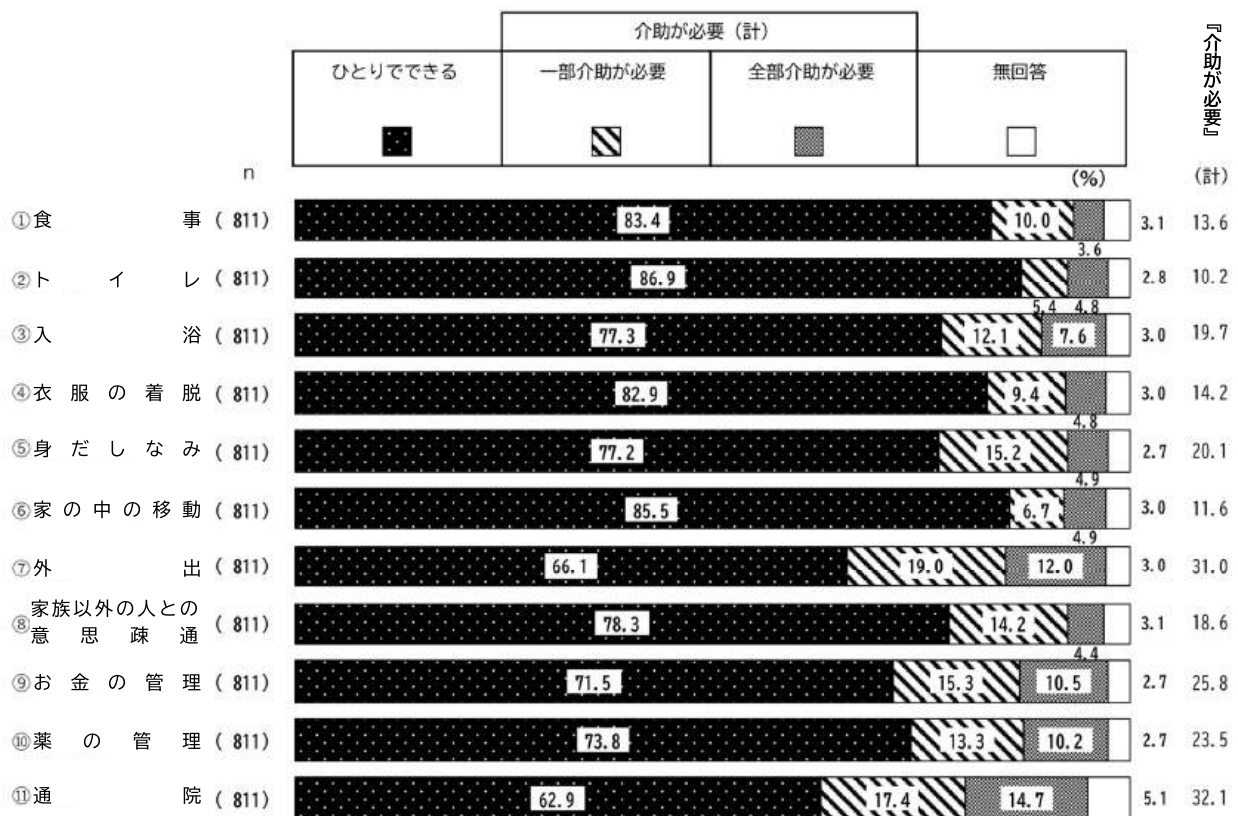
### 1 日常生活上の手助けの状況について

日常生活で必要な手助けについては、「トイレ」や「家の中の移動」などはひとりで行える割合が高い一方、「通院」や「外出」などには介助が必要と答えた割合が比較的高くなっている。身内が介助者の場合、「70歳以上」の介助者の割合が3割を超えており、介助者の高齢化が深刻化している。介助者の健康状態についても、障害児以外の全種別で「よくない」が2割を超えており、身内の介助者への支援体制の充実・拡充が求められる。

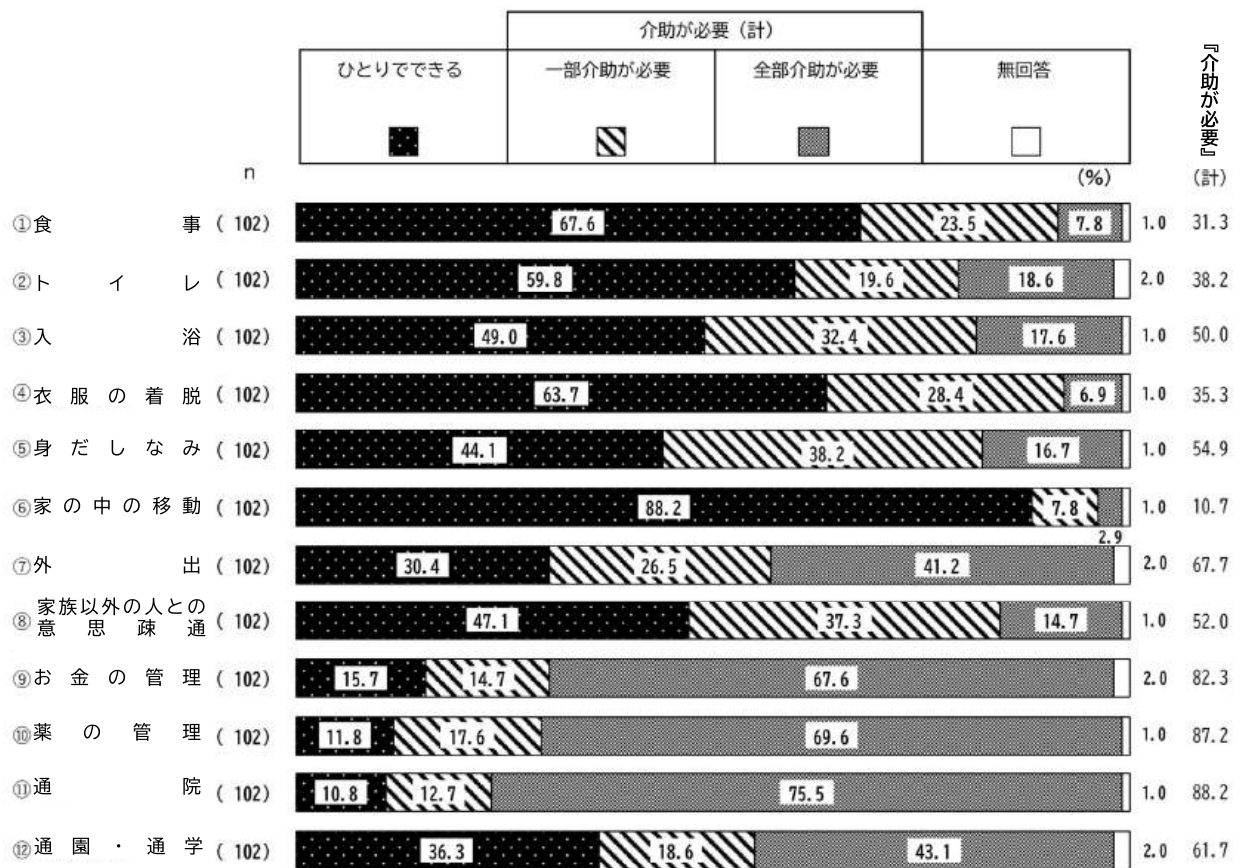
#### (1) 日常生活で必要な手助け

日常生活で必要な手助けについて、全体で見ると、「一部介助が必要」と「全部介助が必要」を合わせた『介助が必要（計）』は“通院”で32.1%と最も高くなっており、障害児でも、“通院”で88.2%と最も高くなっている。

日常生活で必要な手助け <全体（身体、知的、精神、難病）>



日常生活に必要な手助け <障害児>

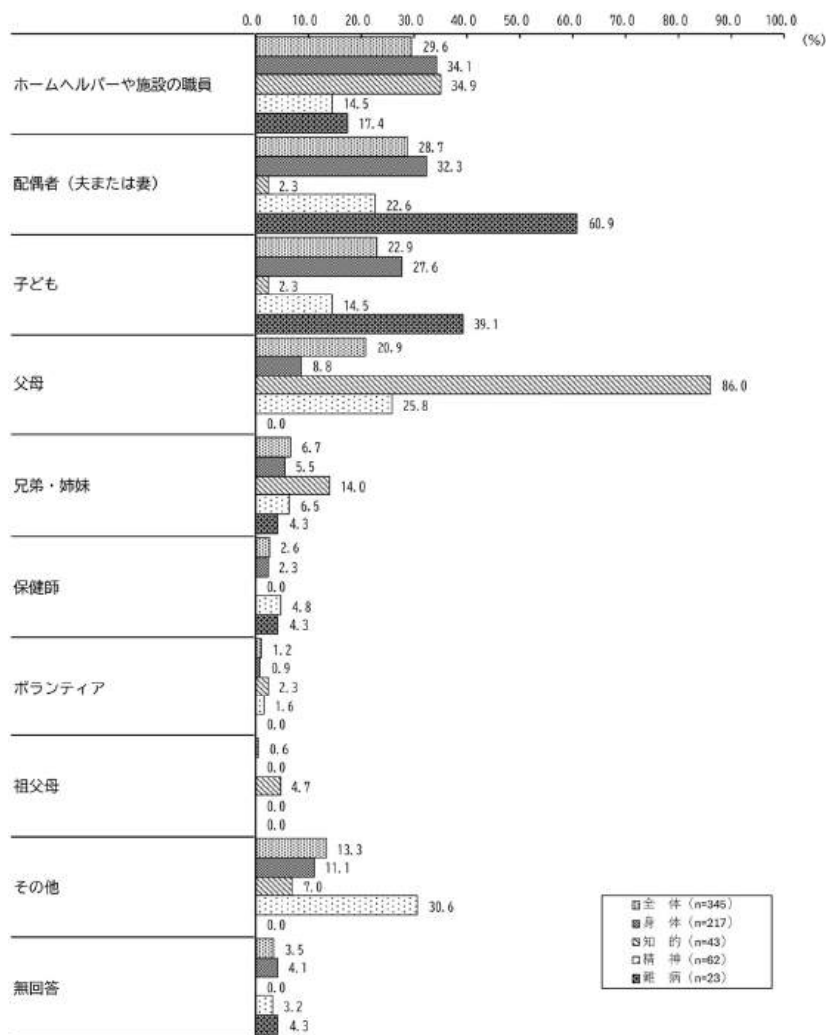


## (2) 主な介助者

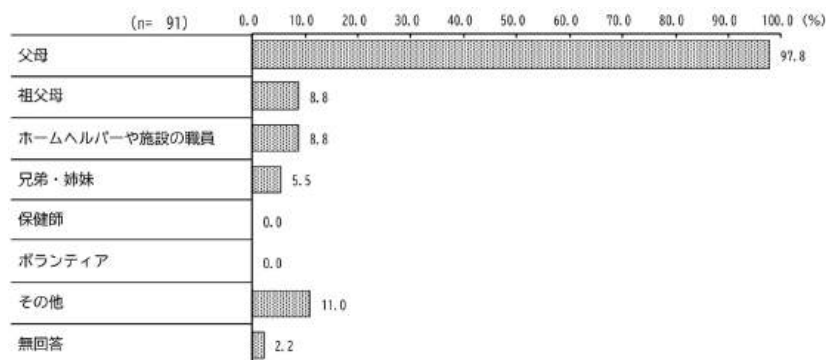
主な介助者について、全体でみると、「ホームヘルパーや施設の職員」が29.6%で最も高くなっており、障害児では、「父母」が97.8%で最も高くなっている。

「父母」や「配偶者」など身内が介助者となっている人のうち、全体では、介助者の性別は「女性」が7割強、年齢は「65歳以上」が4割強となっており、障害児では、介助者の性別は「女性」が9割弱、年齢は「40～59歳」が6割強となっている。

主な介助者 <全体（身体、知的、精神、難病）>

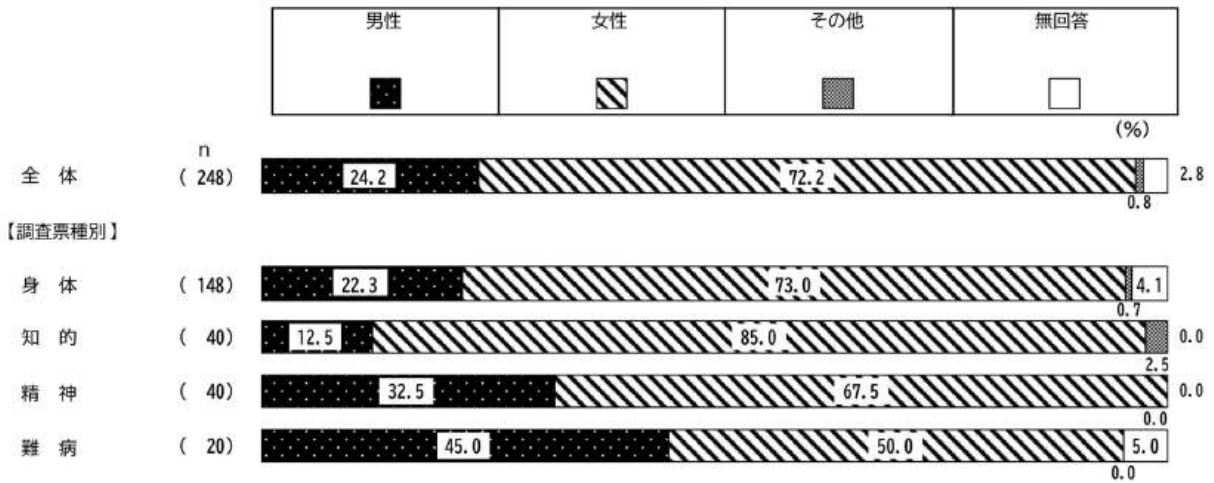


主な介助者 <障害児>

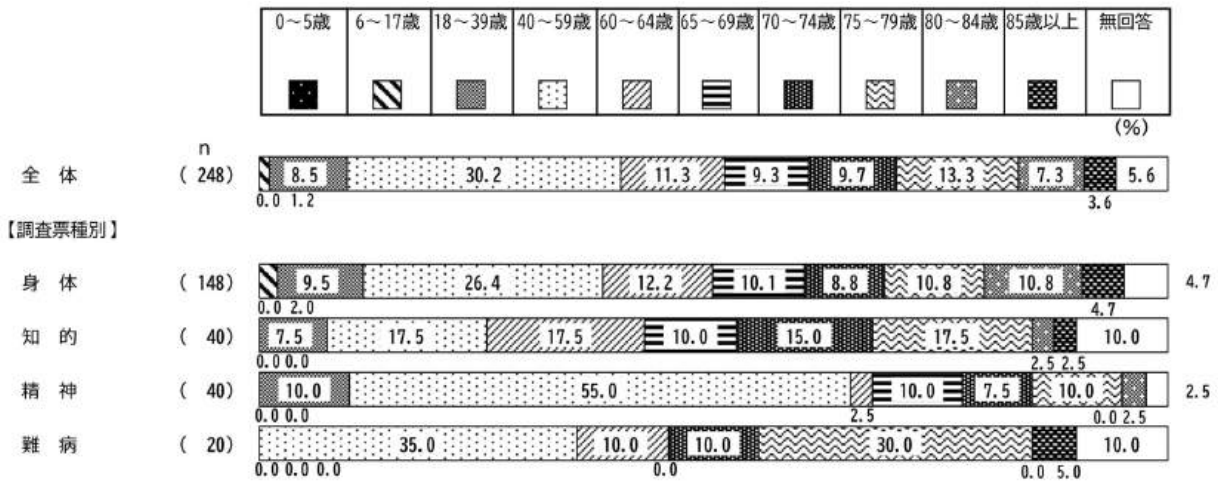


主な介助者の性別と年齢 <全体（身体、知的、精神、難病）>

① 性別

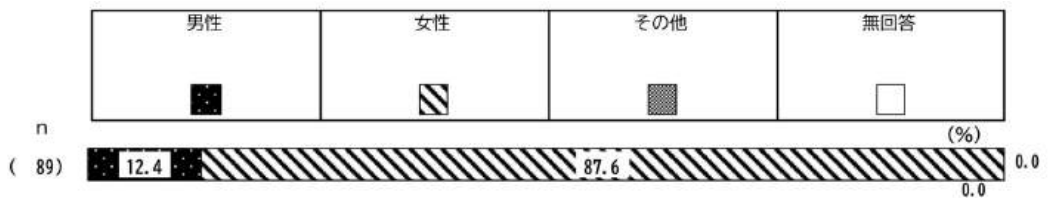


② 年齢

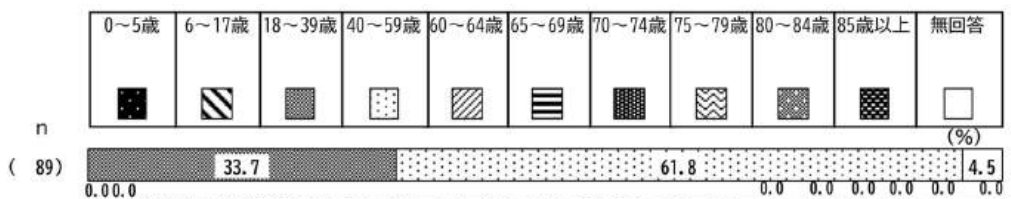


主な介助者の性別と年齢 <障害児>

① 性別



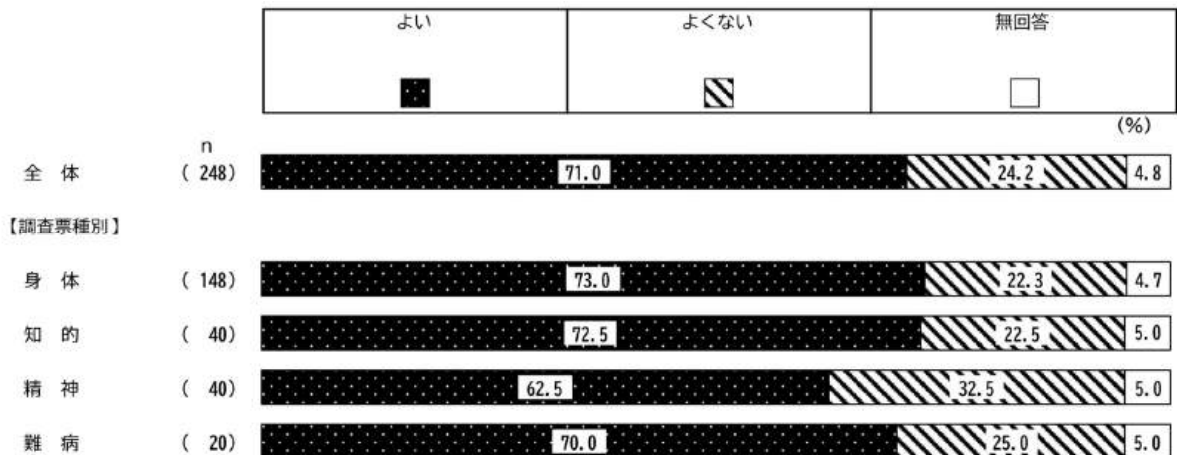
② 年齢



### (3) 主な介助者の健康状態

主な介助者の健康状態について、全体で見ると、「よい」が71.0%、「よくない」は24.2%となっており、障害児では、「よい」が86.5%、「よくない」は13.5%となっている。

主な介助者の健康状態 <全体（身体、知的、精神、難病）>



主な介助者の健康状態 <障害児>

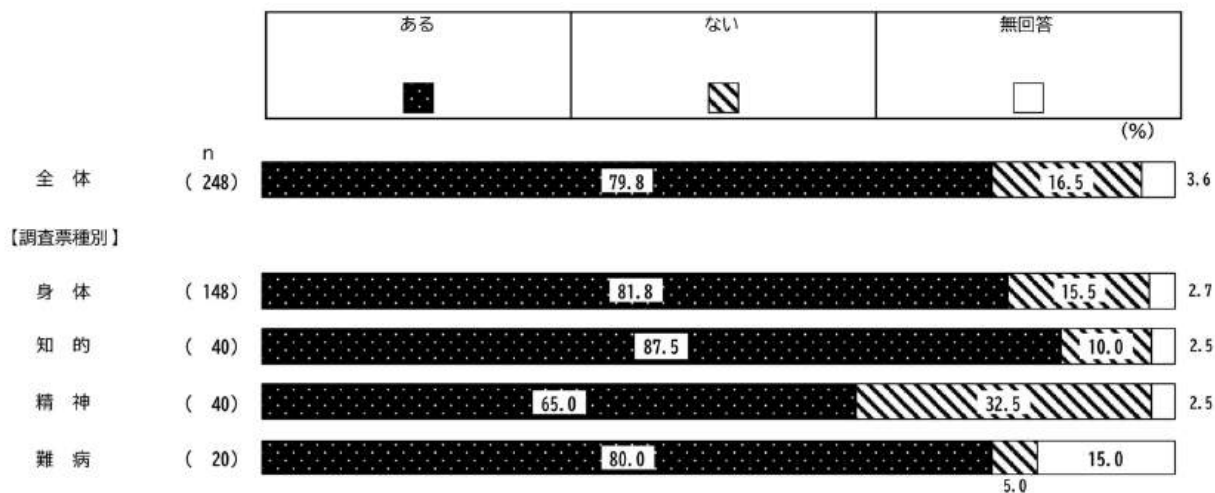


### (4) 主な介助者の相談できる場の有無と介助者に必要な支援

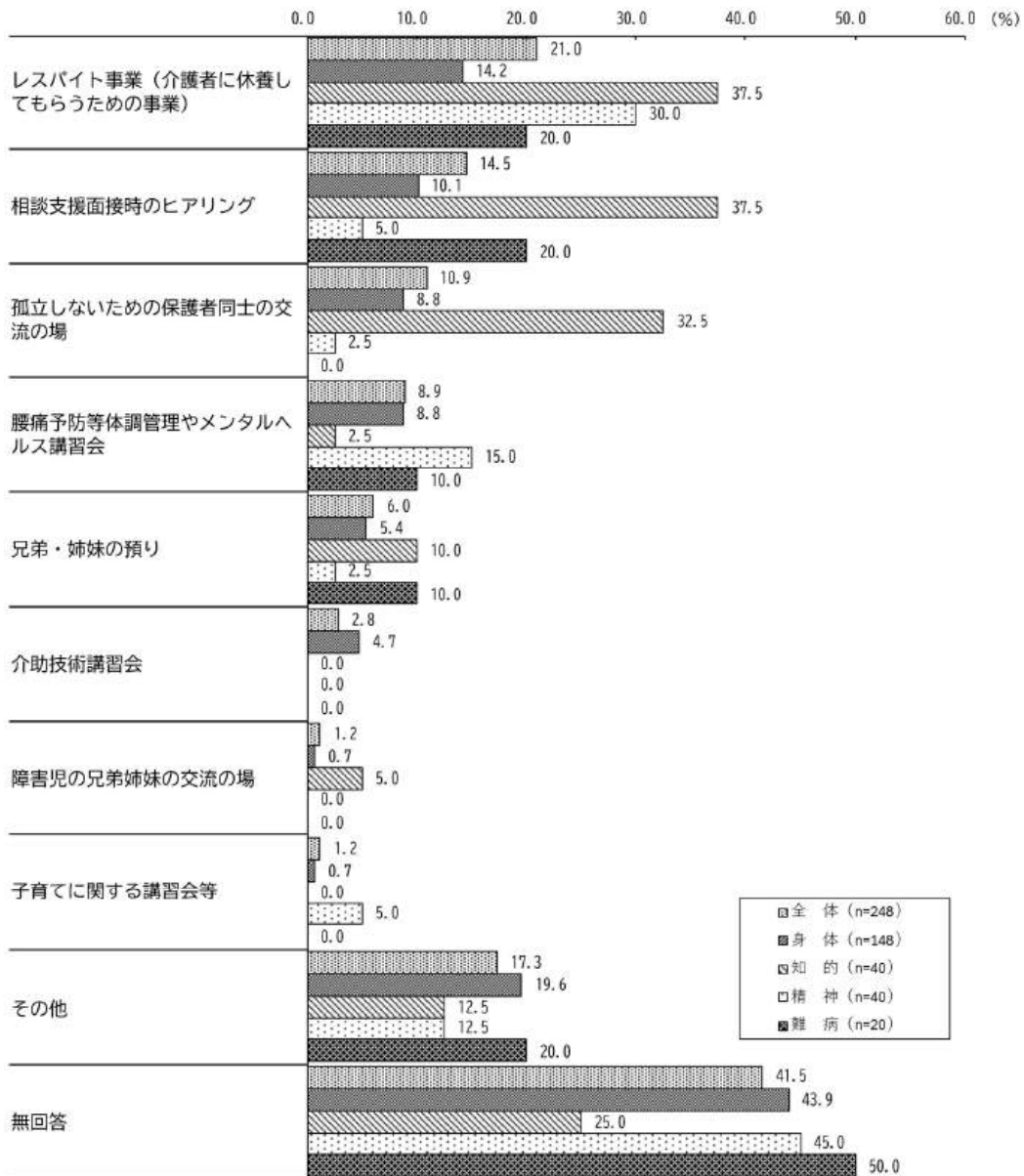
身内が主な介助者となっている人のうち、主な介助者の相談できる場の有無について、全体で見ると、「ある」が79.8%、「ない」は16.5%となっている。

また、介助者に必要な支援について、全体・障害児ともに、「レスパイト事業（介護者に休養してもらおうための事業）」が最も高くなっており、それぞれ21.0%、43.8%となっている。

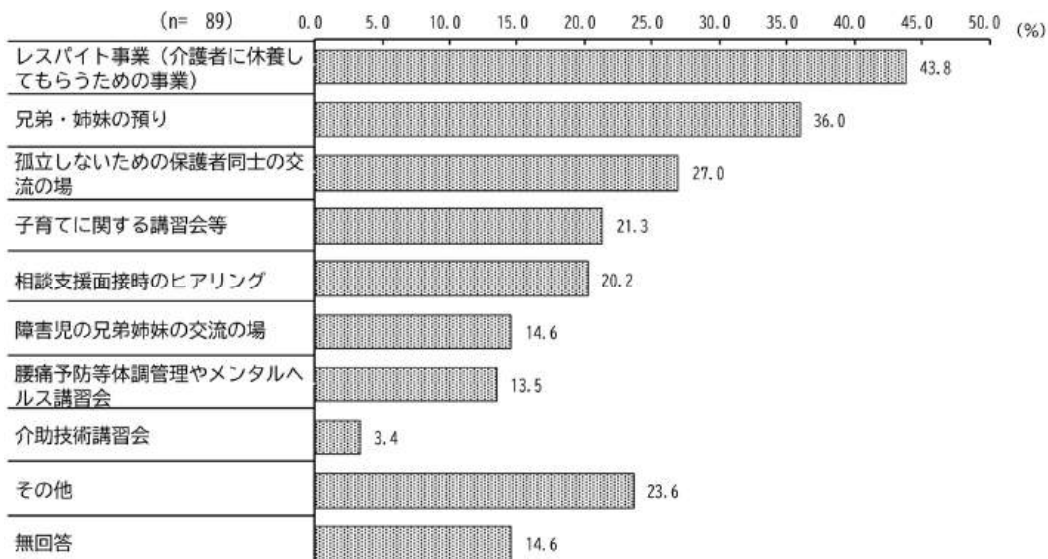
主な介助者の相談できる場の有無 <全体（身体、知的、精神、難病）>



### 介助者に必要な支援 <全体（身体、知的、精神、難病）>

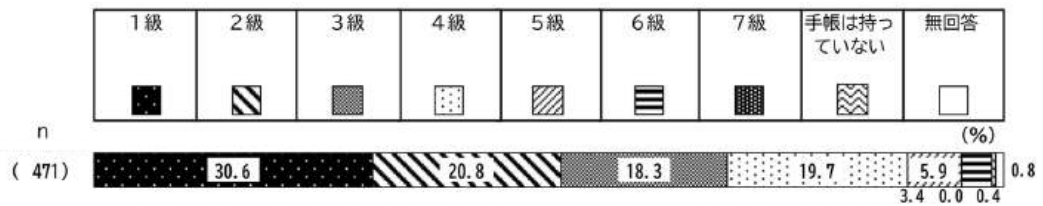


### 介助者に必要な支援 <障害児>



## 2 障害や疾病の状況について

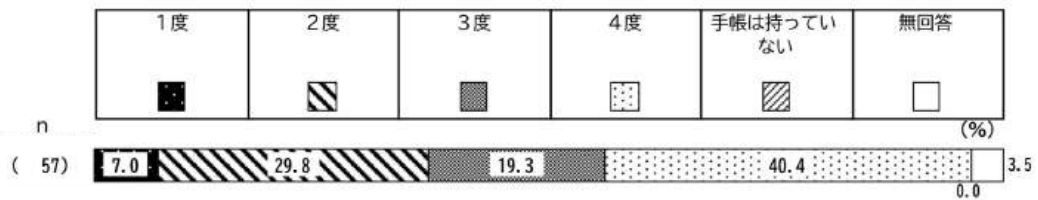
### (1) 身体障害者手帳の級【身体調査の質問】



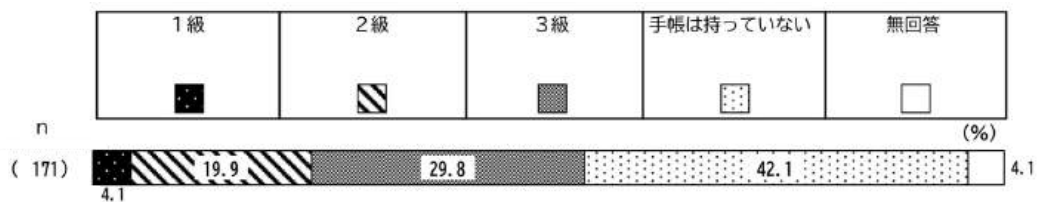
### (2) 身体障害者手帳の主な障害【身体調査の質問】



### (3) 愛の手帳の度数【知的調査の質問】



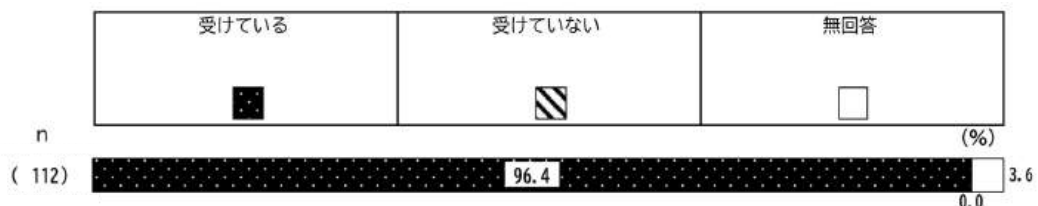
### (4) 精神障害者保健福祉手帳の級【精神調査の質問】



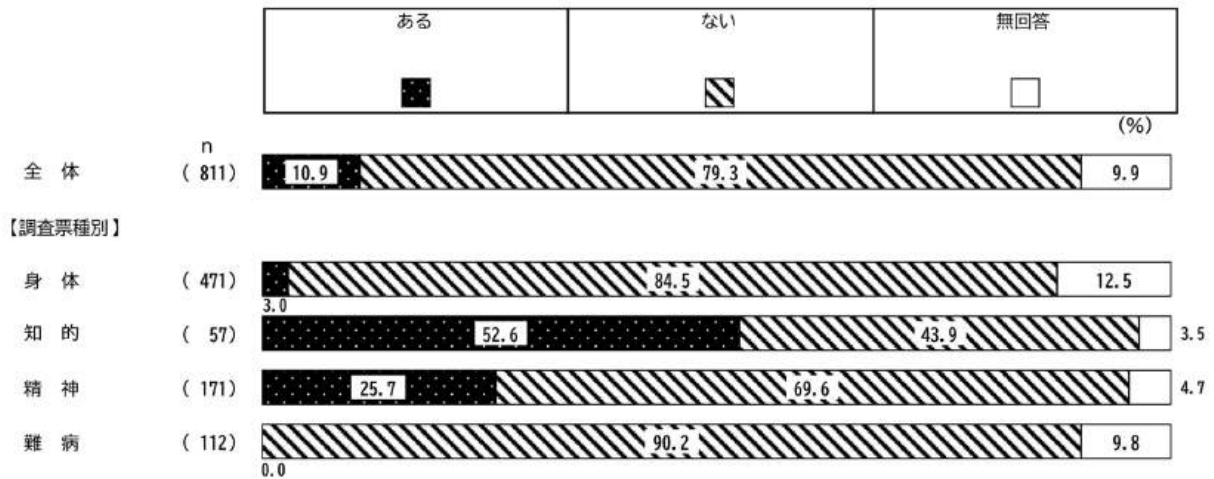
### (5) 自立支援医療（精神通院医療）の受給の有無【精神調査の質問】



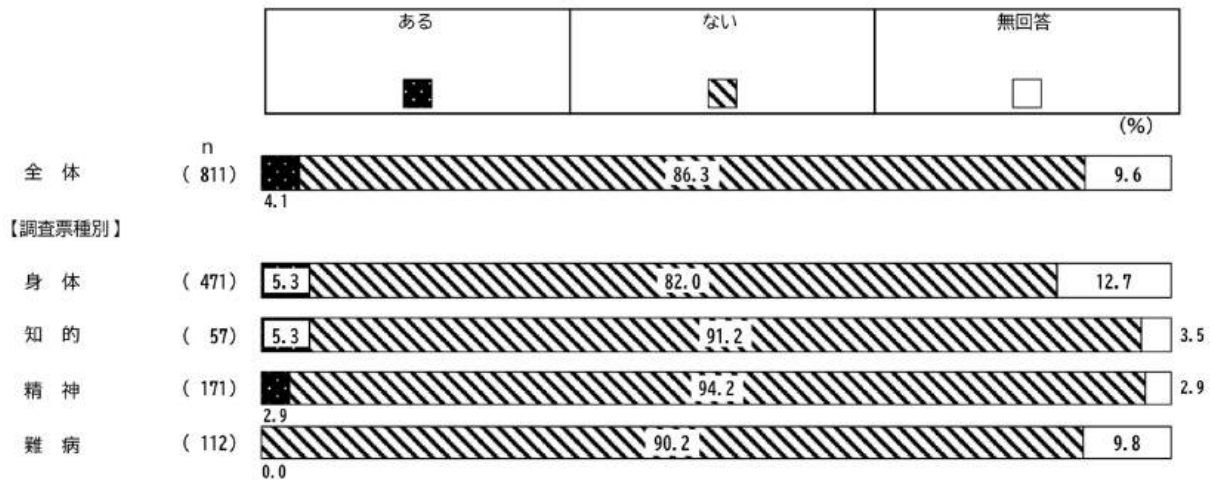
### (6) 難病認定の有無【難病調査の質問】



(7) 発達障害の診断の有無【身体、知的、精神、難病調査の質問】



(8) 高次脳機能障害の診断の有無【身体、知的、精神、難病調査の質問】



(9) 手帳を持たない理由と医療的ケアの必要の有無【障害児調査の質問】

障害児の手帳を持たない理由とみると、「まだ申請するのを感じないため」が16.7%で最も高く、次いで「障害があるかはっきりしないため」が15.7%などとなっている。

手帳を持たない理由 <障害児>



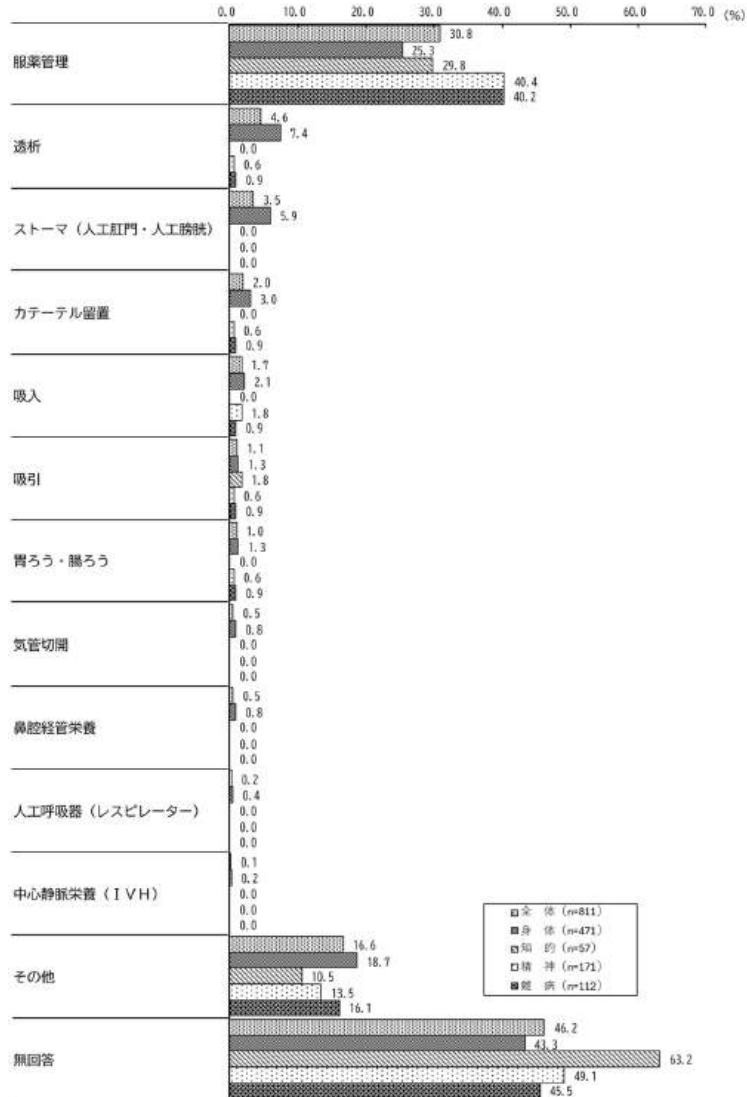
医療的ケアの必要の有無<障害児>



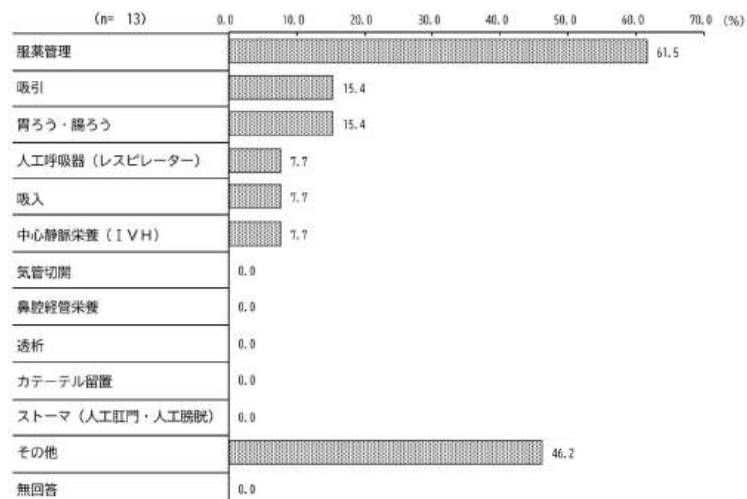
(10) 現在受けている医療的ケア【身体、知的、精神、難病調査では全員に、障害児調査では医療的ケアが「必要である」と答えた方への質問】

現在受けている医療的ケアについて、全体・障害者ともに「服薬管理」が最も高くなっており、それぞれ30.8%、61.5%となっている。

現在受けている医療的ケア <全体（身体、知的、精神、難病）>



現在受けている医療的ケア <障害児>

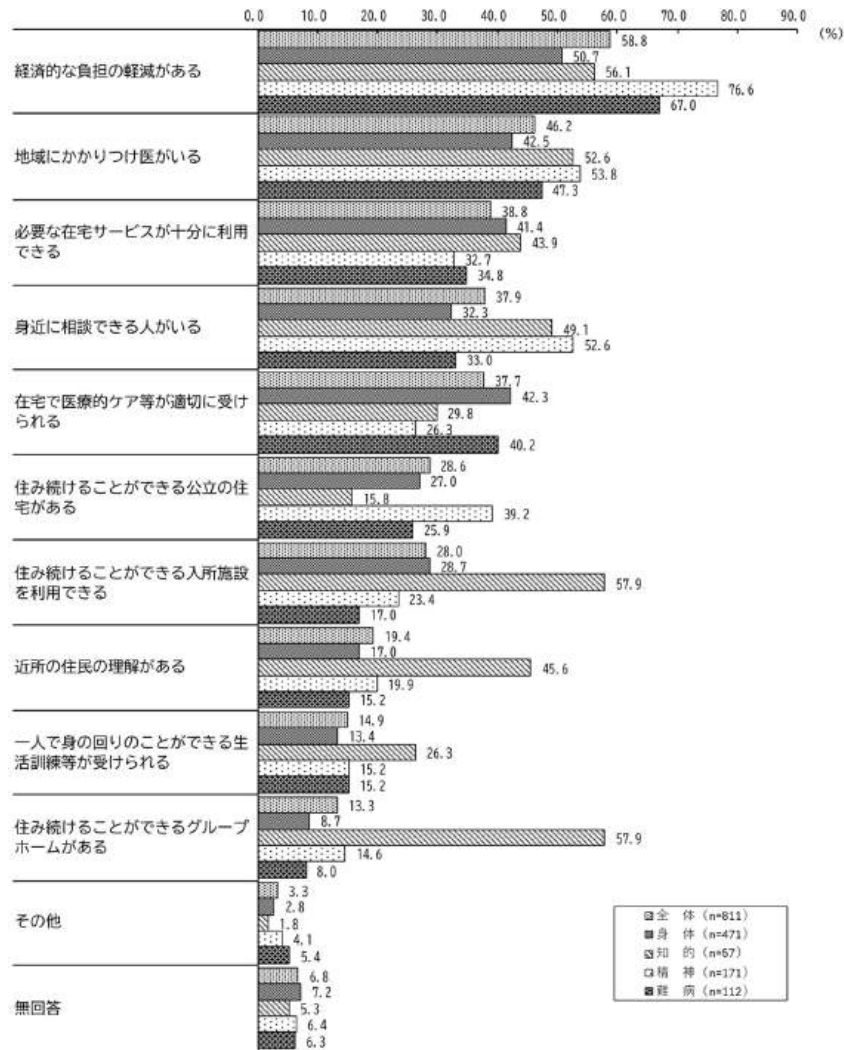


### 3 住まいや暮らしについて

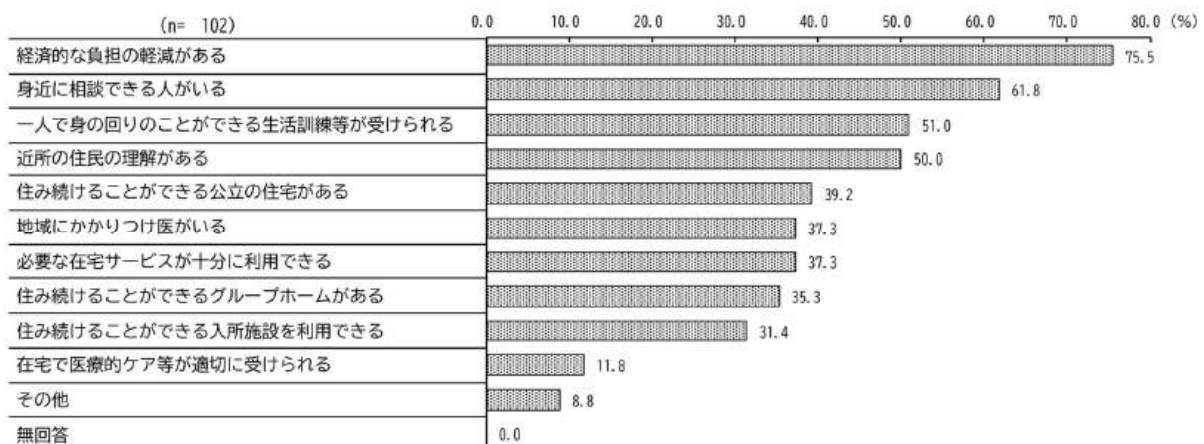
#### (1) 地域で生活するために必要な支援

地域で生活するために必要な支援について、全体・障害者ともに「経済的な負担の軽減がある」が最も高くなっており、それぞれ58.8%、75.5%となっている。

地域で生活するために必要な支援 <全体（身体、知的、精神、難病）>



地域で生活するために必要な支援 <障害児>



#### 4 日中の活動、スポーツやレクリエーションについて

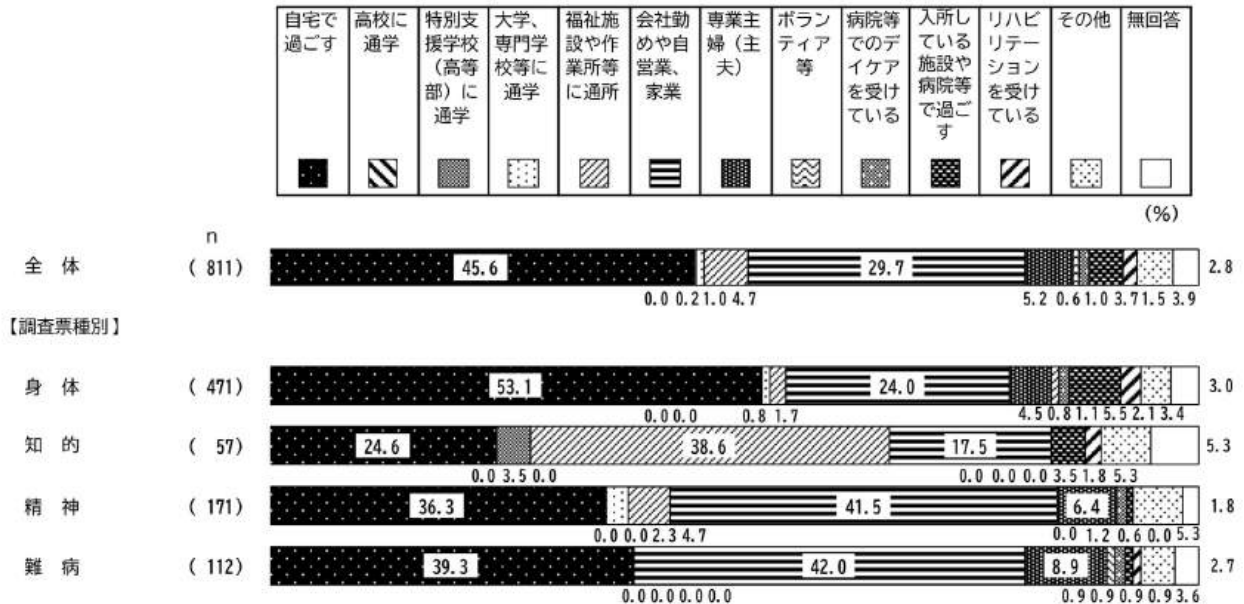
日中の活動では、身体では「自宅で過ごす」、知的では「福祉施設や作業所等に通所」、精神、難病では「会社勤めや自営業、家業」、障害児では「小・中・高校（通常学級）に通学」の割合が最も高くなっており、全ての種別で8割以上が「週に1日以上は外出する」と回答している。

##### (1) 平日の日中の過ごし方と1週間の外出頻度

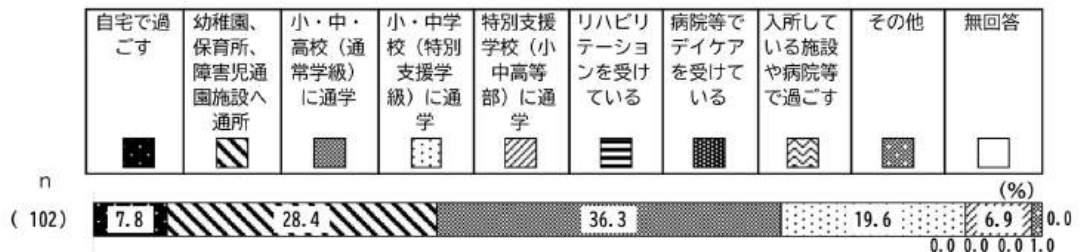
平日の日中の過ごし方について、全体でみると、「自宅で過ごす」が45.6%で最も高くなっており、障害児では、「小・中・高校（通常学級）に通学」が36.3%で最も高くなっている。

1週間の外出の頻度について、「毎日外出する」と「週に1日以上は外出する」と回答した、週に1日以上外出する方の合計は、全体でみると84.0%、障害児では98.0%となっている。

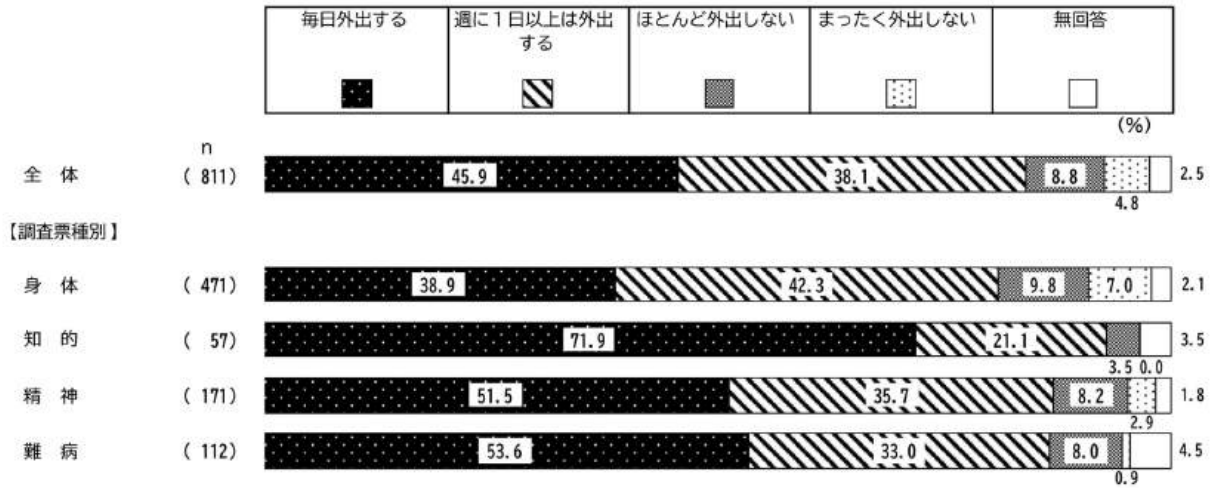
平日の日中の過ごし方 <全体（身体、知的、精神、難病）>



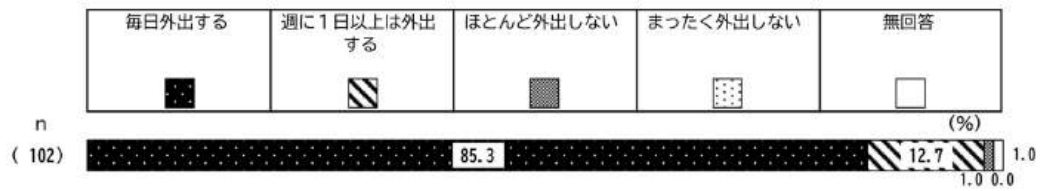
平日の日中の過ごし方 <障害児>



1週間の外出の頻度 <全体（身体、知的、精神、難病）>



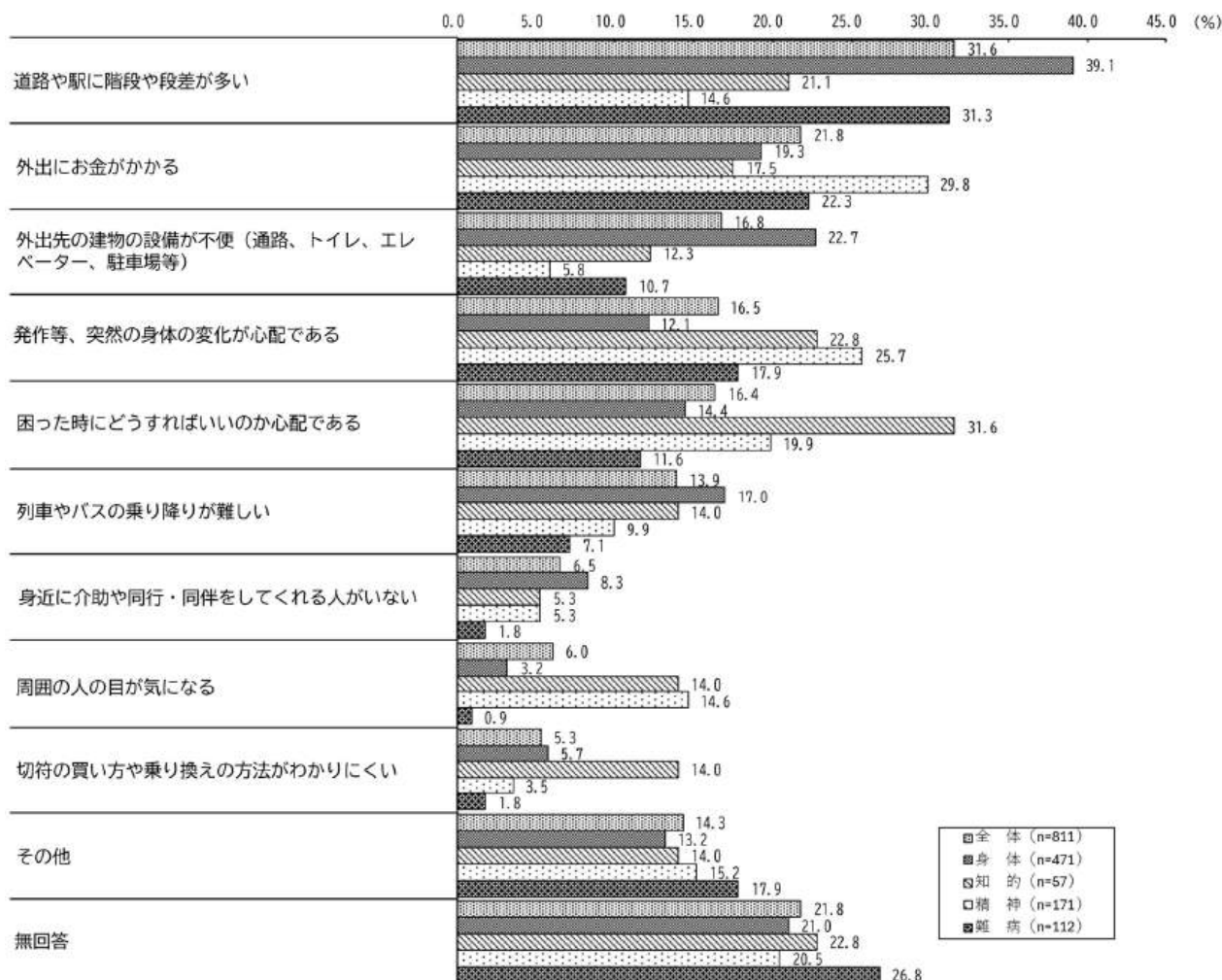
1週間の外出の頻度 <障害児>



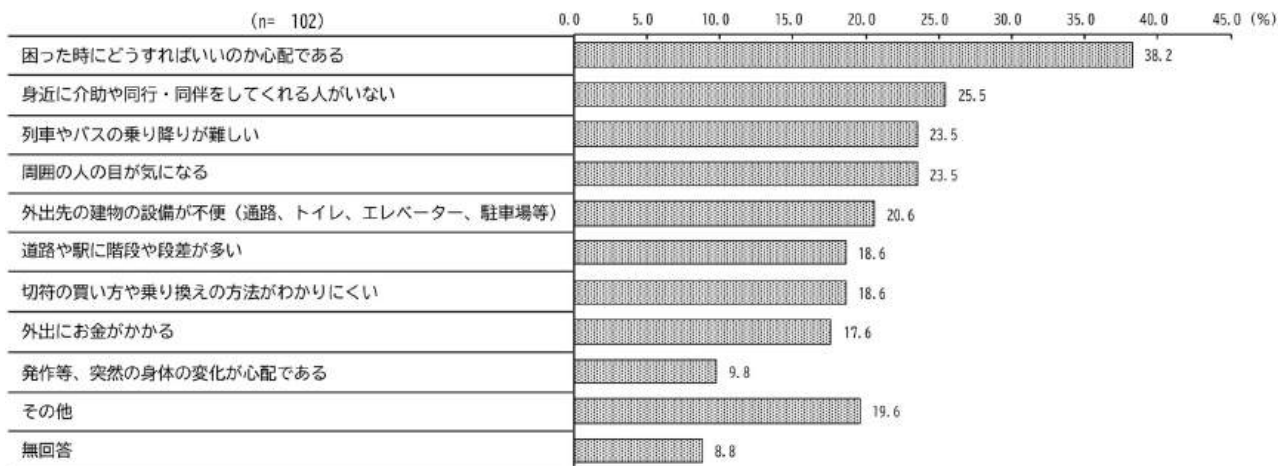
## (2) 外出時に困ること

外出時に困ることについて、全体でみると、「道路や駅に階段や段差が多い」が31.6%で最も高くなっており、障害児では、「困った時にどうすればいいのか心配である」が38.2%で最も高くなっている。

外出時に困ること <全体（身体、知的、精神、難病）>



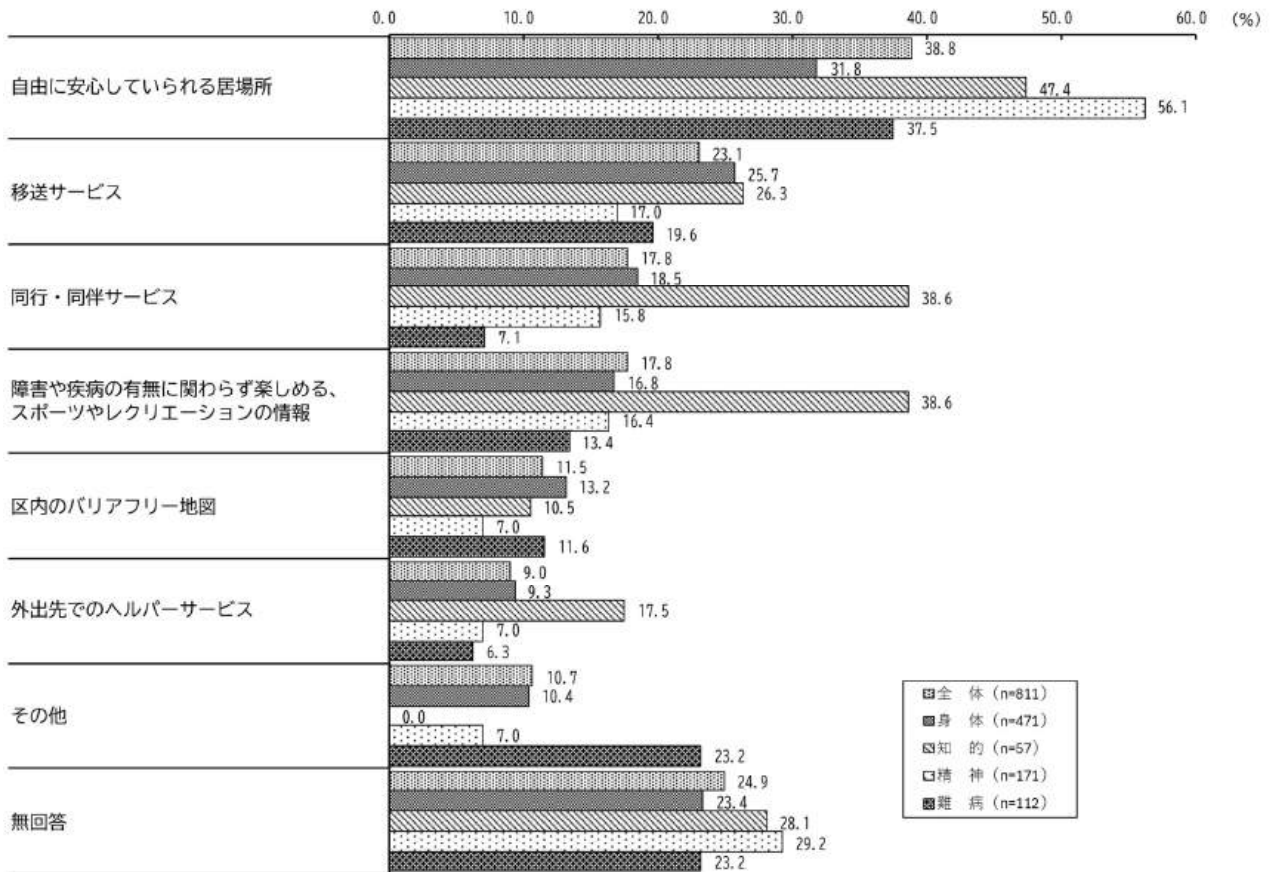
外出時に困ること <障害児>



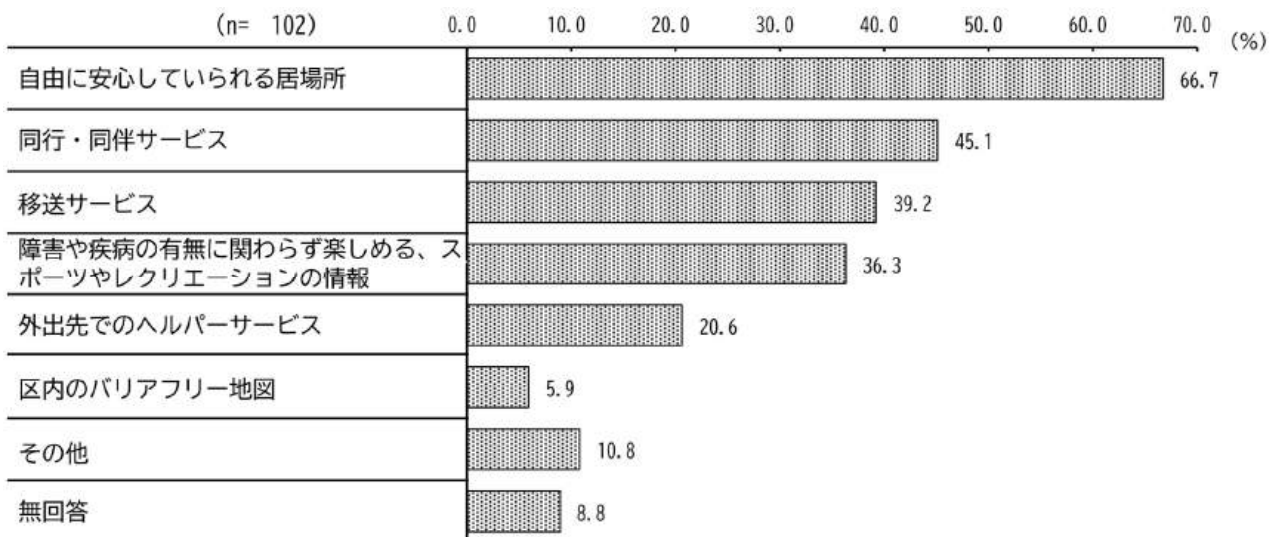
### (3) 外出時に必要な支援

外出に必要な支援について、全体・障害児ともに、「自由に安心していられる居場所」が最も高くなっており、それぞれ38.8%、66.7%となっている。

外出に必要な支援 <全体（身体、知的、精神、難病）>



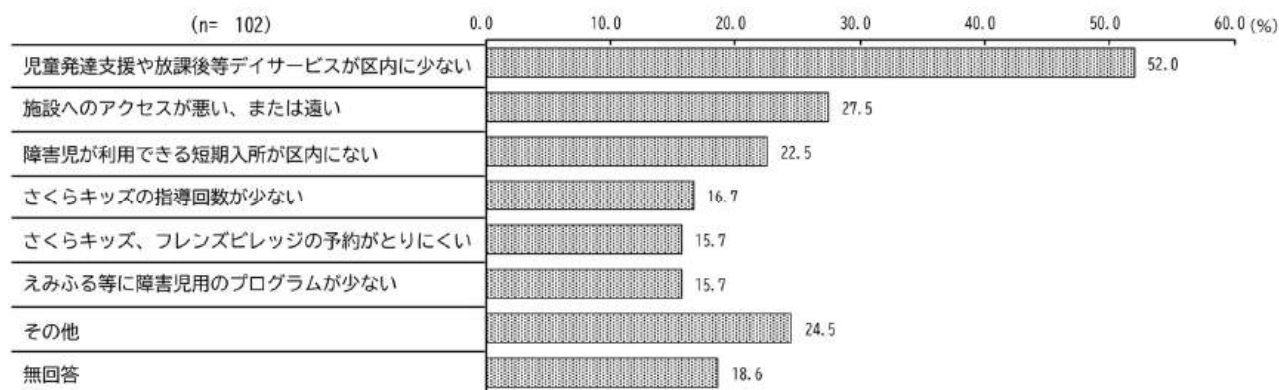
外出に必要な支援 <障害児>



#### (4) 障害児施設について困っていること【障害児調査の質問】

障害児施設について困っていることを見ると、「児童発達支援や放課後等デイサービスが区内に少ない」が52.0%で最も高く、次いで「施設へのアクセスが悪い、または遠い」が27.5%、「障害児が利用できる短期入所が区内にない」が22.5%などとなっている。

障害児施設について困っていること <障害児>

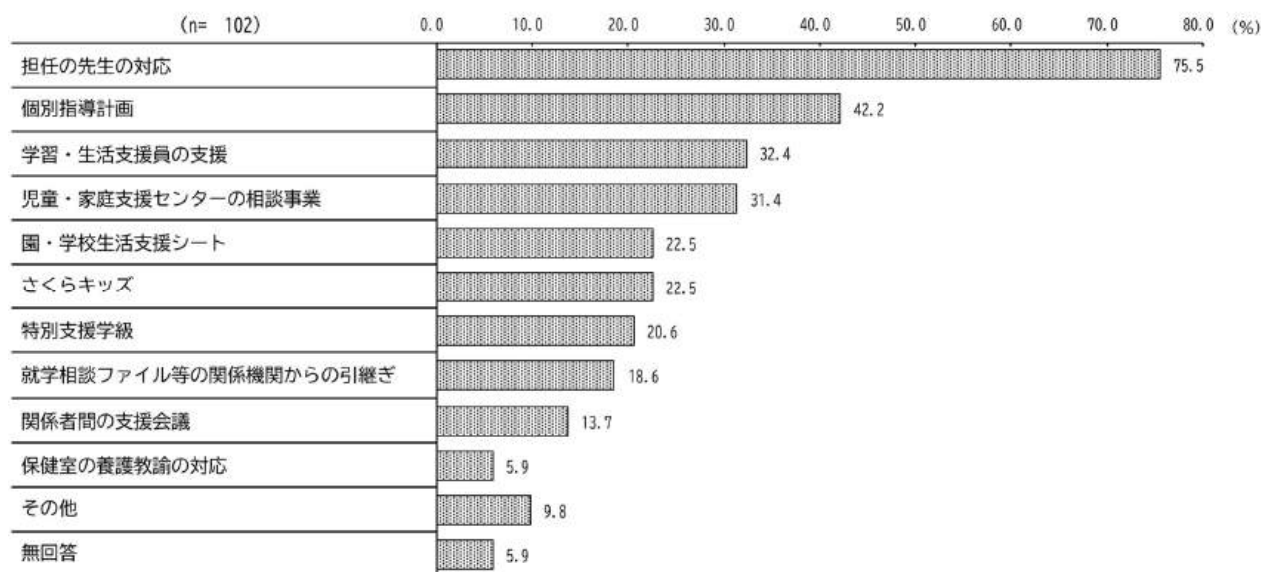


### 5 就園、就学について

#### (1) 子どもに役立っている特別な支援・配慮等【障害児調査の質問】

障害児の役立っている特別な支援・配慮等をみると、「担任の先生の対応」が75.5%で最も高く、次いで「個別指導計画」が42.2%、「学習・生活支援員の支援」が32.4%などとなっている。

子どもに役に立っている特別な支援・配慮等 <障害児>



## 6 就労について

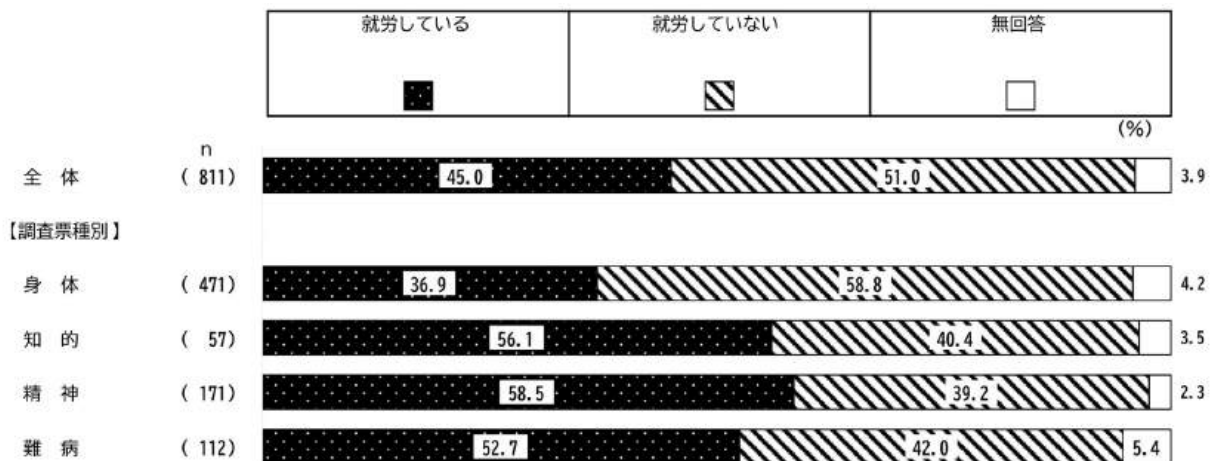
知的、精神、難病では5割以上が就労しており、特に全種別において「障害者雇用を含め会社勤めをしている」の割合が最も高くなっている一方、知的は他種別と比べて「就労支援施設等で工賃等を得ている」の割合が高くなっている。

また、最も必要な就労支援として、身体では「在宅勤務ができる」、知的、精神では「障害に対する職場の理解がある」、難病では「短時間勤務や勤務日数等に配慮がなされている」が挙げられている。

### (1) 就労の状況【身体、知的、精神、難病調査で「就労している」と答えた方への質問】

就労の状況について、全体で見ると、「就労している」が45.0%、「就労していない」は51.0%となっている。

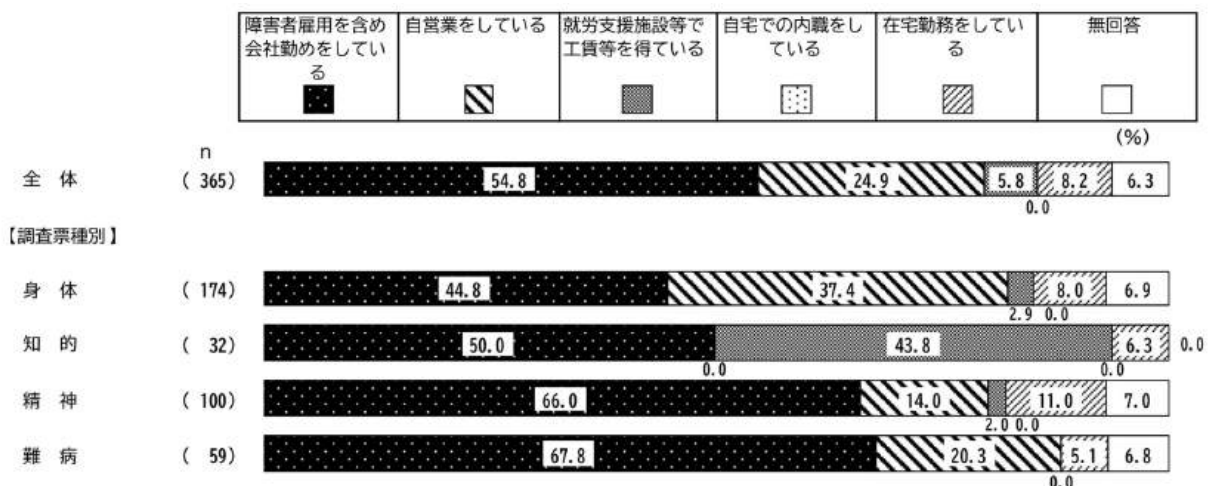
就労の状況 <全体（身体、知的、精神、難病）>



### (2) 就労している場合の働き方【身体、知的、精神、難病調査で「就労している」と答えた方への質問】

就労している場合の働き方について、全体で見ると、「障害者雇用を含め会社勤めをしている」が54.8%で最も高く、次いで「自営業をしている」が24.9%、「在宅勤務をしている」が8.2%などとなっている。

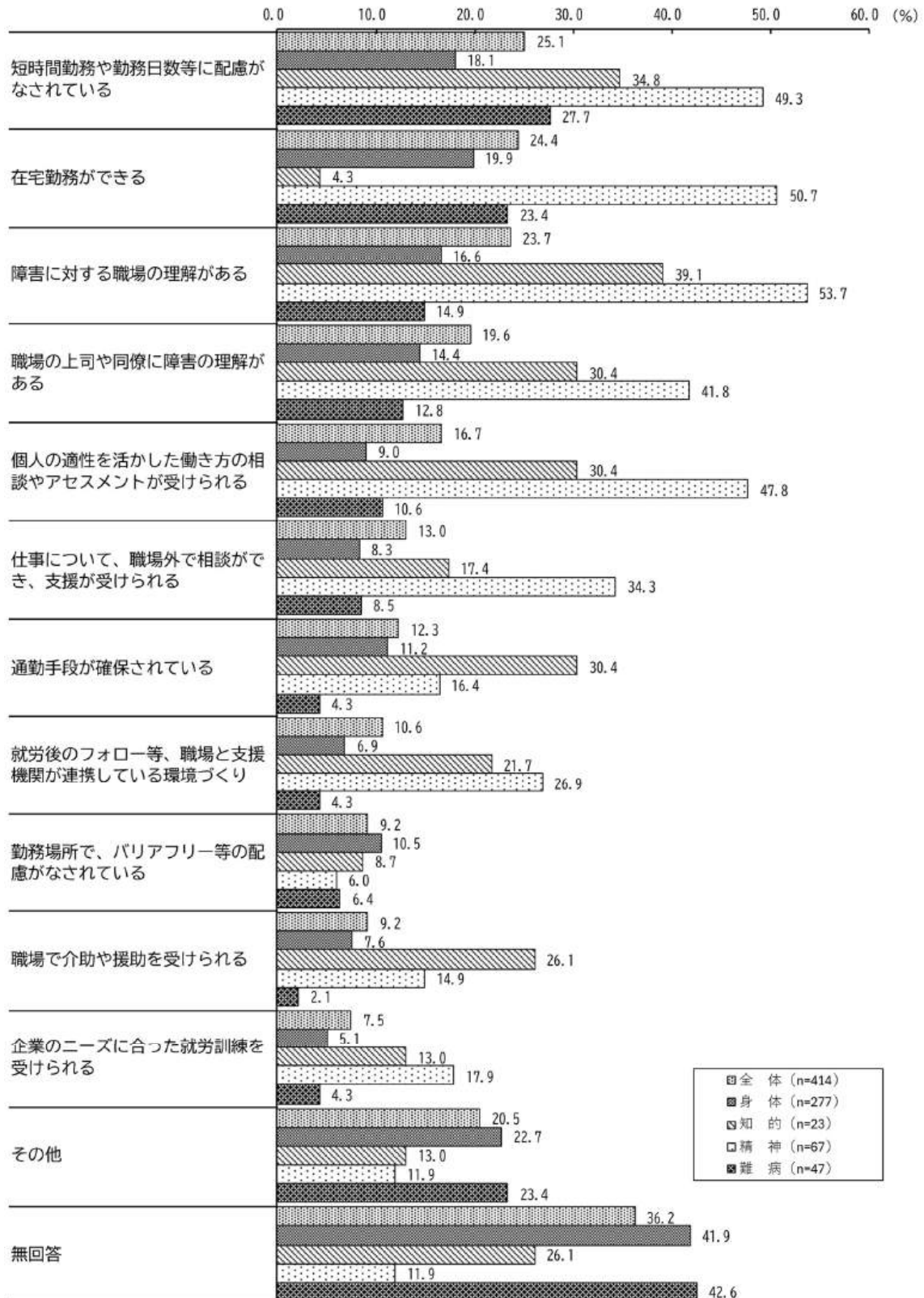
就労している場合の働き方 <全体（身体、知的、精神、難病）>



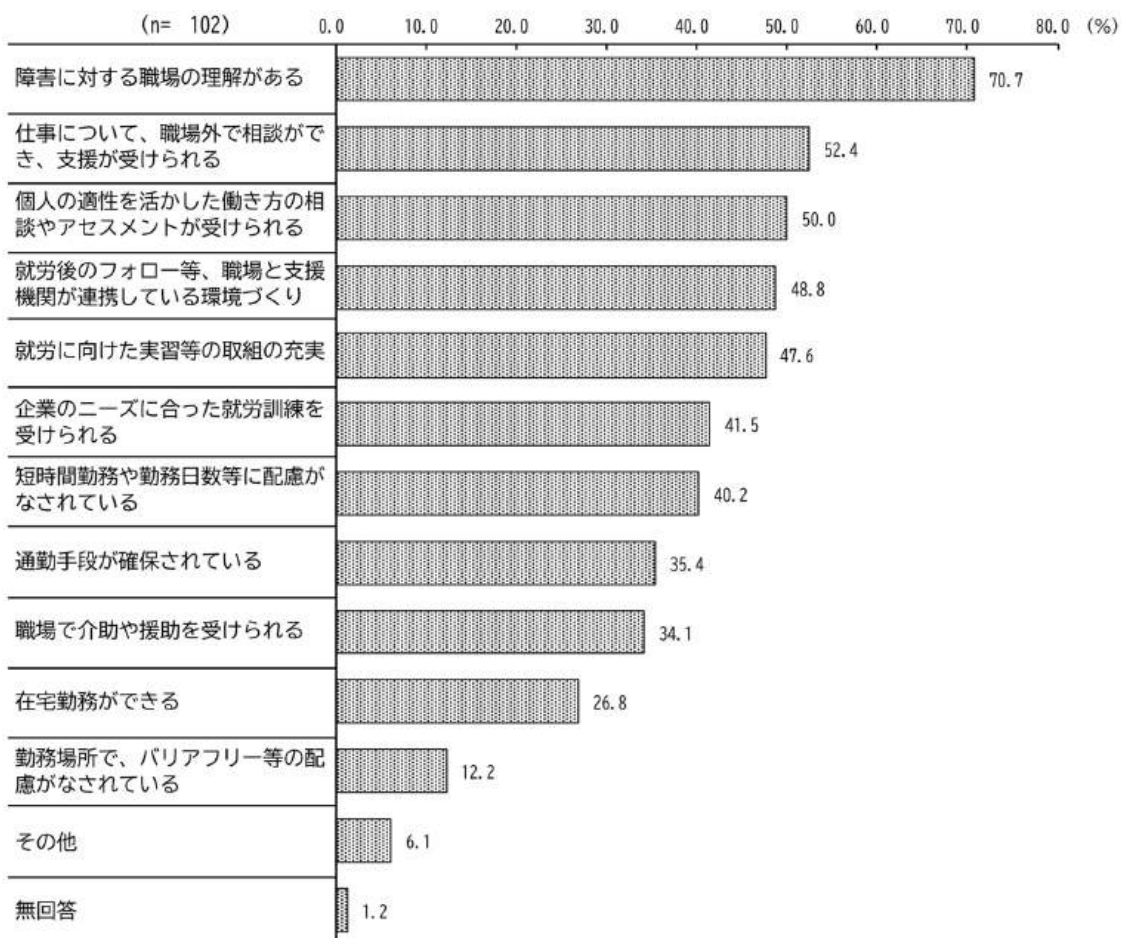
(3) 必要な就労支援【身体、知的、精神、難病調査で「就労していない」と答えた方、障害児調査では一般就労を「希望する」と答えた方への質問】

必要な就労支援について、全体で見ると、「短時間勤務や勤務日数等に配慮がなされている」が25.1%で最も高くなっており、障害児では、「障害に対する職場の理解がある」が70.7%で最も高くなっている。

必要な就労支援 <全体（身体、知的、精神、難病）>



### 必要な就労支援 <障害児>

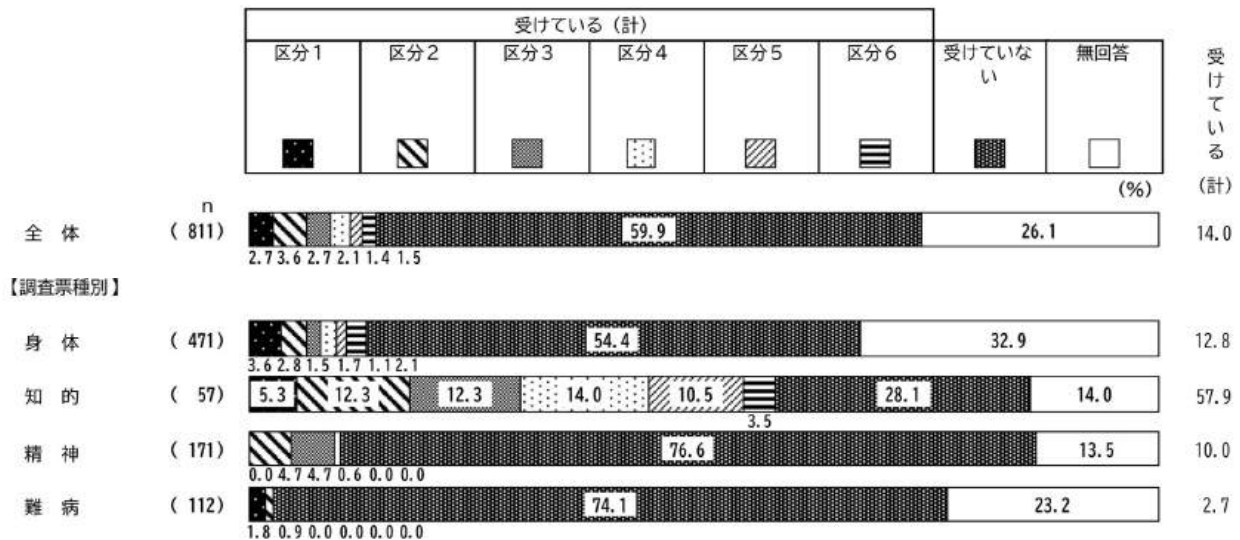


## 7 障害福祉サービス等の利用について

障害福祉サービスについては、全体では、“相談支援”、“居宅介護（ホームヘルプ）”、“日常生活用具給付等”の利用者が多く、障害児では、“児童発達支援”、“放課後等デイサービス”、“子ども発達センター「さくらキッズ」”の利用者が多い。

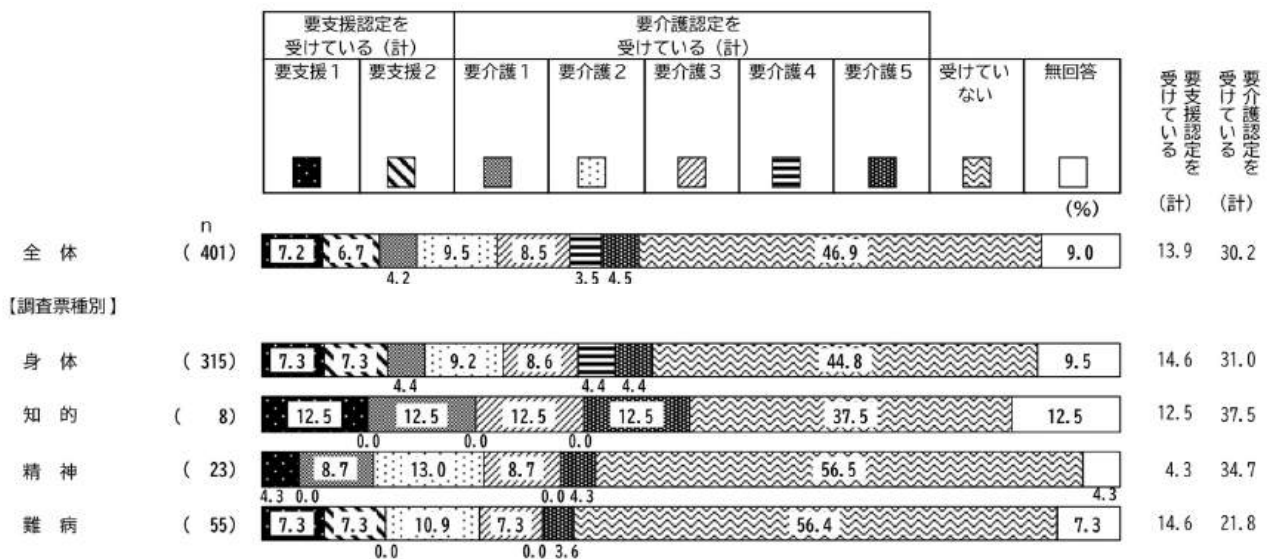
### (1) 障害支援区分の有無【身体、知的、精神、難病調査の質問】

障害支援区分の有無 <全体（身体、知的、精神、難病）>



### (2) 要介護認定【身体、知的、精神、難病調査の65歳以上への質問】

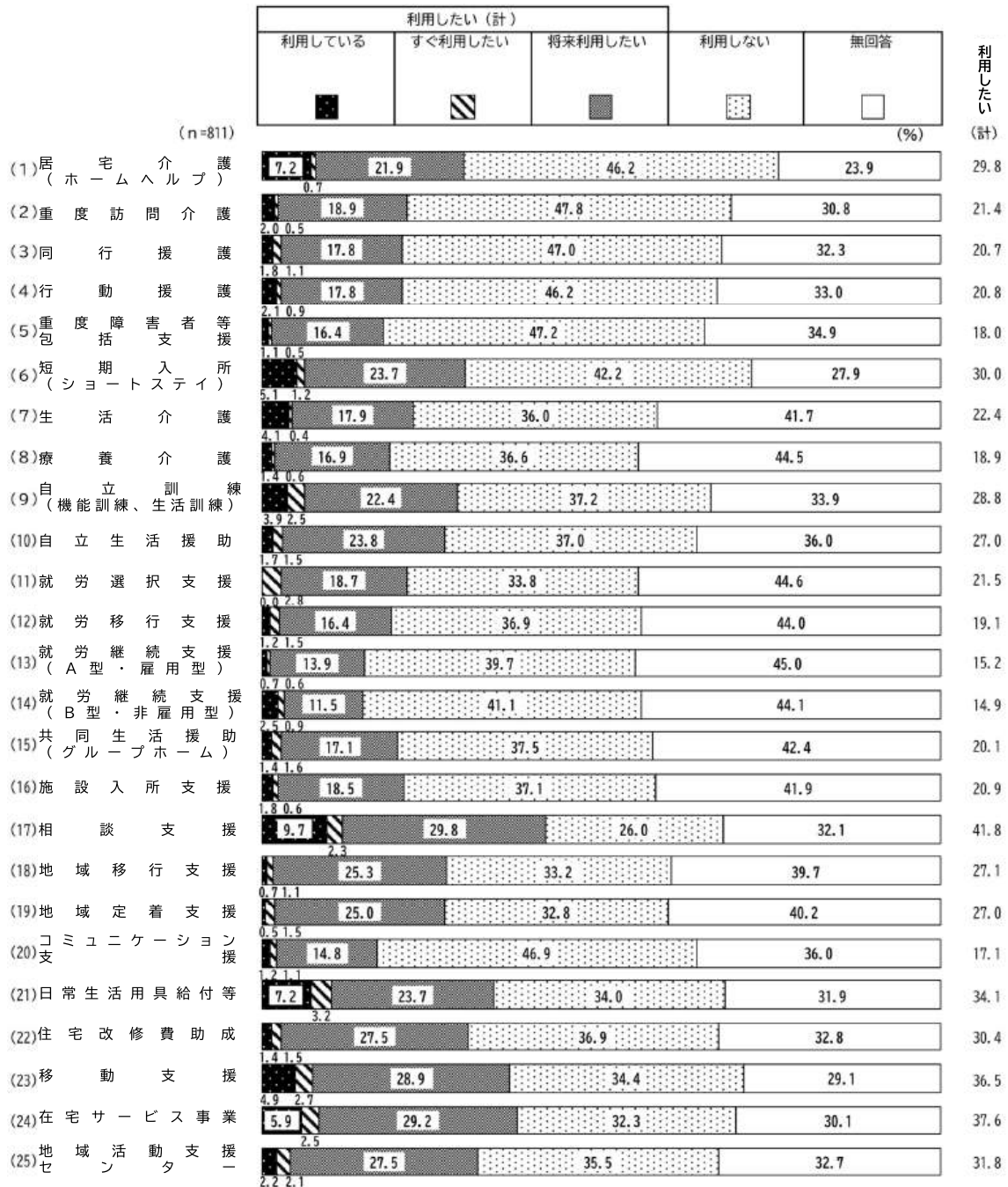
要介護認定 <全体（身体、知的、精神、難病）>



### (3) 障害福祉サービスの利用状況及び利用希望

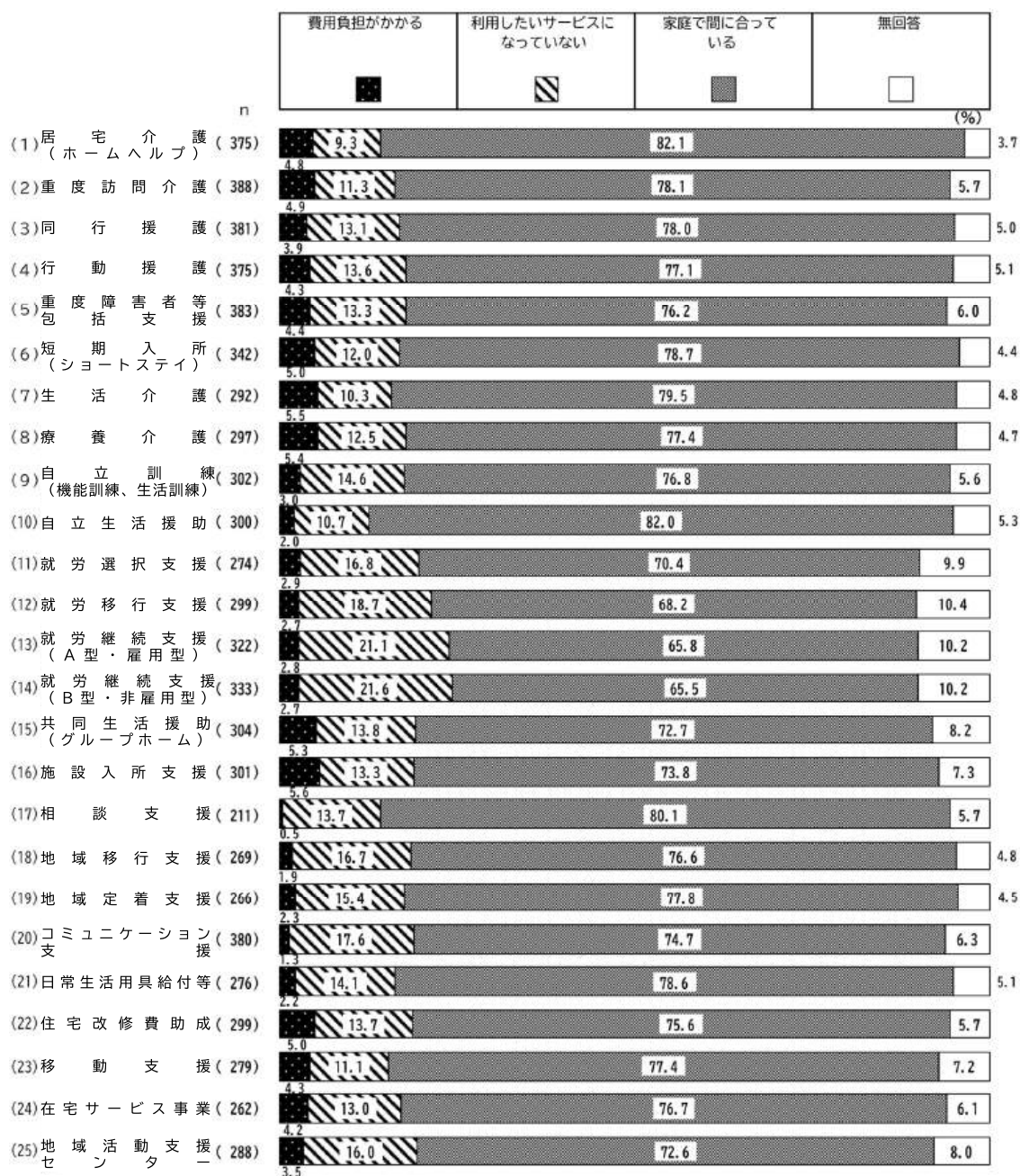
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望について、全体で見ると、「利用している」は“相談支援”で9.7%、次いで“居宅介護（ホームヘルプ）”と“日常生活用具給付等”でそれぞれ7.2%などとなっている。「利用している」、「すぐ利用したい」、「将来利用したい」を合わせた『利用したい（計）』は“相談支援”で41.8%と最も高く、次いで“在宅サービス事業”で37.6%、“移動支援”で36.5%などとなっている。

障害福祉サービスの利用状況及び利用希望 <全体（身体、知的、精神、難病）>  
【利用状況及び利用希望】



障害福祉サービスを「利用しない」と答えた方の理由を、全体でみると、すべての項目で「家庭で間に合っている」の割合が最も高くなっており、“居宅介護（ホームヘルプ）”で82.1%と最も高く、次いで“自立生活援助”で82.0%、“相談支援”で80.1%などとなっている。「利用したいサービスになっていない」は“就労継続支援（B型・非雇用型）”で21.6%と最も高く、次いで“就労継続支援（A型・雇用型）”で21.1%などとなっており、就労関連の障害福祉サービスについて見直しを求める声が見受けられる。

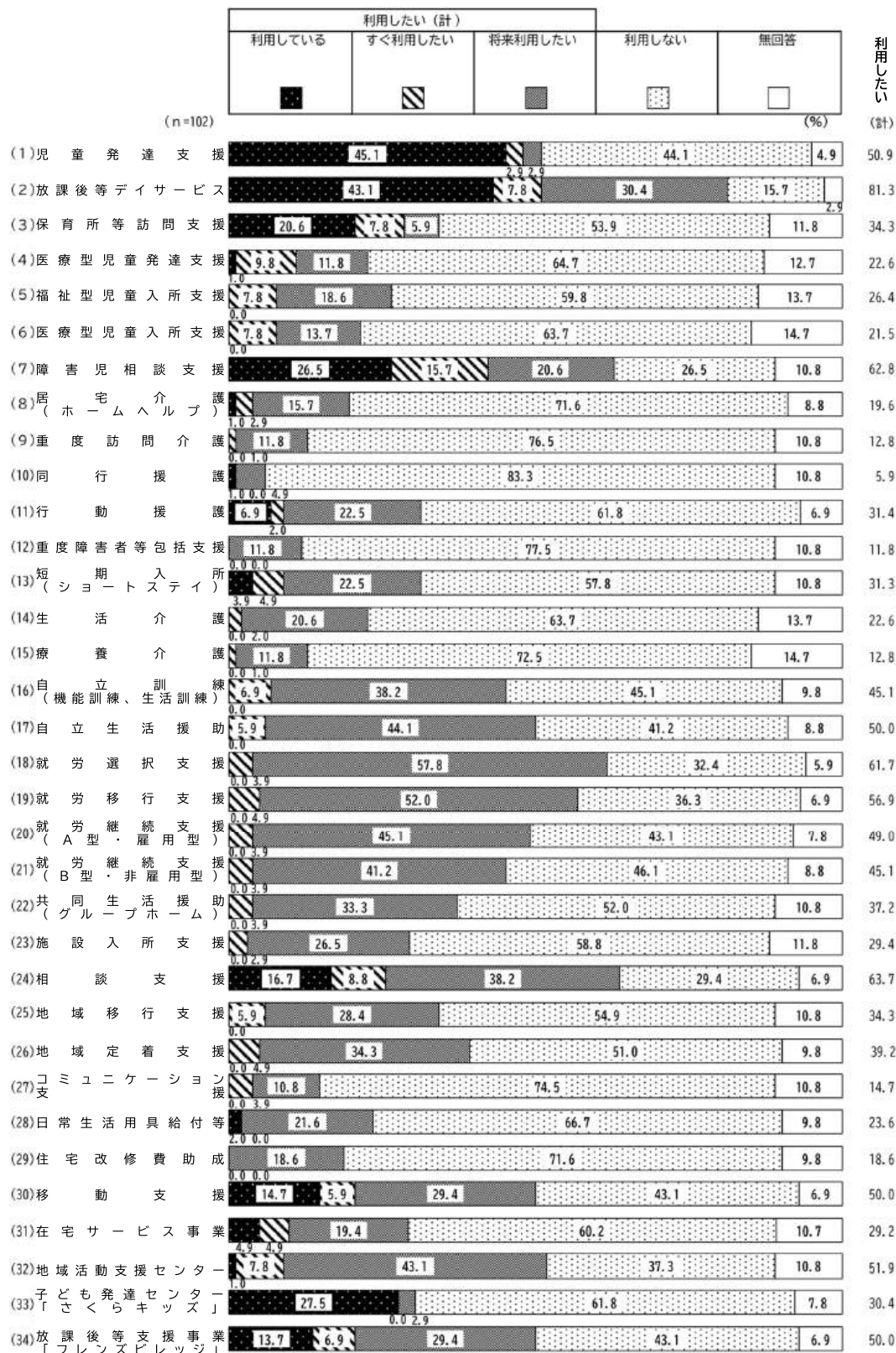
障害福祉サービスの利用状況及び利用希望 <全体（身体、知的、精神、難病）>  
【利用しない理由】



障害児の障害福祉サービスの利用状況及び利用希望をみると、「利用している」は“児童発達支援”で45.1%と最も高く、次いで“放課後等デイサービス”で43.1%、“子ども発達センター「さくらキッズ」”で27.5%などとなっている。『利用したい(計)』は“放課後等デイサービス”で81.3%と最も高く、次いで“相談支援”で63.7%、“障害児相談支援”で62.8%などとなっている。

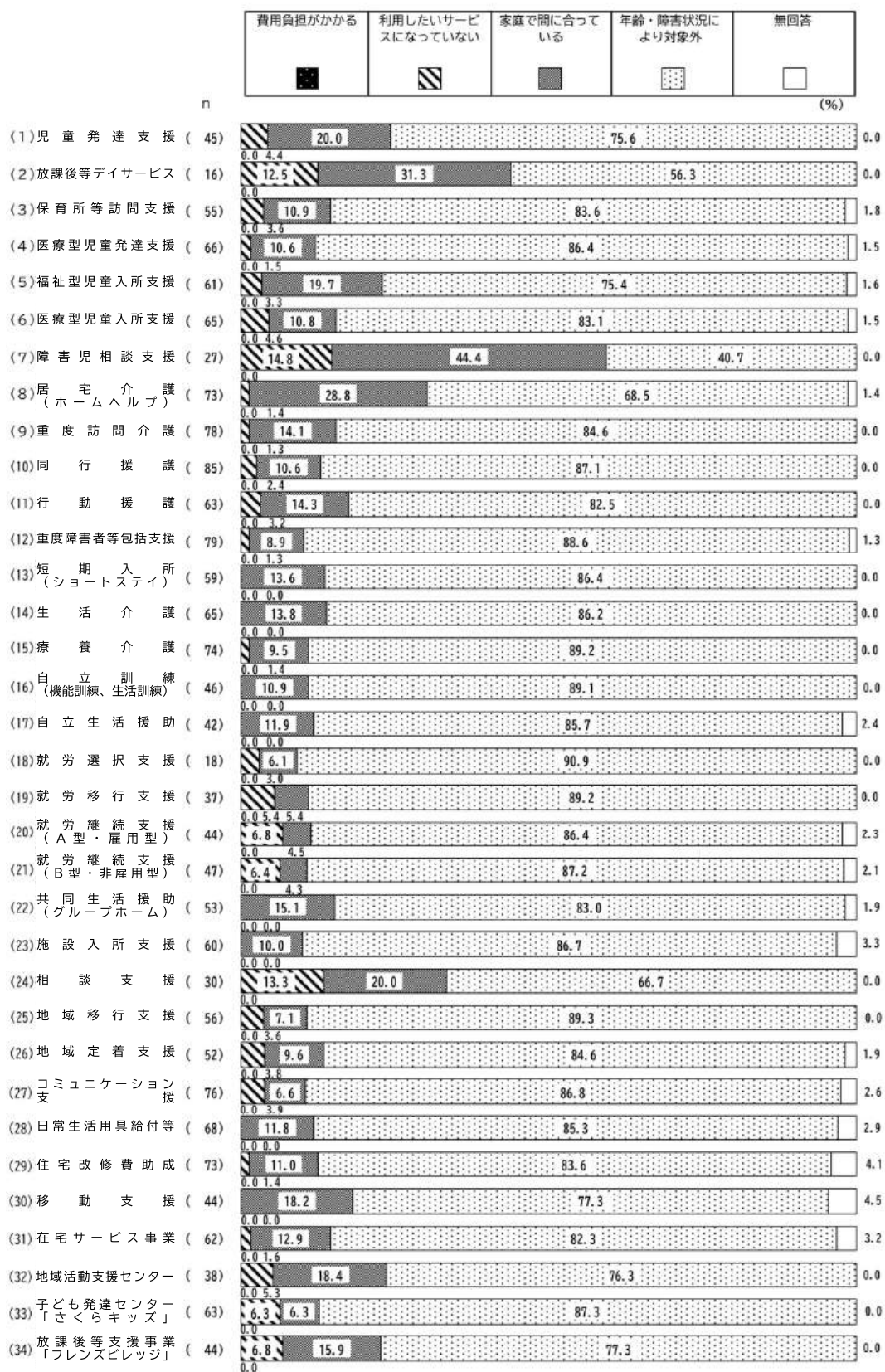
### 障害福祉サービスの利用状況及び利用希望 <障害児>

#### 【利用状況及び利用希望】



障害児の障害福祉サービスを「利用しない」と答えた方の理由をみると、「利用したいサービスになっていない」、「家庭で間に合っている」ともに、“障害児相談支援”でそれぞれ14.8%、44.4%と最も高くなっている。

### 障害福祉サービスの利用状況及び利用希望 <障害児> 【利用しない理由】



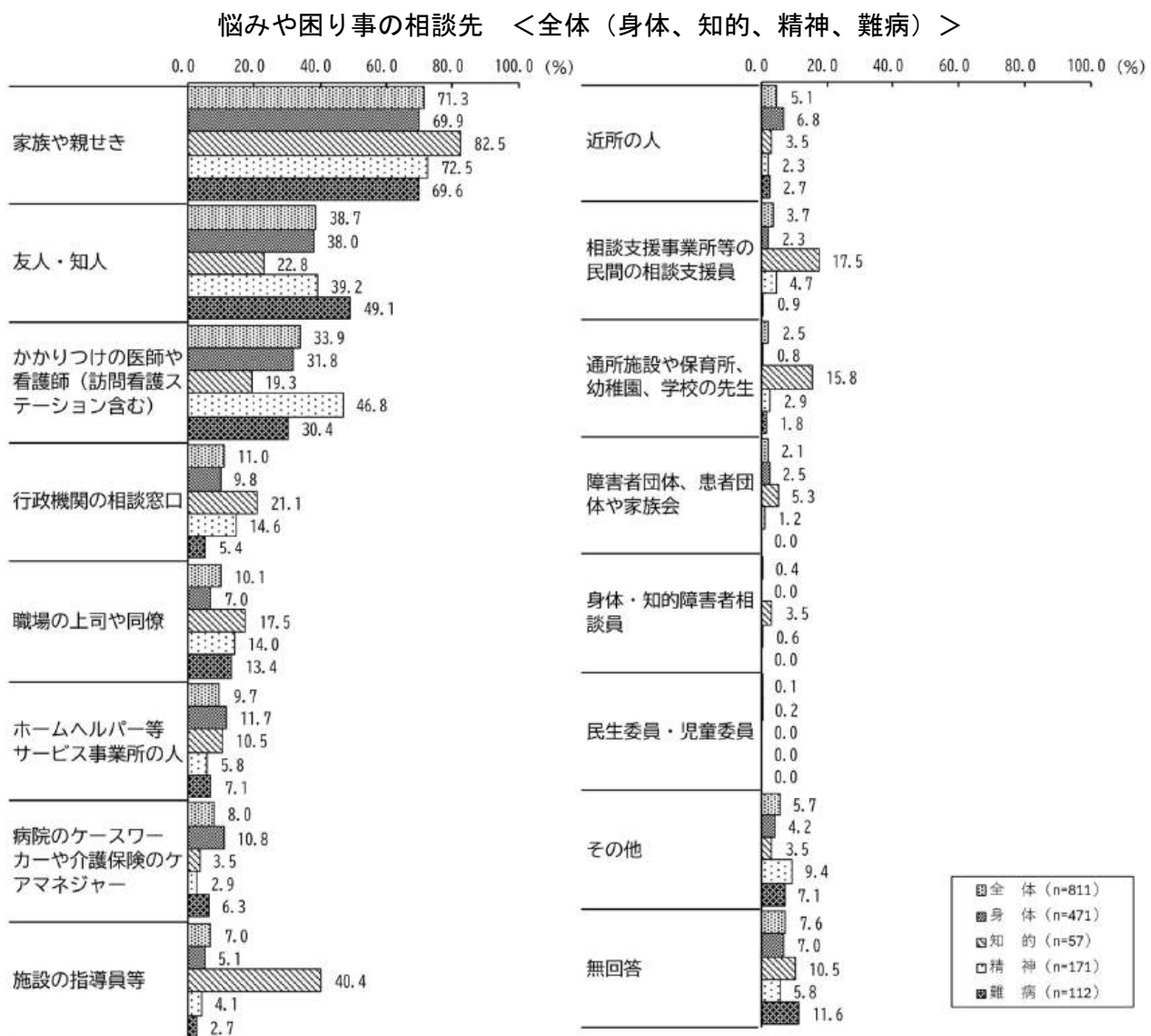
## 8 相談相手について

相談相手は、全体・障害児ともに「家族や親せき」の割合が最も高く、難病では「友人・知人」が半数近く、精神では「かかりつけの医師や看護師（訪問看護ステーション含む）」4割強、知的では「施設の指導員等」がそれぞれ4割台と、いずれも他種別と比べ高い傾向にある。

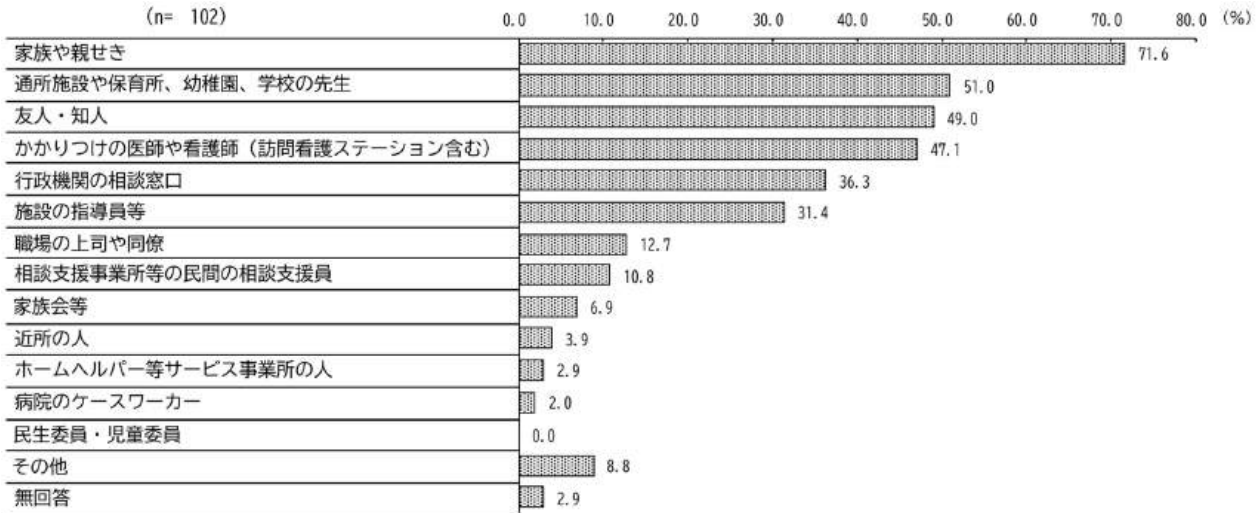
障害や障害福祉サービスの情報の入手先については、全体では「区や都の広報紙」、障害児では「インターネット」が最も利用されている。

### (1) 悩みや困り事の相談先

悩みや困り事の相談先について、全体・障害児ともに、「家族や親せき」が最も高くなっており、それぞれ71.3%、71.6%となっている。



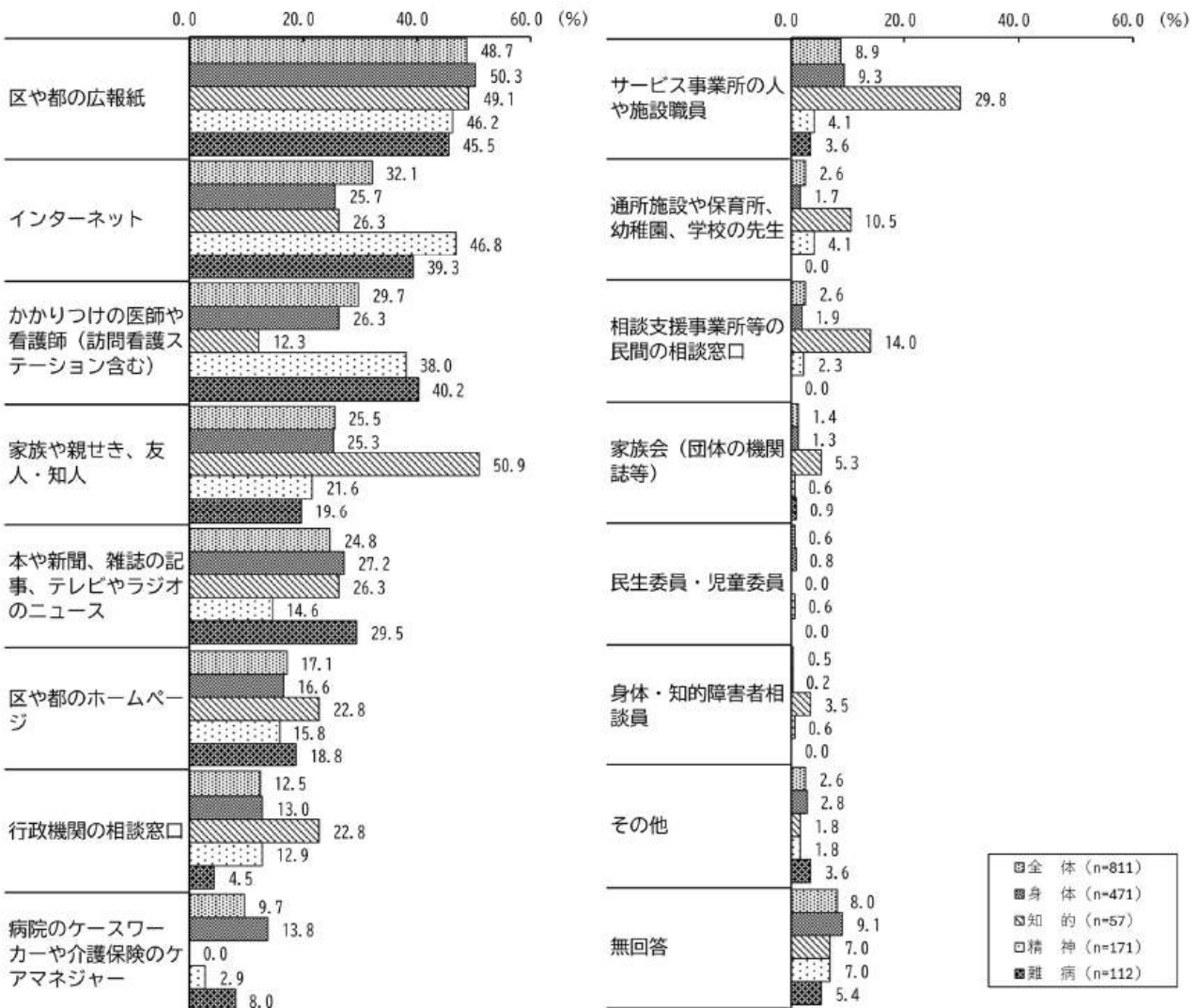
## 悩みや困り事の相談先 <障害児>



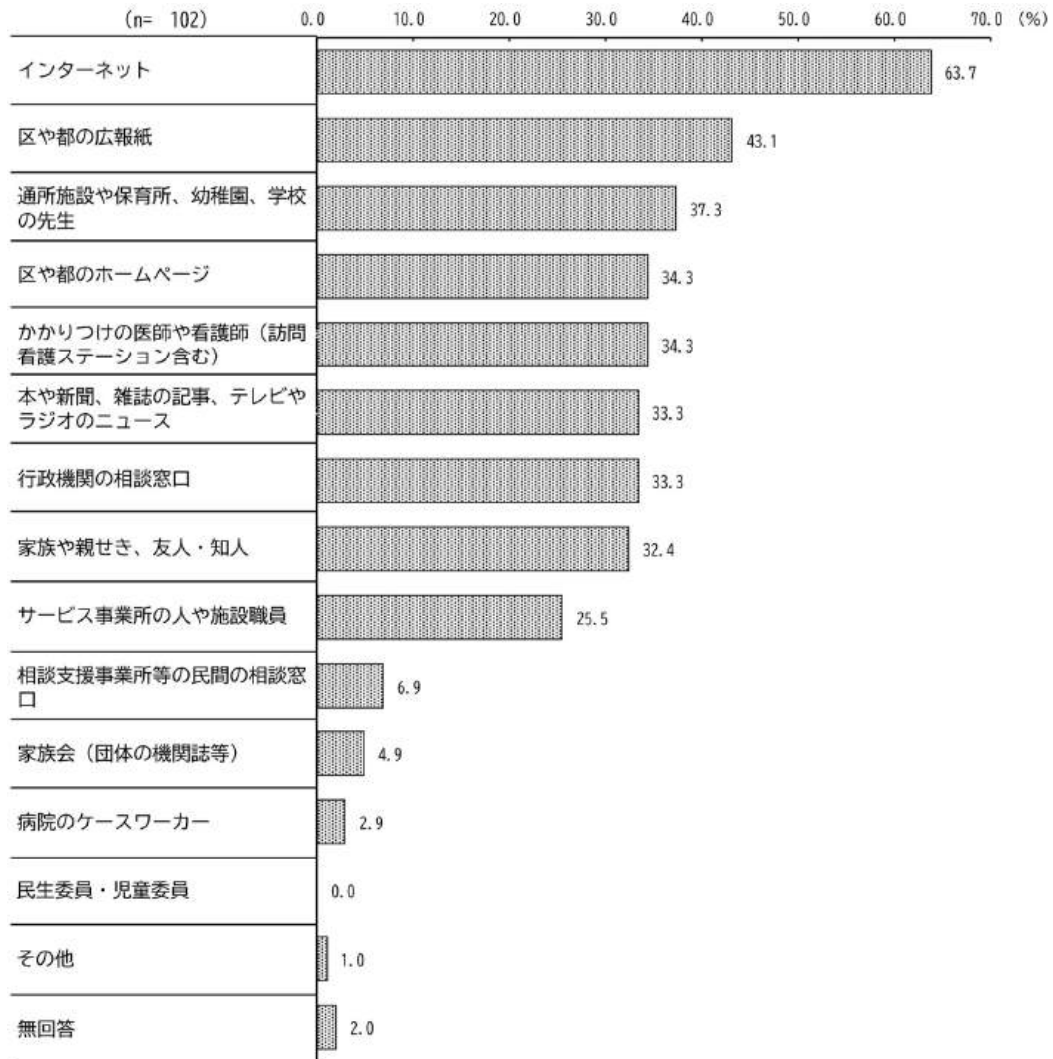
## (2) 障害や障害福祉サービスの情報の入手先

障害や障害福祉サービスの情報の入手先について、全体でみると、「区や都の広報紙」が48.7%で最も高くなっており、障害児では、「インターネット」が63.7%で最も高くなっている。

### 障害や障害福祉サービスの情報の入手先 <全体（身体、知的、精神、難病）>



## 障害や障害福祉サービスの情報の入手先 <障害児>



## 9 災害時の避難について

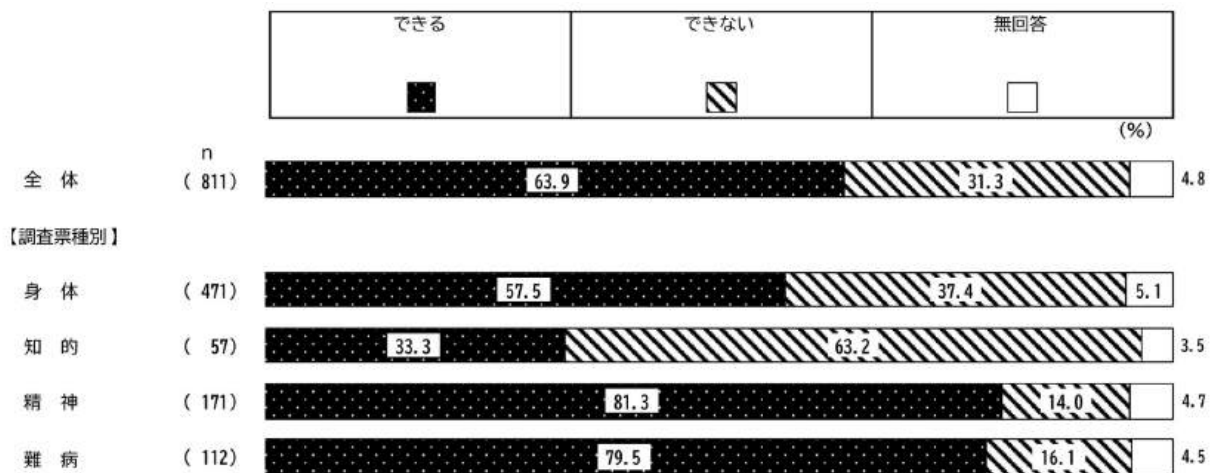
災害時に一人で避難できないと答えた方は、全体では約3割、障害児では約7割に上る。また全体の約6割、障害児の7割以上が「近隣に援助者がいない」と回答しており、災害時におけるサポート体制の確立や、より一層の防災対策が求められる。

また、災害時に困ることとして、身体では「自宅に留まり、避難生活を続ける上での生活必需品や電源等の確保」、知的では「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」、精神と難病では「投薬や治療、医療的ケアが受けられない」の割合が最も高くなっている。

### (1) 災害時の一人での避難の可否

災害時の一人での避難の可否について、全体で見ると、「できる」が63.9%、「できない」は31.3%となっており、障害児では、「できる」が27.5%、「できない」は71.6%となっている。

災害時の一人での避難の可否 <全体（身体、知的、精神、難病）>



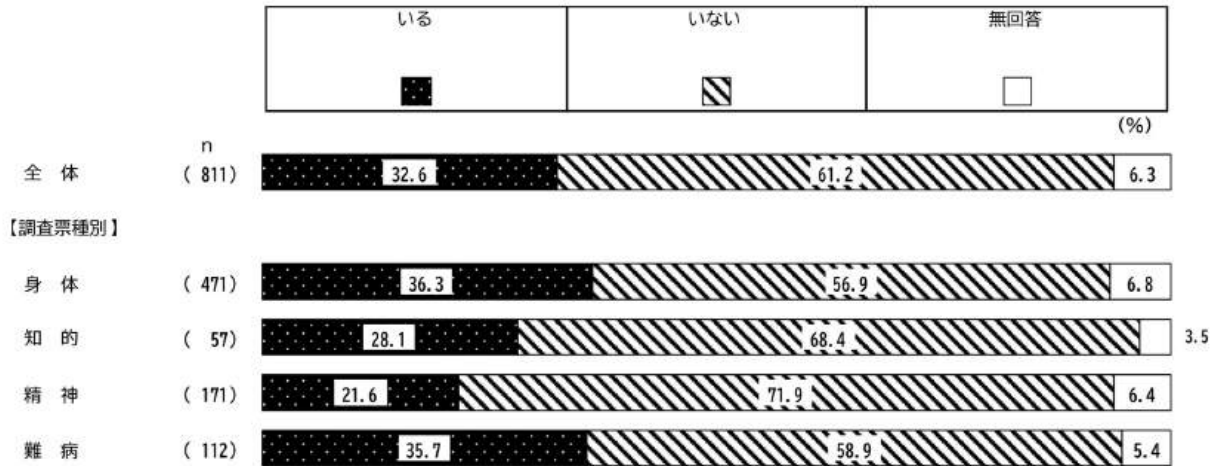
災害時の一人での避難の可否 <障害児>



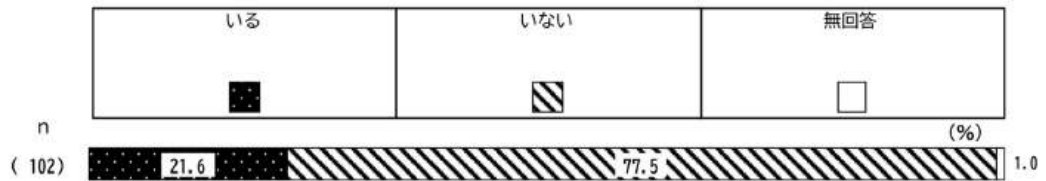
## (2) 近隣の援助者の有無

近隣の援助者の有無について、全体で見ると、「いる」が32.6%、「いない」は61.2%となっており、障害児では、「いる」が21.6%、「いない」は77.5%となっている。

### 近隣の援助者の有無 <全体（身体、知的、精神、難病）>



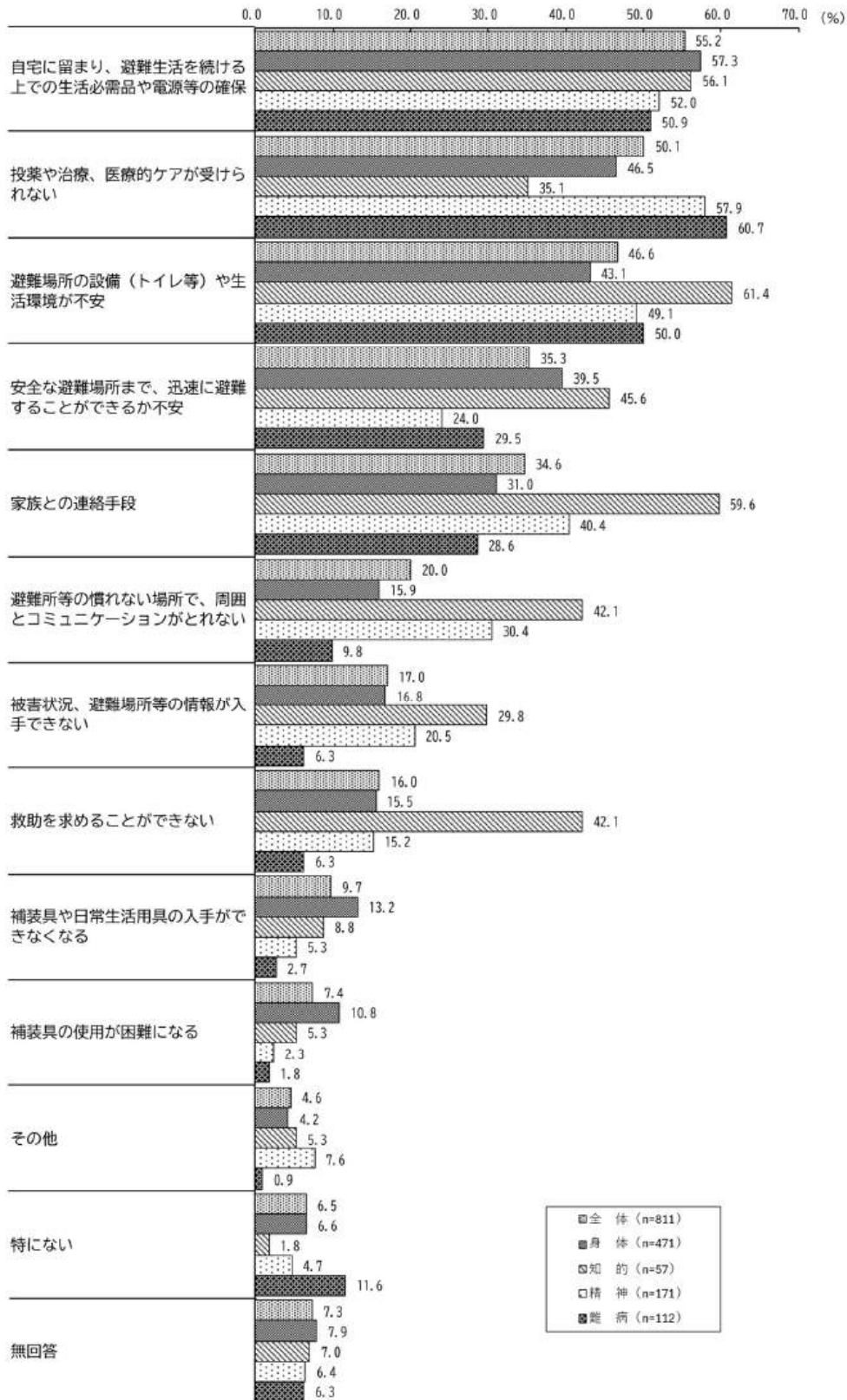
### 近隣の援助者の有無 <障害児>



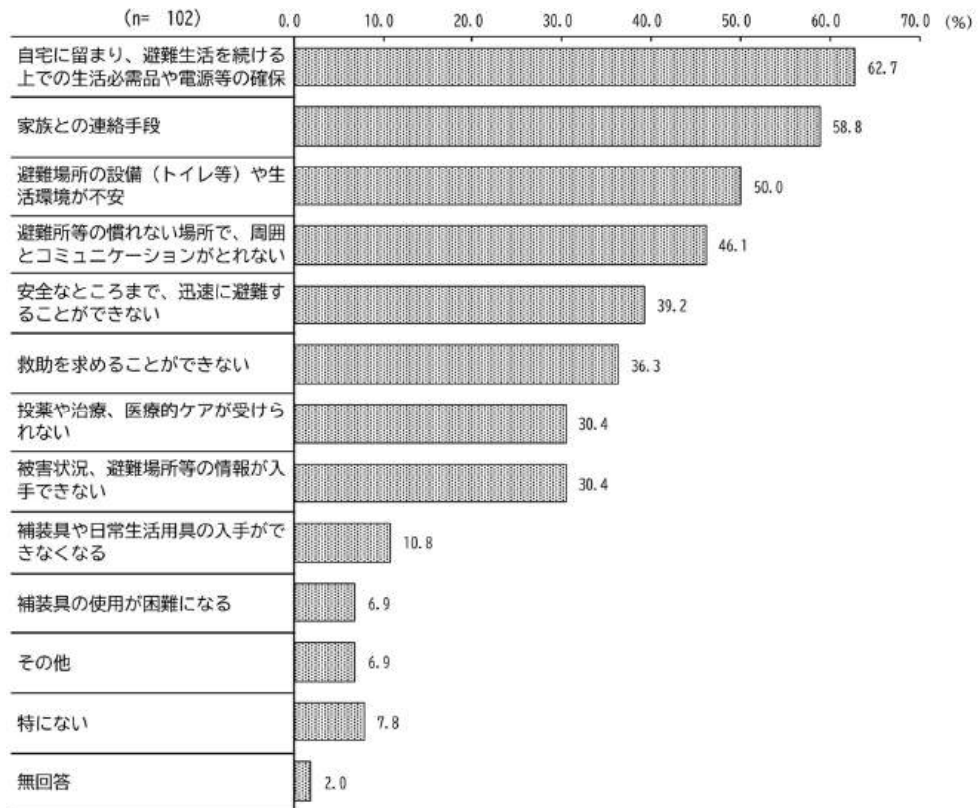
### (3) 災害時に困ること

災害時に困ることについて、全体・障害児ともに、「自宅に留まり、避難生活を続ける上での生活必需品や電源等の確保」が最も高くなっており、それぞれ55.2%、62.7%となっている。

災害時に困ること <全体（身体、知的、精神、難病）>



### 災害時に困ること <障害児>



## 10 障害者差別解消法について

障害者差別解消法の認知度について、内容まで熟知している人は全体で約2割、障害児で4割となっている。

障害特性にあった特別な配慮が得られていると感じている人は、全体では5割強、障害児では8割越えとなっており、その場所は、全体では「病院・福祉施設等」、障害児では「保育園・幼稚園・学校等」の割合が最も高くなっている。

一方、障害者特性にあった特別な配慮が得られていないと感じている人は、全体で約2割半、障害児で1割強となっており、その場所は全体では、「鉄道・バス等交通機関」、障害児では「保育園・幼稚園・学校等」の割合が最も高くなっている。

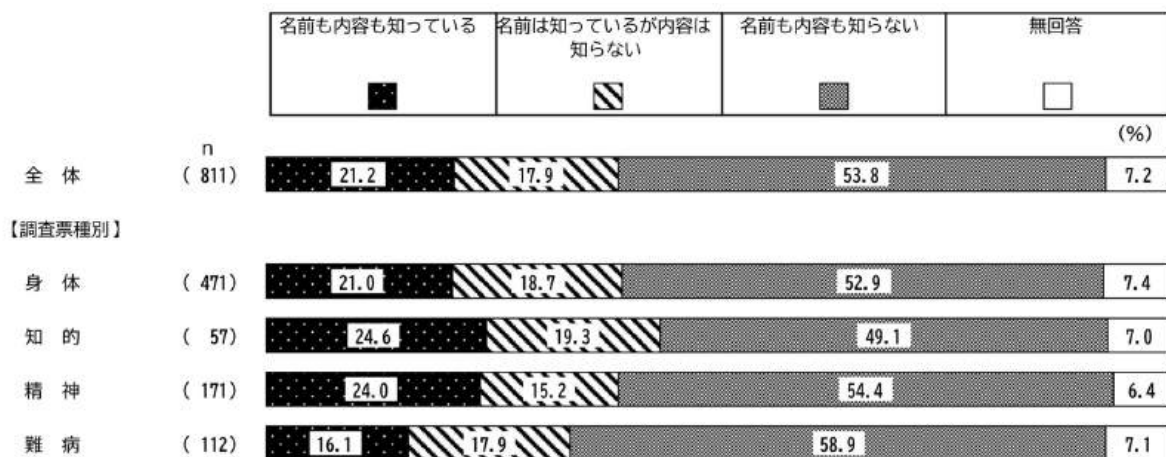
ヘルプマークやヘルプカードの認知度は、全体では7割越え、障害児では9割弱となっている。

### (1) 障害者差別解消法の認知度

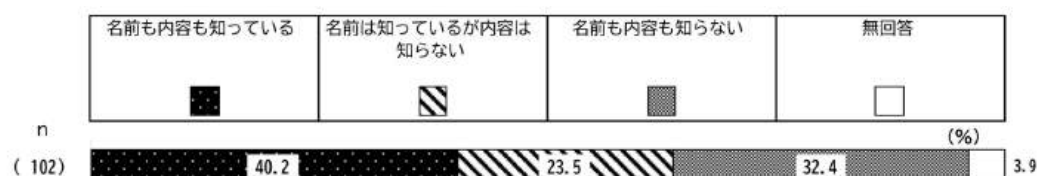
障害者差別解消法の認知度について、全体で見ると、「名前も内容も知っている」が21.2%、「名前は知っているが内容は知らない」が17.9%、「名前も内容も知らない」は53.8%となっている。

障害児では、「名前も内容も知っている」が40.2%、「名前は知っているが内容は知らない」が23.5%、「名前も内容も知らない」は32.4%となっている。

障害者差別解消法の認知度 <全体（身体、知的、精神、難病）>



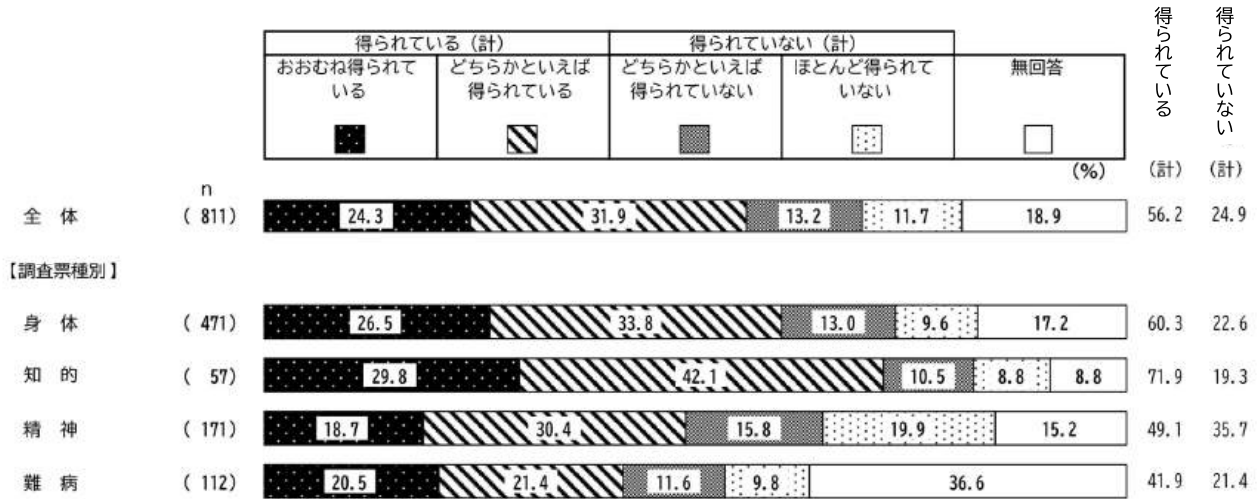
障害者差別解消法の認知度 <障害児>



## (2) 障害特性にあった特別な配慮が得られているか

障害特性にあった特別な配慮が得られているかについて、「おおむね得られている」と「どちらかといえば得られている」を合わせた『得られている（計）』は、全体では56.2%、障害児では82.4%となっている。

### 障害特性にあった特別な配慮が得られているか <全体（身体、知的、精神、難病）>



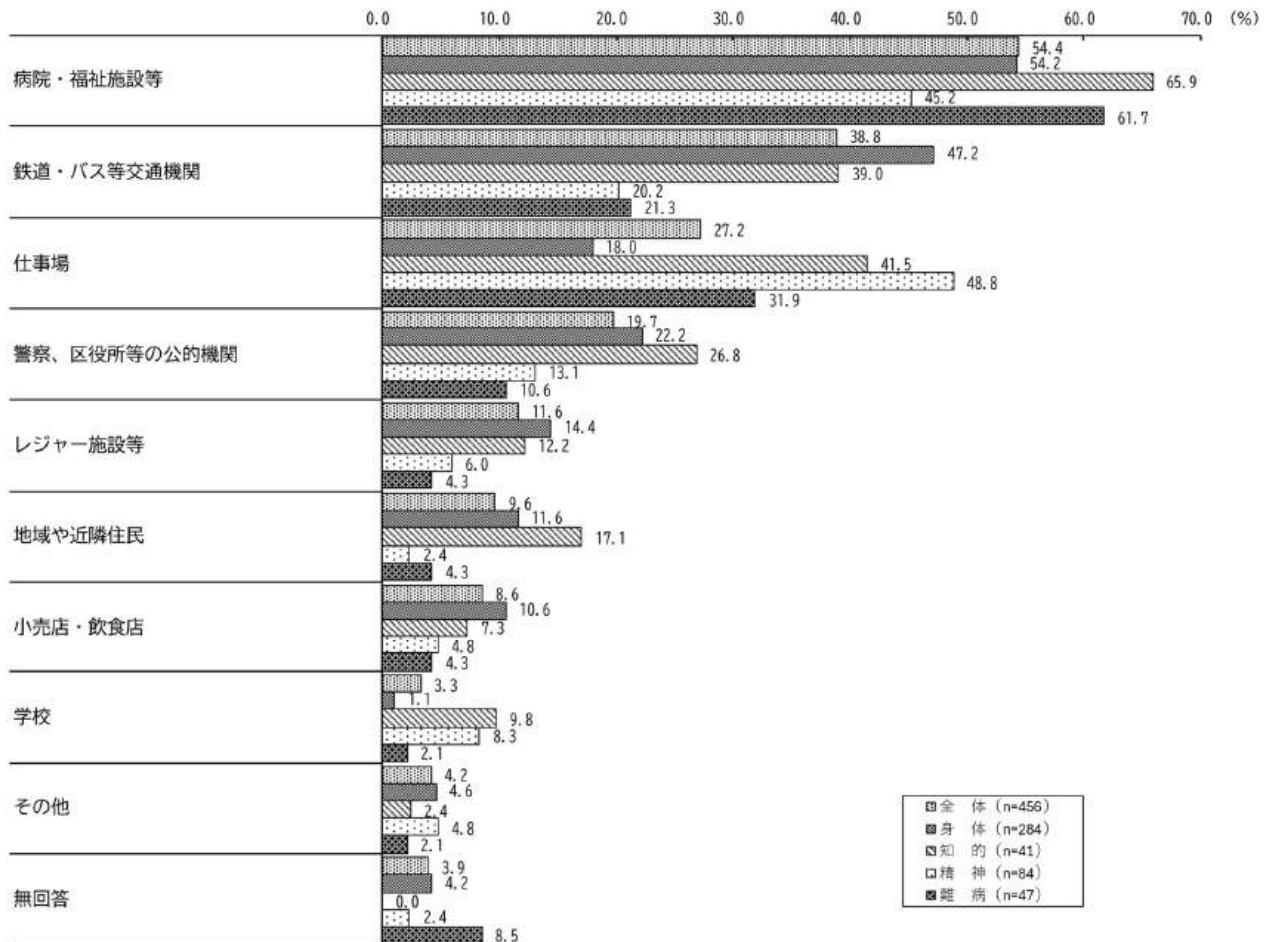
### 障害特性にあった特別な配慮が得られているか <障害児>



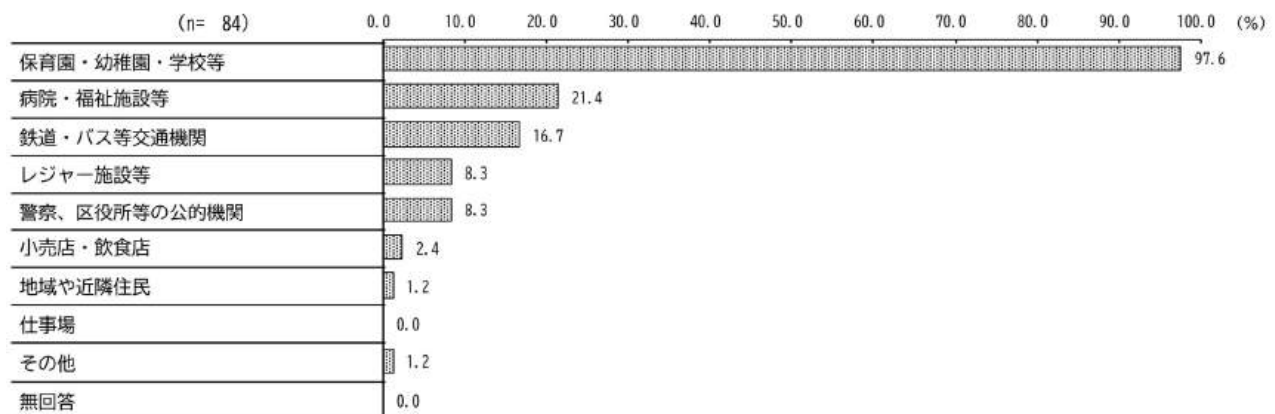
(3) 特別な配慮が得られた場所【障害特性にあった特別な配慮について、「おおむね得られている」「どちらかといえば得られている」と答えた方への質問】

特別な配慮が得られた場所について、全体でみると、「病院・福祉施設等」が54.4%で最も高くなっており、障害児では、「保育園・幼稚園・学校等」が97.6%で最も高くなっている。

特別な配慮が得られた場所 <全体（身体、知的、精神、難病）>



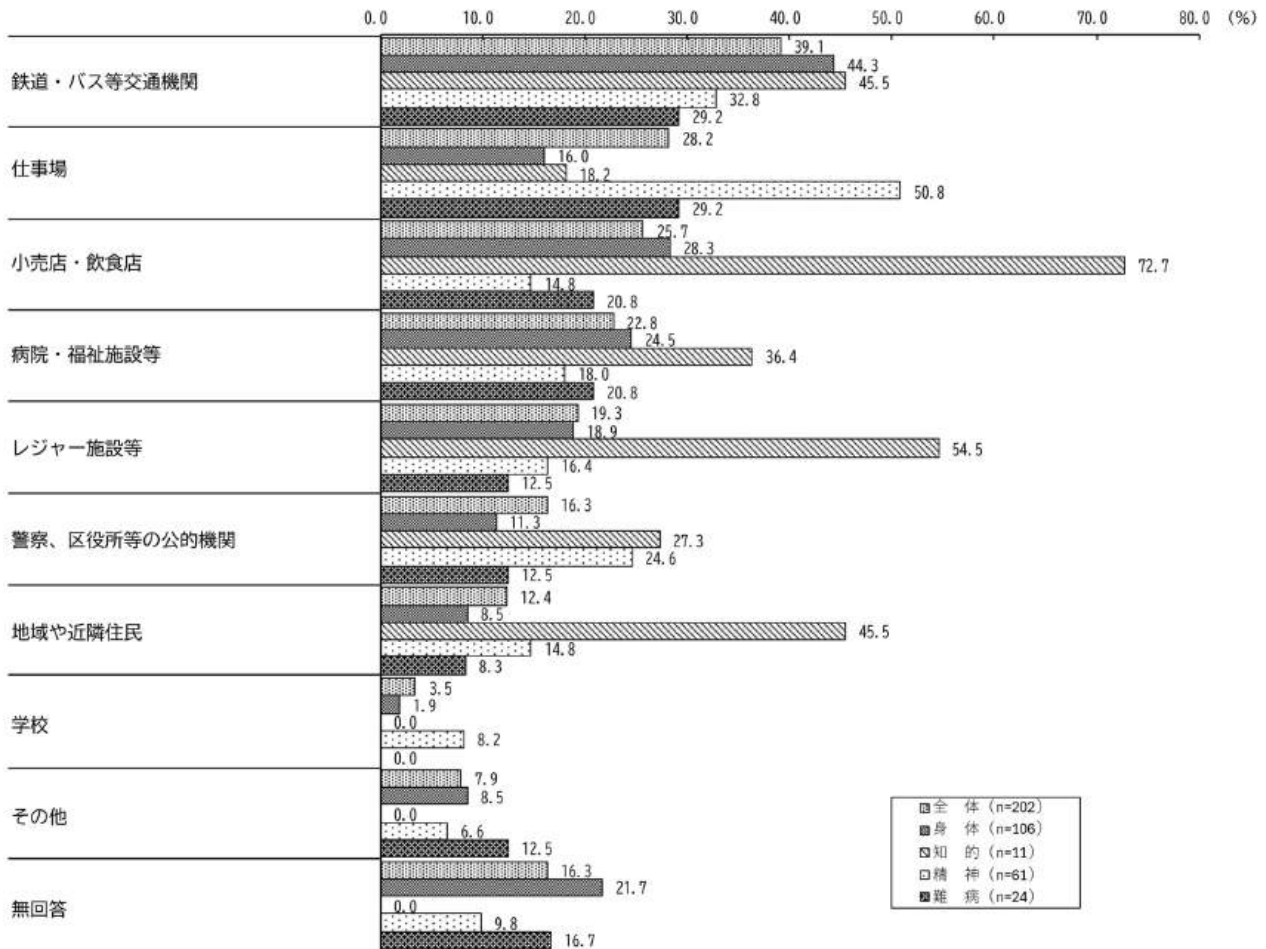
特別な配慮が得られた場所 <障害児>



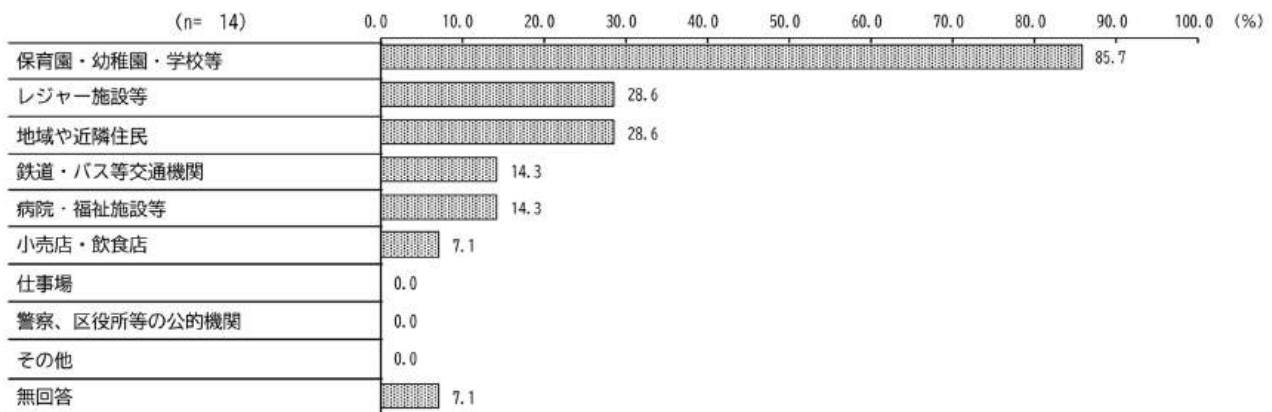
(4) 特別な配慮が得られていない場所【障害特性にあった特別な配慮について、「どちらかといえば得られていない」「ほとんど得られていない」と答えた方への質問】

特別な配慮が得られていない場所について、全体でみると、「鉄道・バス等交通機関」が39.1%で最も高くなっており、障害児では、「保育園・幼稚園・学校等」が85.7%で最も高くなっている。

特別な配慮が得られていない場所 <全体（身体、知的、精神、難病）>



特別な配慮が得られていない場所 <障害児>

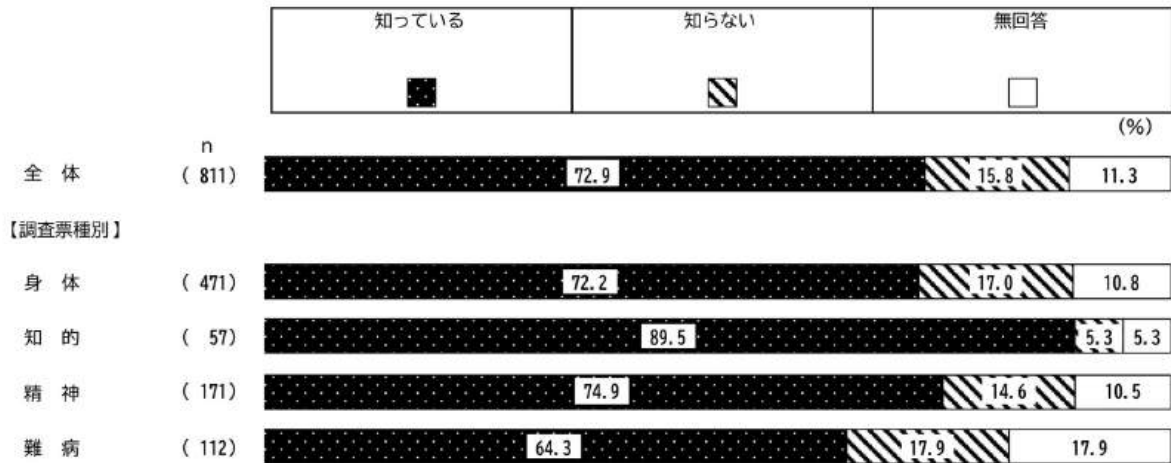


### (5) ヘルプマークやヘルプカードの認知度

ヘルプマークやヘルプカードの認知度について、全体でみると、「知っている」が72.9%、「知らない」は15.8%となっている。

障害児では、「知っている」が87.3%、「知らない」は6.9%となっている。

#### ヘルプマークやヘルプカードの認知度 <全体（身体、知的、精神、難病）>



#### ヘルプマークやヘルプカードの認知度 <障害児>



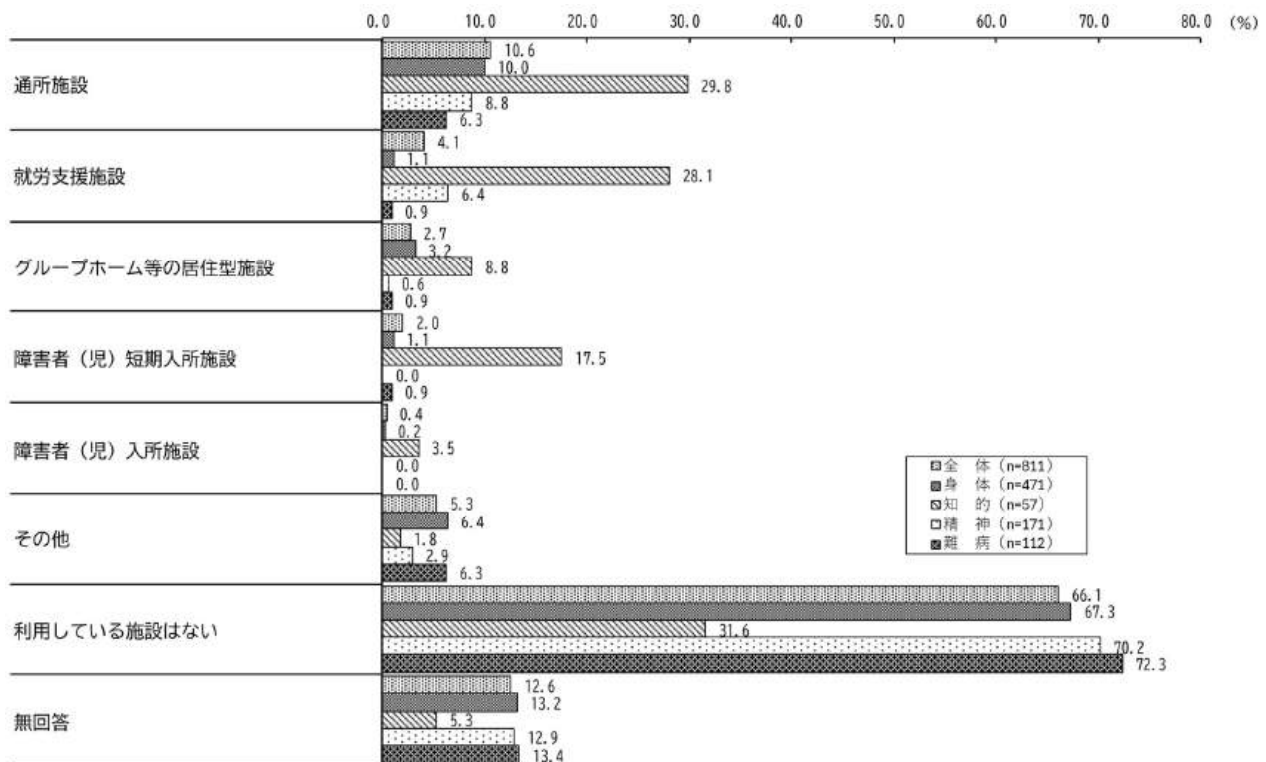
## 11 福祉施策等について

現在福祉施設を利用していない人は、全体では7割弱、障害児では1割強となっており、利用している人でみると、全体では「通所施設」、障害児では「保育園・幼稚園・児童館」の割合が最も高くなっている。

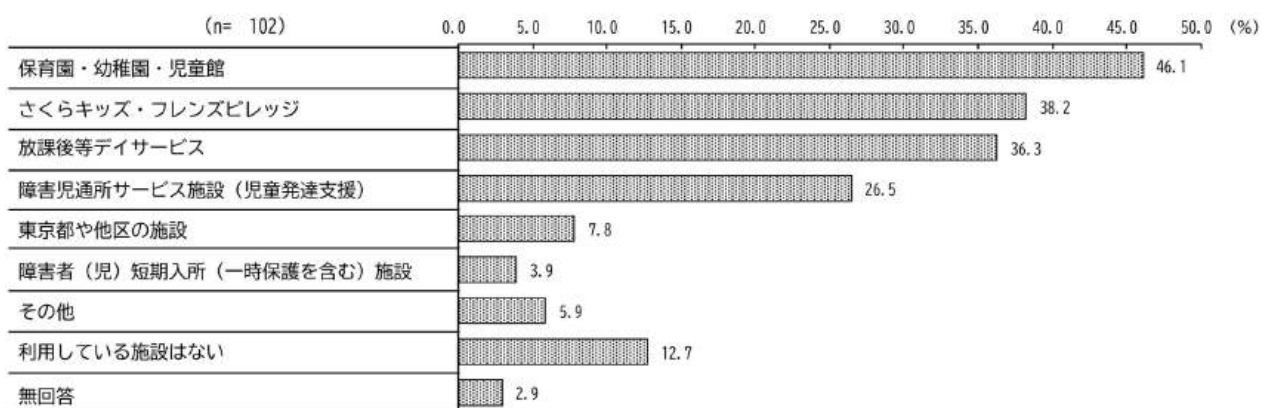
### (1) 現在利用中の施設

現在利用中の施設について、全体でみると、「通所施設」が10.6%で最も高くなっており、障害児では、「保育園・幼稚園・児童館」が46.1%で最も高くなっている。

現在利用中の施設 <全体（身体、知的、精神、難病）>



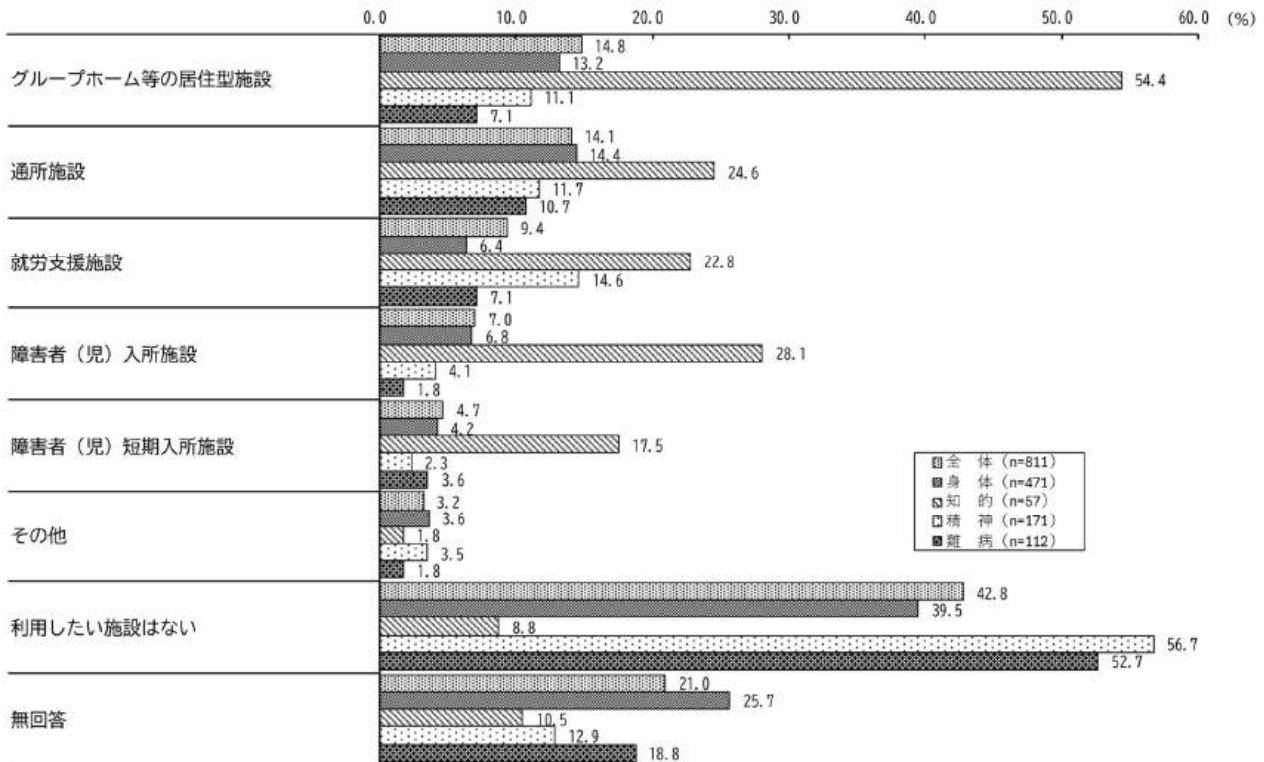
現在利用中の施設 <障害児>



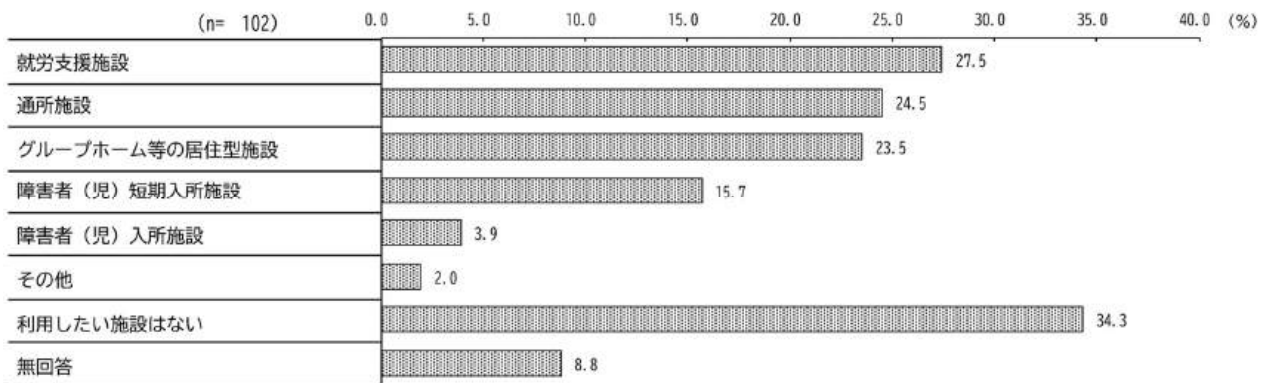
## (2) 将来利用したい施設と利用したい時期

将来利用したい施設について、全体でみると、「グループホーム等の居住型施設」が14.8%で最も高くなっており、障害児では、「就労支援施設」が27.5%で最も高くなっている。

将来利用したい施設 <全体（身体、知的、精神、難病）>



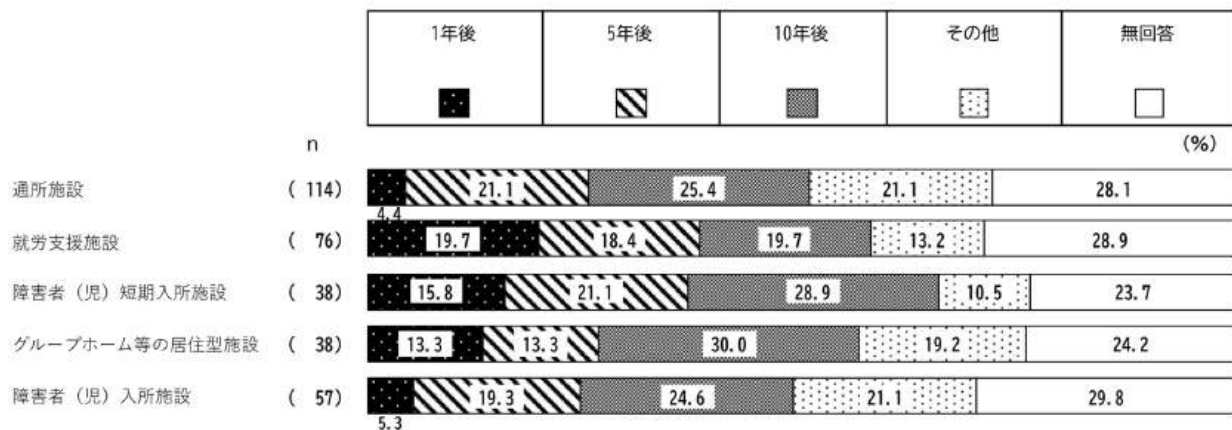
将来利用したい施設 <障害児>



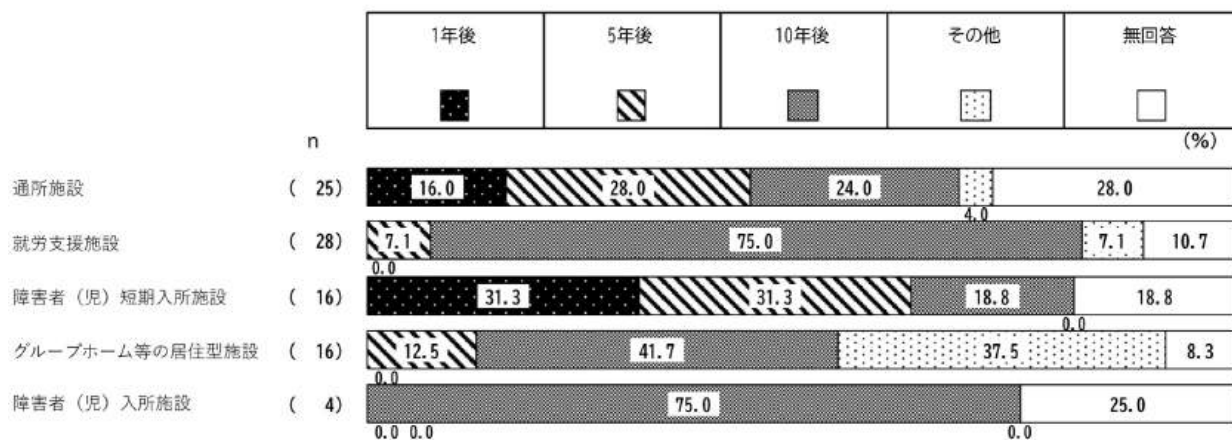
将来利用したい施設で選択した施設を利用したい時期について、全体でみると、「1年後」は“就労支援施設”で19.7%、「5年後」は“通所施設”と“障害者（児）短期入所施設”で21.1%、「10年後」は“グループホーム等の居住型施設”で30.0%となっている。

障害児では、「1年後」と「5年後」は“障害者（児）短期入所施設”でそれぞれ31.3%、「10年後」は“就労支援施設”と“障害者（児）入所施設”で75.0%となっている。

### 施設を利用したい時期 <全体（身体、知的、精神、難病）>



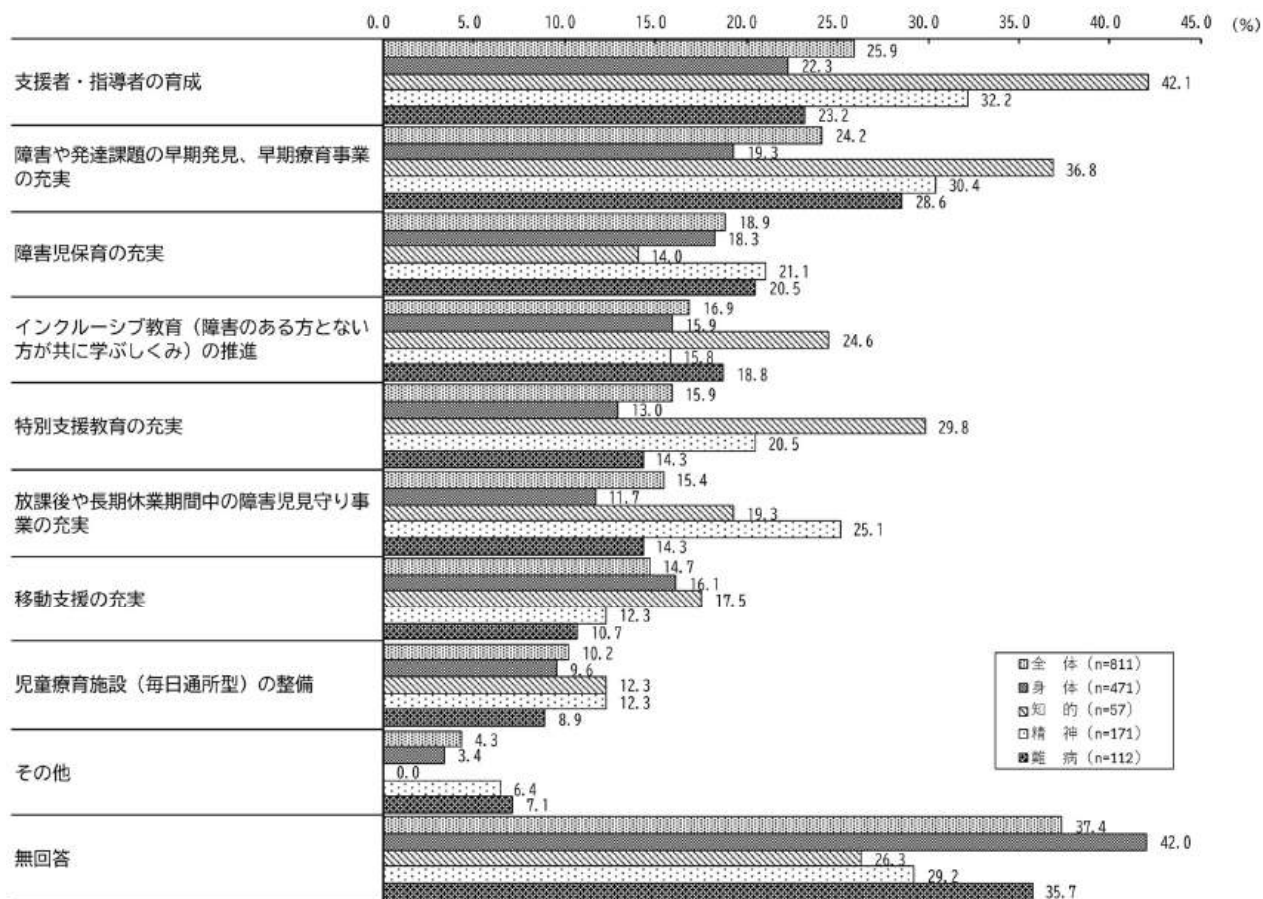
### 施設を利用したい時期 <障害児>



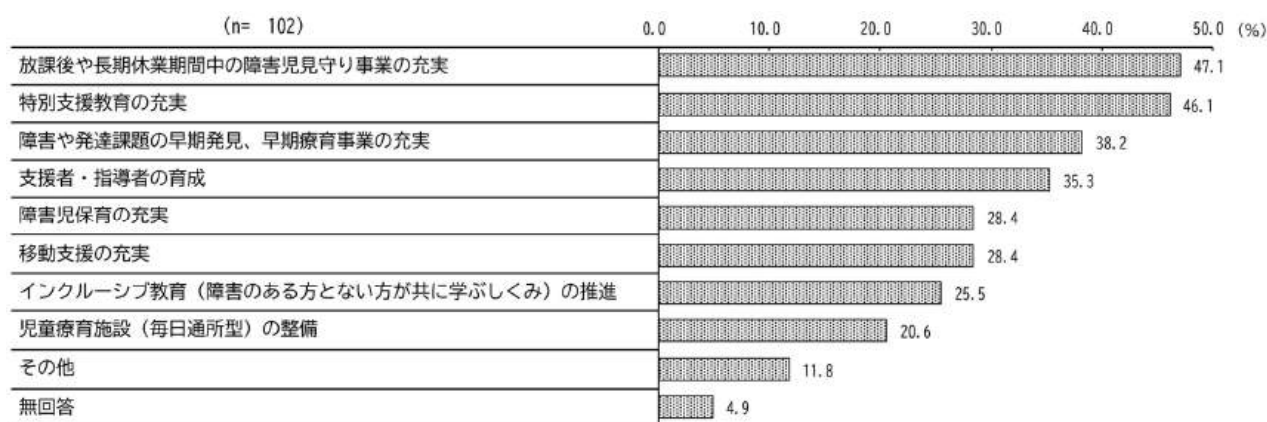
### (3) 障害児について特に力を入れて欲しい施策

障害児について特に力を入れてほしい施策について、全体で見ると、「支援者・指導者の育成」が25.9%で最も高くなっており、障害児では、「放課後や長期休業期間中の障害児見守り事業の充実」が47.1%で最も高くなっている。

障害児について特に力を入れてほしい施策 <全体（身体、知的、精神、難病）>



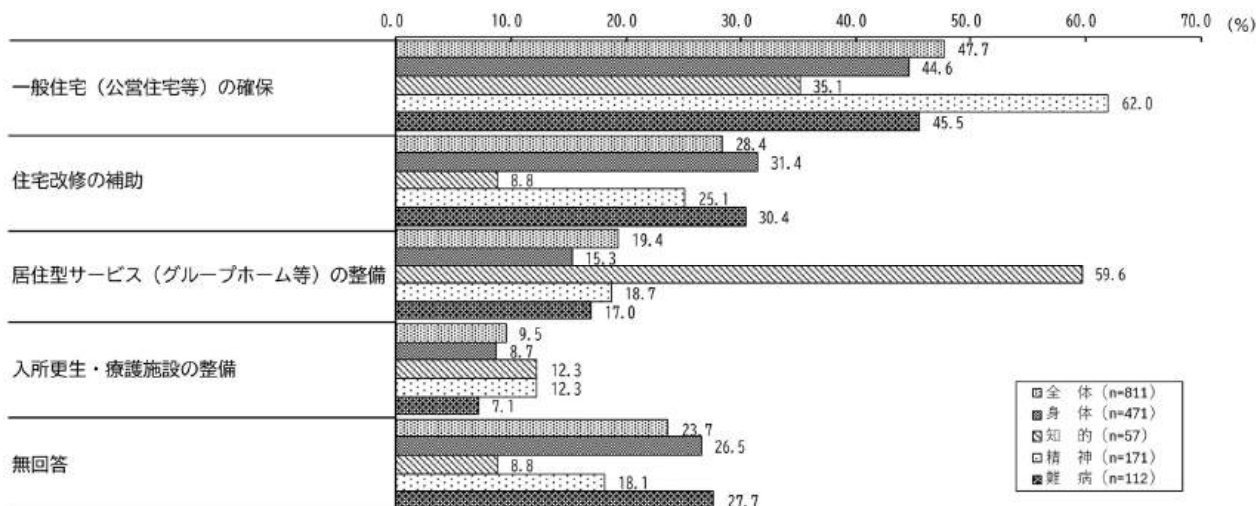
障害児について特に力を入れてほしい施策 <障害児>



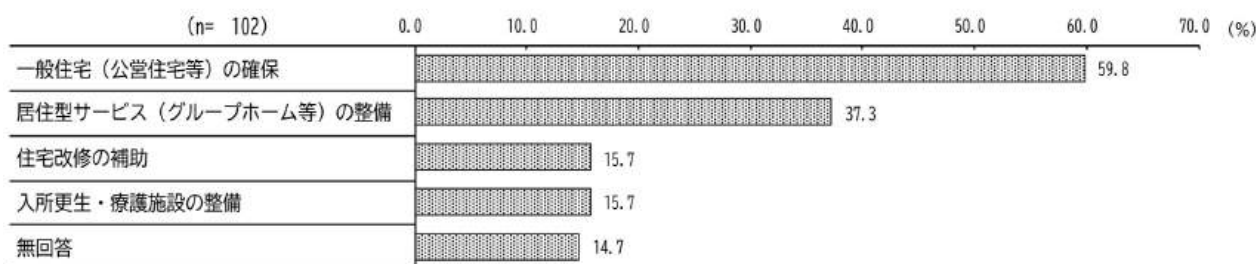
#### (4) 住まいについて特に力を入れてほしい施策

住まいについて特に力を入れてほしい施策をみると、全体・障害児ともに、「一般住宅（公営住宅等）の確保」が最も高くなっており、それぞれ47.7%、59.8%となっている。

住まいについて特に力を入れてほしい施策 <全体（身体、知的、精神、難病）>



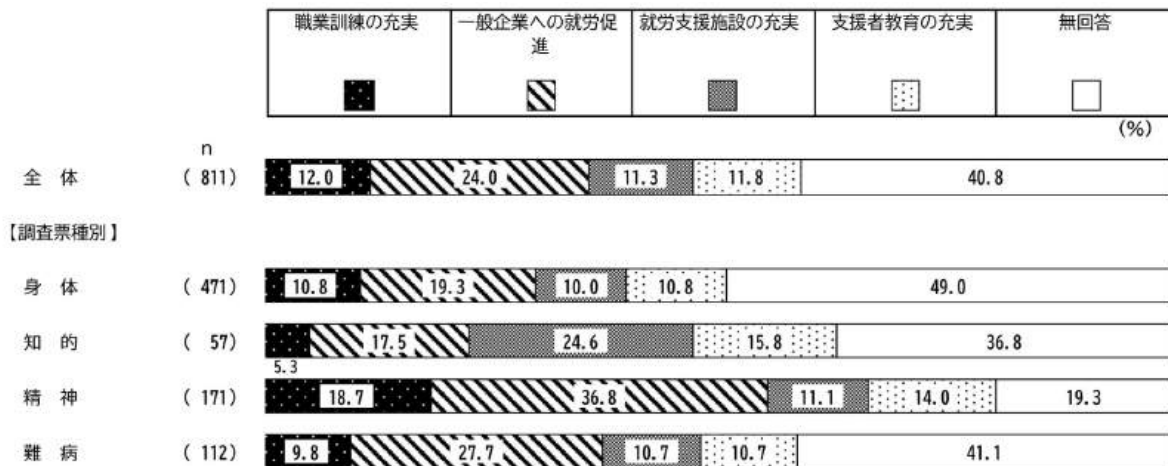
住まいについて特に力を入れてほしい施策 <障害児>



### (5) 就労について特に力を入れてほしい施策

就労について特に力を入れてほしい施策をみると、全体・障害児ともに「一般企業への就労促進」が最も高くなっており、それぞれ24.0%、41.2%となっている。

#### 就労について特に力を入れてほしい施策 <全体（身体、知的、精神、難病）>



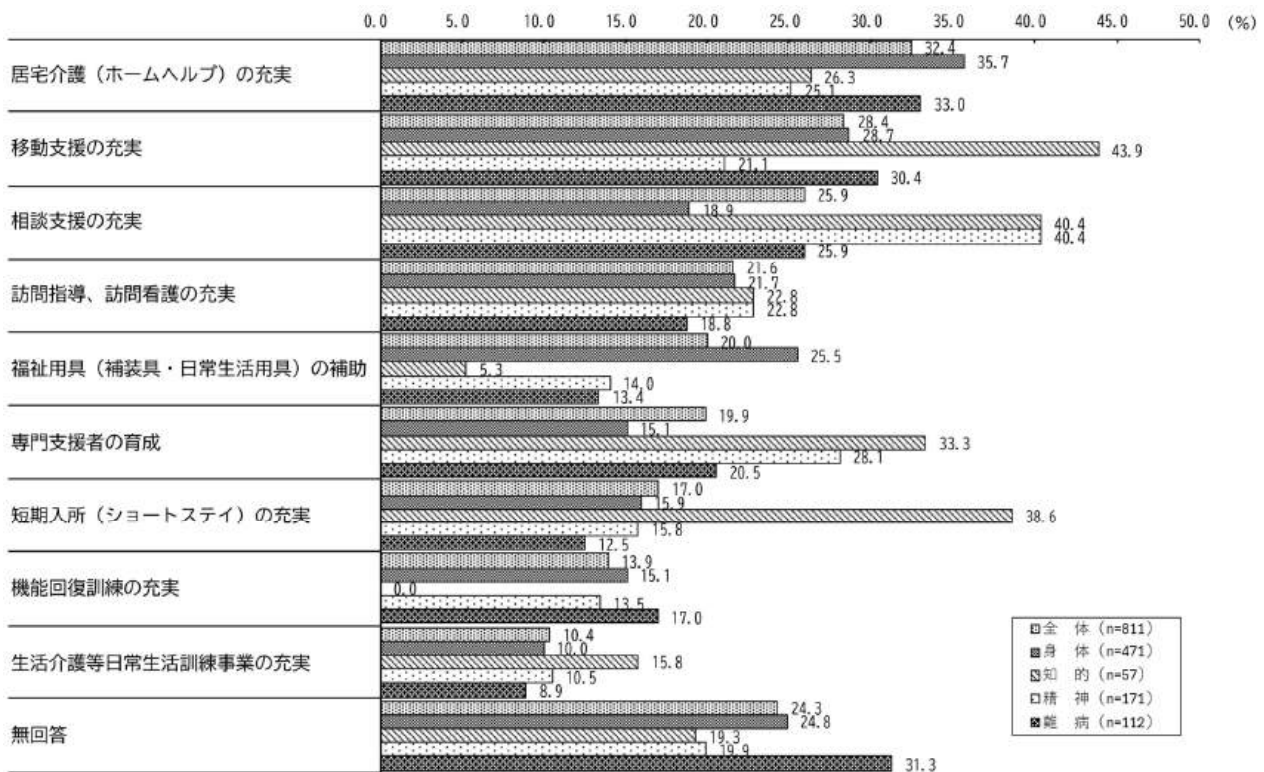
#### 就労について特に力を入れてほしい施策 <障害児>



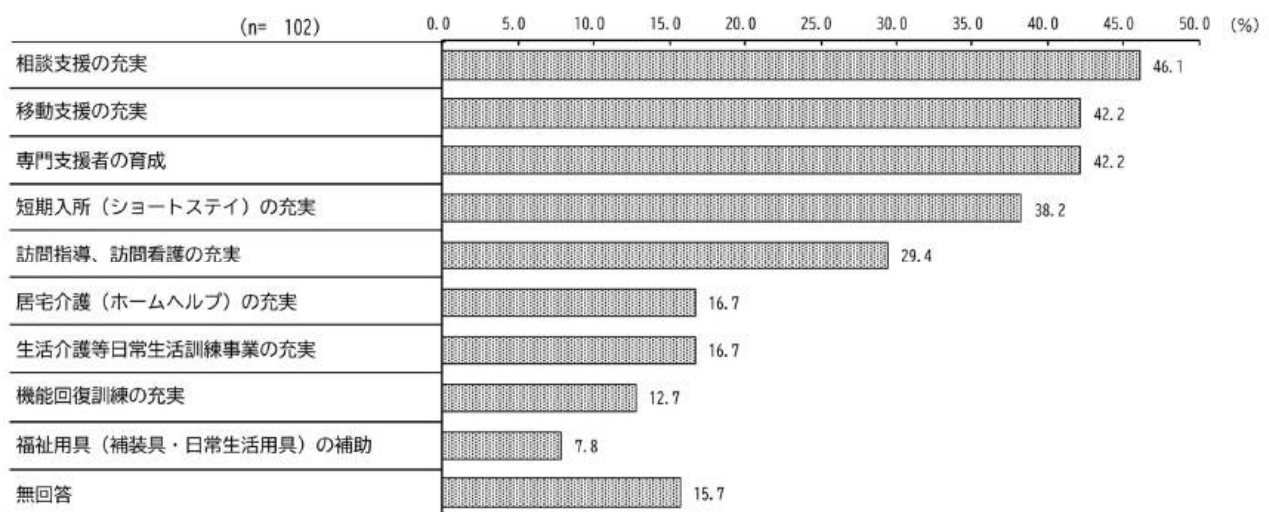
## (6) 生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策

生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策について、全体で見ると、「居宅介護（ホームヘルプ）の充実」が32.4%で最も高くなっており、障害児では、「相談支援の充実」が46.1%で最も高くなっている。

### 生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策 <全体（身体、知的、精神、難病）>



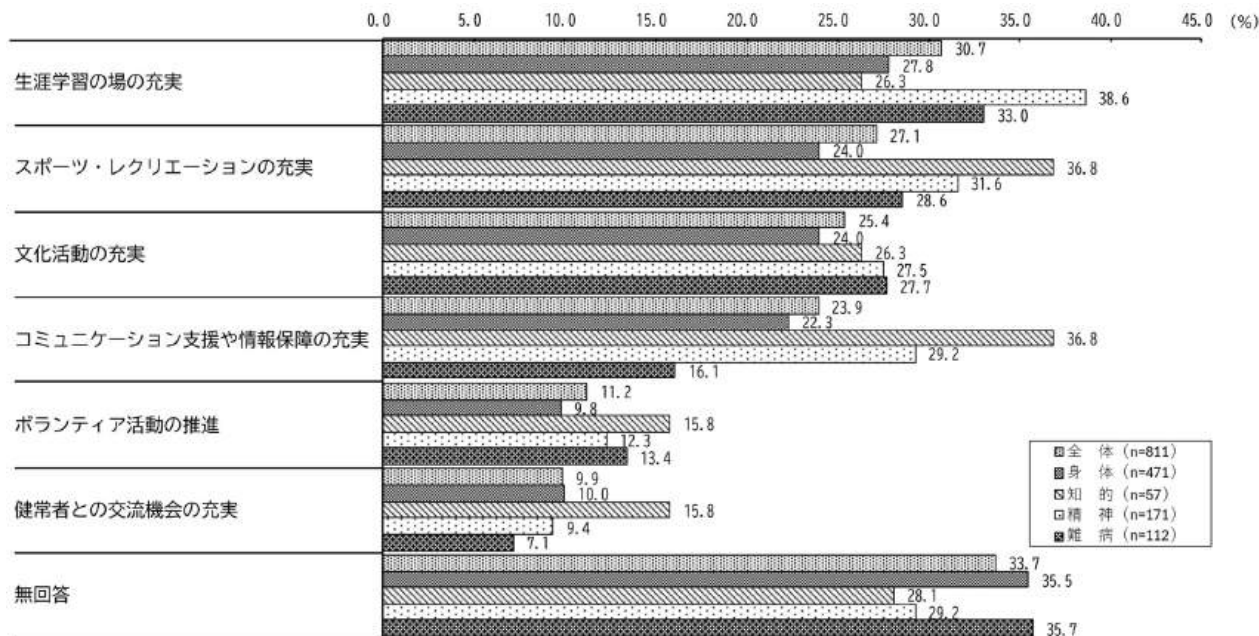
### 生活上のサービスについて特に力を入れてほしい施策 <障害児>



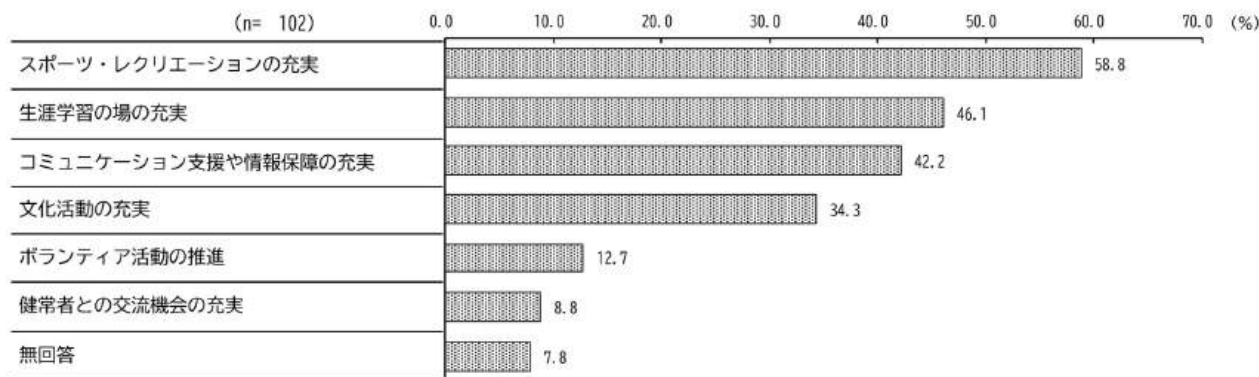
## (7) 余暇活動等について特に力を入れてほしい施策

余暇活動等について特に力を入れてほしい施策について、全体で見ると、「生涯学習の場の充実」が30.7%で最も高くなっており、障害児では、「スポーツ・レクリエーションの充実」が58.8%で最も高くなっている。

余暇活動等について特に力を入れてほしい施策 <全体（身体、知的、精神、難病）>



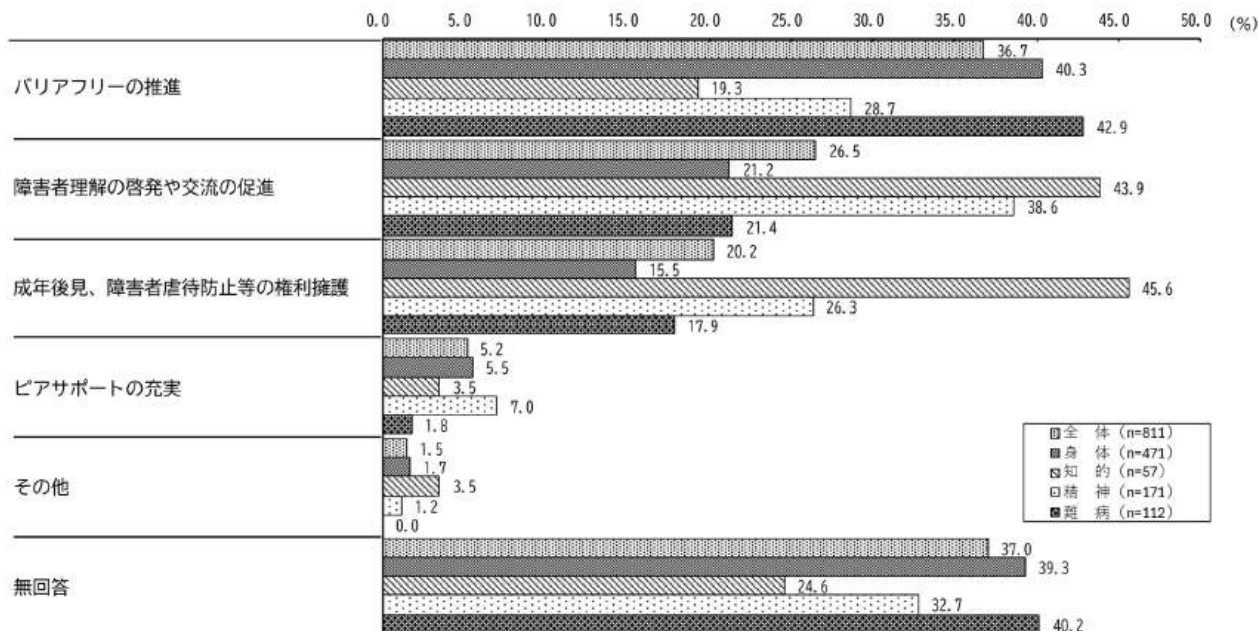
余暇活動等について特に力を入れてほしい施策 <障害児>



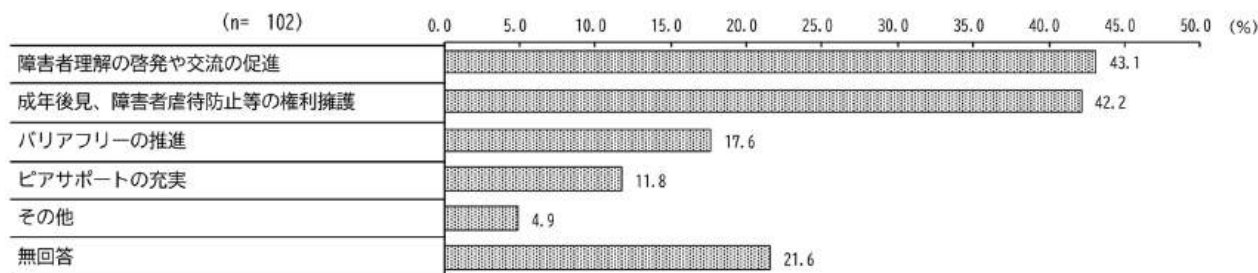
## (8) その他の特に力を入れてほしい施策

その他の特に力を入れてほしい施策について、全体でみると、「バリアフリーの推進」が36.7%で最も高くなっており、障害児では、「障害者理解の啓発や交流の促進」が43.1%で最も高くなっている。

その他の特に力を入れてほしい施策 <全体（身体、知的、精神、難病）>



その他の特に力を入れてほしい施策 <障害児>



## 12 特別設問（令和7年新設）

福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態は、全体・障害児ともに「紙のチケット」を好む傾向にあり、理由としては、全体では「紙のチケットに慣れているから」、障害児では「使い方がわかりやすく周囲のサポートを受けやすいから」がそれぞれ5割強となっている。

OriHime の認知度について、全体・障害児ともに「知らない」が6割越えとなっている。

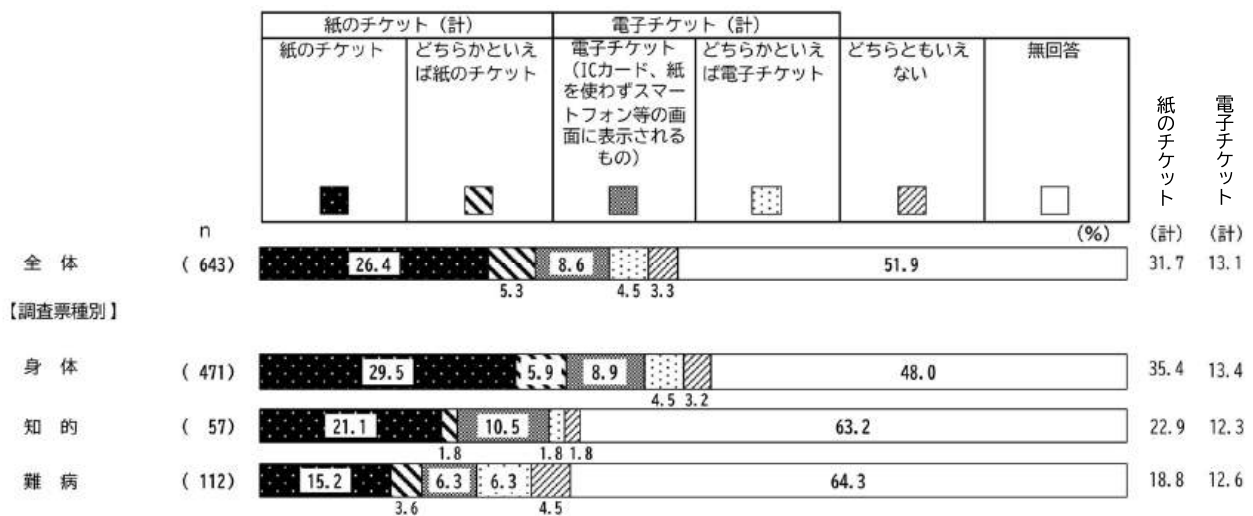
また、「良かったこと調査」の参加の有無について、「ない」が全体で7割半、障害児で8割半となっている。

### （1）福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態

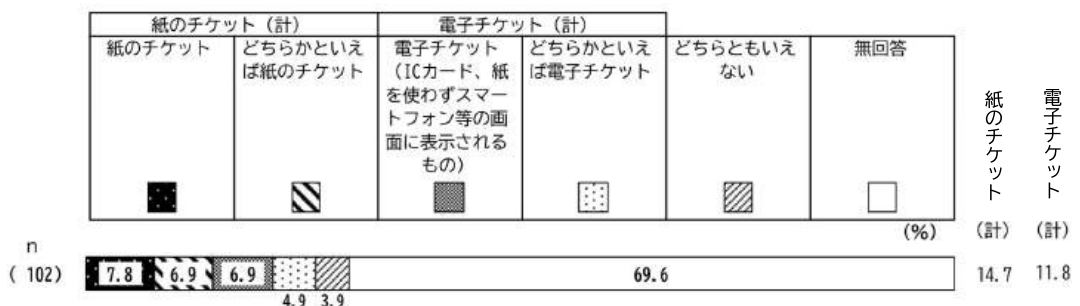
好む福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態について、全体で見ると「紙のチケット」が26.4%で最も高く、次いで「電子チケット（ICカード、紙を使わずスマートフォン等の画面に表示されるもの）」が8.6%となっており、『紙のチケット（計）』は31.7%、『電子チケット（計）』は13.1%となっている。

障害児では、「紙のチケット」が7.8%と最も高く、『紙のチケット（計）』が14.7%、『電子チケット（計）』が11.8%となっている。

福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態 <全体（身体、知的、難病）>



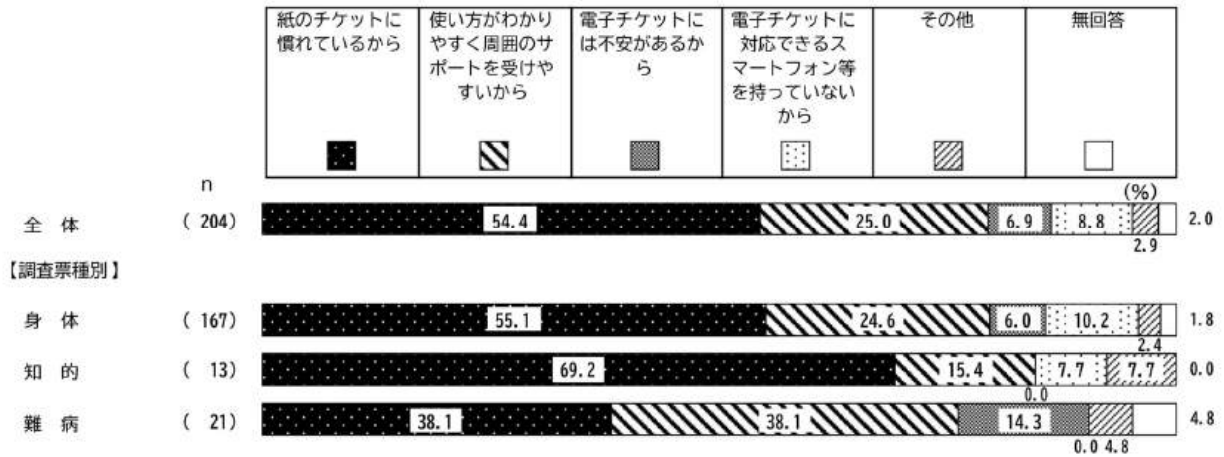
福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）の形態 <障害児>



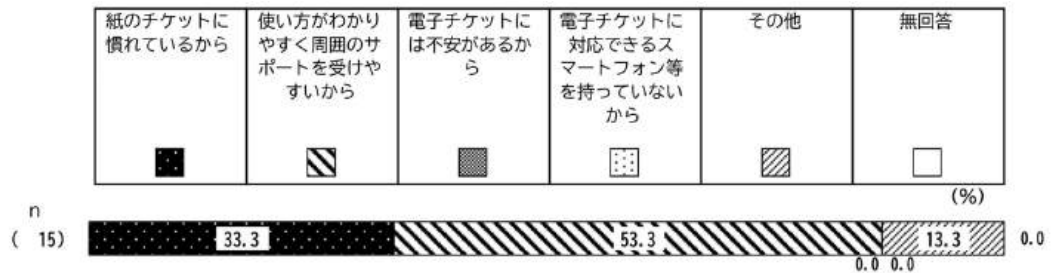
## (2) 紙の福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）を支持する理由

紙の福祉タクシー券（愛のタクシーチケット）を支持する理由について、全体で見ると、「紙のチケットに慣れているから」が54.4%と最も高くなっており、障害児では、「使い方がわかりやすく周囲のサポートを受けやすいから」が53.3%と最も高くなっている。

### 紙の福祉タクシー券を支持する理由 <全体（身体、知的、難病）>



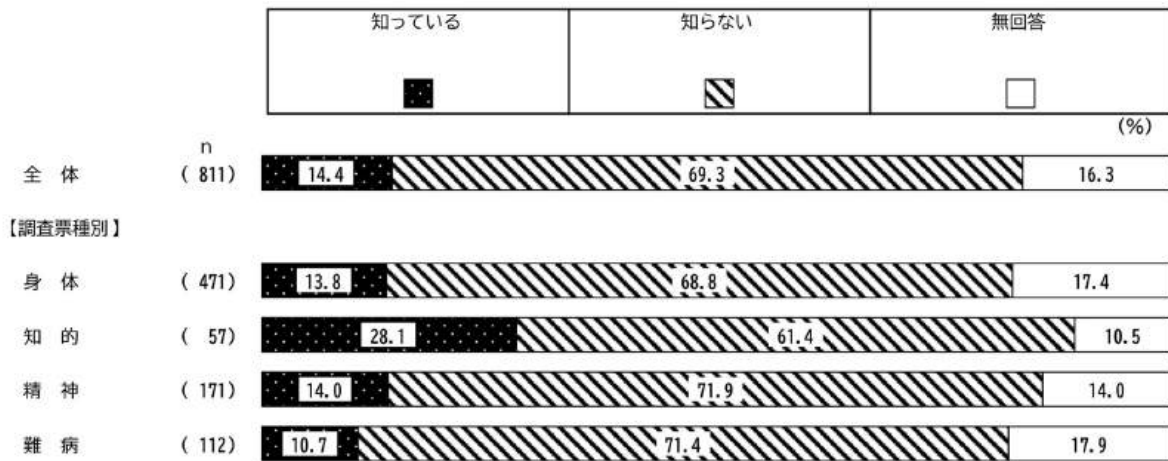
### 紙の福祉タクシー券を支持する理由 <障害児>



### (3) OriHime の認知度

OriHime の認知度について、全体でみると、「知らない」が 69.3%、「知っている」が 14.4%となっており、障害児では、「知らない」が 63.7%、「知っている」が 24.5%となっている。

#### OriHime の認知度 <全体（身体、知的、精神、難病）>



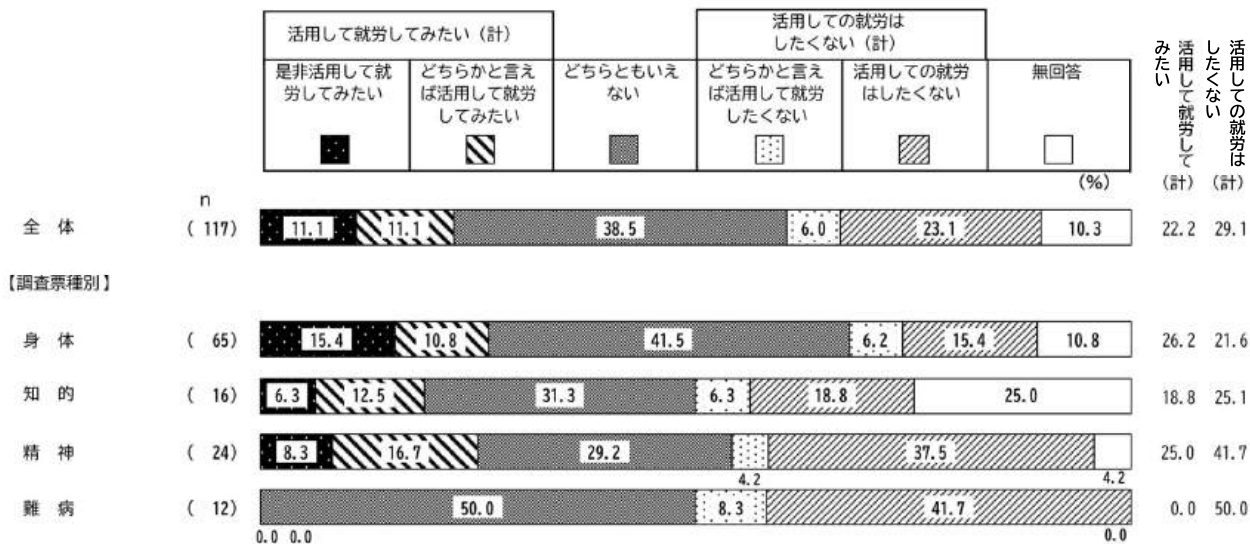
#### OriHime の認知度 <障害児>



#### (4) OriHime 活用希望の有無

OriHime 活用希望の有無について、全体でみると、「どちらともいえない」が 38.5%で最も高く、次いで「活用しての就労はしたくない」が 23.1%、「是非活用して就労してみたい」と「どちらかと言えば活用して就労してみたい」がそれぞれ 11.1%などとなっており、障害児では、「どちらともいえない」と「活用しての就労はしたくない」がそれぞれ 36.0%で最も高くなっている。

OriHime 活用希望の有無 <全体（身体、知的、精神、難病）>



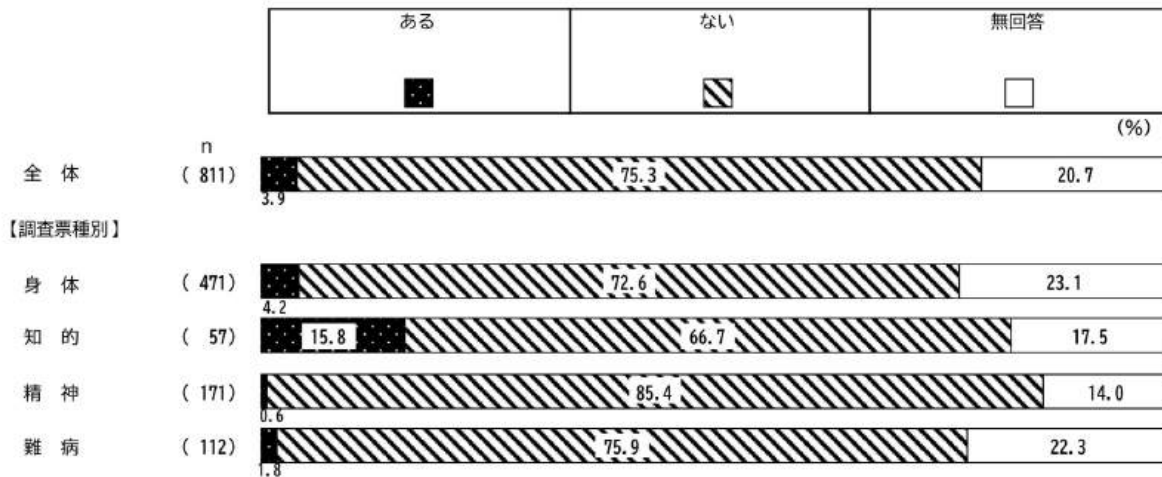
OriHime 活用希望の有無 <障害児>



(5) 「良かったこと調査」の参加の有無

「良かったこと調査」の参加の有無について、全体でみると、「ない」が75.3%、「ある」が3.9%となっており、障害児では、「ない」が85.3%、「ある」は6.9%となっている。

「良かったこと調査」の参加の有無 <全体（身体、知的、精神、難病）>



「良かったこと調査」の参加の有無 <障害児>



千代田区第8期障害福祉計画、第4期障害児  
福祉計画策定のためのアンケート調査  
報 告 書

令和7(2025)年9月

千代田区 保健福祉部 障害者福祉課

〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1  
電話：03-3264-2111（代表） F A X：03-3239-8606  
U R L：https://www.city.chiyoda.lg.jp